斎宮跡発掘調査報告Ⅱ

柳原区画の調査

出土遺物編

2019

斎宮歴史博物館

斎宮跡発掘調査報告Ⅱ

柳原区画の調査

出土遺物編

2019

斎宮歴史博物館

は じ め に

平成27年10月、史跡斎宮跡の多くの関係者が待望していた、平安時代の復元建物を中心とする史跡公園「さいくう平安の杜」が開園しました。この場所は、光仁天皇から桓武天皇の時代にかけて史跡東部で造営された方格地割のほぼ中央の「柳原区画」にあたり、史跡公園整備に先立っての発掘調査とその後の研究により、平安時代のほぼ全部の期間を通して斎宮の「寮庁」として機能したと考えられています。

斎宮歴史博物館は、平成25年度には、この柳原区画で確認された遺構について報告するとともに、この区画の変遷や性格について考察した『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査 遺構・遺構総括編』を刊行し、復元整備を行う柳原区画の検討結果を公開しておりますが、それに引き続き、今回はその出土遺物を報告する『出土遺物編』を刊行します。これにより、史跡整備にあわせて当館が進めた柳原区画の発掘調査報告が一応の完結を見ることになるとともに、本書にはあわせて史跡斎宮跡の遺構の年代決定や性格の考証に欠くことのできない、土器の編年の検討案を掲載しています。本書がこれからの斎宮跡の調査研究と保護に活かされることを切に願っています。

最後になりましたが、本報告書の刊行にあたりましては、平素から斎宮跡の調査研究に貴重なご指導をいただいております斎宮跡調査研究指導委員の諸先生方をはじめ、文化庁、明和町などの関係機関や、斎宮跡の発掘調査にご理解とご協力をいただいております地元関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

平成31年３月

斎宮歴史博物館
館 長 明 石 典 男

凡　　例

1　本書は、三重県教育委員会が昭和43年度から平成19年度まで、三重県が平成20年度から平成30年度まで文化庁からの国庫補助等を受けて実施した史跡斎宮跡の発掘調査の中で、平成22年度から実施している斎宮跡史跡東部整備事業の主たる事業地である方格地割内の方形区画のひとつである柳原区画の調査成果のうち、出土遺物について総括したものである。

2　斎宮跡の方格地割における各区画の名称については、現在の小字名に基づく名称を採用している。

3　遺構の時期区分の指標となる出土土器の分類と時期については、「斎宮跡の土器」(『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館 2001)を踏まえつつ、本書第３章に掲載した最新の編年研究の成果を用いている。

4　本書に関連する遺構表示記号は次のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物　　ＳＤ：溝　　ＳＥ：井戸　　ＳＨ：竪穴建物　　ＳＫ：土坑

5　遺物の漢字表記については、材質の違いによる漢字の偏に必ずしも従うことなく、「わん」は「椀」、「つき」は「杯」を用いている。ただし参考文献からの引用の場合にはこの限りではない。

6　遺物実測図は1/4を基本とし、一部については1/6や1/2を用いた。

7　本書の執筆は、斎宮歴史博物館調査研究課の大川勝宏が行った。なお、刊行に向けての出土遺物の整理作業や図版作成にあたり、下記の協力を受けた。

斎宮歴史博物館業務補助職員

八木光代・水木夏美・大橋由紀・杉原泰子・西村秋子・山本達也・西川千晶・森本周子

8　本書の執筆にあたっては、「史跡斎宮跡調査研究指導委員会」の指導・助言を受けている。また、本書執筆のための検討には下記の協力・補佐を得た（敬称略)。

山中由紀子・川部浩司・宮原佑治・榎村寛之・泉　雄二・竹内英昭

目　　次

第１章　序　言
　第１節　刊行の方針……1
　第２節　刊行に向けての体制　……2
第２章　柳原区画の出土遺物
　第１節　建物遺構出土の遺物　……3
　第２節　土坑・井戸・溝の出土遺物　……5
　第３節　柳原区画を特徴づける遺物　……23
第３章　斎宮跡の土器編年の再検討
　第１節　斎宮跡の土器編年の再検討　……46
　第２節　土師器供膳具を中心とした斎宮跡の土器の変遷　……49
第４章　遺物編総括
　第１節　出土土器群からみる柳原区画　……73
　第２節　柳原区画を特徴づけるの遺物からみた柳原区画の性格　……74

表　目　次

第１表　斎宮跡調査研究指導委員会委員一覧　……2
第２表　出土遺物観察表（１）……29
第３表　出土遺物観察表（２）……30
第４表　出土遺物観察表（３）……31
第５表　出土遺物観察表（４）……32
第６表　出土遺物観察表（５）……33
第７表　出土遺物観察表（６）……34
第８表　出土遺物観察表（７）……35
第９表　出土遺物観察表（８）……36
第10表　出土遺物観察表（９）……37
第11表　出土遺物観察表（10）……38
第12表　出土遺物観察表（11）……39
第13表　出土遺物観察表（12）……40
第14表　出土遺物観察表（13）……41
第15表　出土遺物観察表（14）……42
第16表　出土遺物観察表（15）……43
第17表　出土遺物観察表（16）……44
第18表　出土遺物観察表（17）……45
第19表　土師器供膳具（杯Ｇ、杯Ａ・Ｄ・中世皿）の径高指数の変遷　……47
第20表　斎宮跡出土土器編年表　……48・49
第21表　斎宮跡出土土師器・黒色土器類・ロクロ土師器の器種消長表　……69
第22表　「2000年編年」と今回試案の比較　……70

挿 図 目 次

第１図　柳原区画及び周辺の調査区位置図 …… 3
第２図　建物遺構出土の遺物 …… 4
第３図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（１） …… 6
第４図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（２） …… 7
第５図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（３） …… 8
第６図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（４） …… 9
第７図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（１） …… 11
第８図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（２） …… 12
第９図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（３） …… 13
第10図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（４） …… 14
第11図　斎宮Ⅱ－３・４期の遺構出土遺物 …… 15
第12図　斎宮Ⅲ－１～３期の遺構出土遺物 …… 17
第13図　斎宮Ⅲ－３期の遺構出土遺物 …… 18
第14図　斎宮Ⅲ－４期の遺構出土遺物（１） …… 19
第15図　斎宮Ⅲ－４期の遺構出土遺物（２） …… 20
第16図　斎宮Ⅲ－４期の遺構出土遺物（３） …… 21
第17図　斎宮Ⅲ－３期・Ⅳ－１期の遺構出土遺物 …… 22
第18図　緑釉陶器・貿易陶磁・硯・製塩土器・小型模造品 …… 24
第19図　墨書土器 …… 26
第20図　刻書土器 …… 28
第21図　金属製品・金属関連遺物・石製品 …… 29
第22図　土師器供膳具の段階と変遷（１） …… 60
第23図　土師器供膳具の段階と変遷（２） …… 61
第24図　土師器供膳具の段階と変遷（３） …… 62
第25図　土師器供膳具の段階と変遷（４） …… 63
第26図　ロクロ土師器の段階と変遷 …… 64
第27図　黒色土器・京都系土師器の段階と変遷 …… 65
第28図　共伴する須恵器・灰釉陶器類（１） …… 66
第29図　共伴する須恵器・灰釉陶器類（２） …… 67
第30図　編年比較資料 …… 68

写真図版目次

ＰＬ１　柳原区画出土遺物（１） …… 75
ＰＬ２　柳原区画出土遺物（２） …… 76
ＰＬ３　柳原区画出土遺物（３） …… 77

第１章　序　　言

第１節　刊行の方針

本書は、史跡斎宮跡東部の柳原区画からの出土遺物を総括的に報告するものであり、平成25年度に刊行した『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ　柳原区画の調査　遺構・遺構総括編』（以後『遺構編』という）と組になるものである。柳原区画については、すでに『遺構編』の中で、出土遺物の状況も踏まえて、８世紀末からの方格地割の整備後、９世紀前葉以降の斎宮の機構改革により、「斎宮寮庁」の中でも四面庇付建物（正殿）を中心とした斎宮寮の儀礼の場として再整備されたと考え、その後平安時代を通じて「斎宮寮庁」として継続的に機能したとの性格づけを行っている。

本書は、柳原区画の出土遺物の中で、こうした柳原区画の性格や変遷を示す資料を報告するものである。平成12(2000)年度に刊行した『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（以下『報告Ⅰ』という）で編年基準資料として報告された第20次調査のＳＫ1045とＳＫ1074の出土遺物は、これまでの未報告資料を追加して再掲した。その他、各調査概要報告に掲載済みでも区画の性格を検討する上で必要と判断した遺物を掲載した他は、重複を省くために未報告資料の紹介に重点を置き、各年度の概要報告に既に報告された遺物は省略した。

一方、『遺構編』の刊行後、すでに４年が経過し、斎宮跡の研究、とりわけ研究の基盤となる斎宮跡出土土器類の編年についての整理・検討が進められている。その詳細は第３章に記載しているが、今回の『出土遺物編』を刊行する上で生じた『遺構編』との相違点について下記のとおり明記しておく。

【斎宮跡第Ⅰ期第４段階から第Ⅱ期第１段階の整理】

奈良時代末葉から長岡京期頃にあたるものとして『報告Ⅰ』に掲載された土器編年案（以下「2000年編年」という）では、第Ⅰ期第４段階が設定されていた（以下、記述の煩雑さを避けるために、各段階を「Ⅰ－４期」「Ⅱ－３期」等と表現する）。しかし、本書第３章に示す再検討では、「2000年編年」以後の出土資料を含めてもⅠ－４期を様式内の一段階として純粋に抽出できないため、Ⅱ－１期の古い段階に統合して整理した。そのため、『遺構編』でⅠ－４期とした遺構については、Ⅱ－１期の古相、おおむね長岡京期と重複するものとして捉え直している。

【斎宮跡第Ⅳ期の整理】

「2000年編年」では、平安時代後期後葉から末葉にあたるⅢ－３期までの記述にとどまっていた。しかし、その後にⅢ－４期が提唱されたこと[(1)]や、南北朝期まで存続したとされる斎宮の実態解明には、第Ⅲ期以降の鎌倉時代に相当する時期についても、今後は取り上げていく必要があることから、第Ⅳ期以降を設定して記載した。

【各段階の細分】

今回の編年案では、試論として第Ⅰ期から第Ⅲ期までの各期をおおよそ十数年から二十五年程度の期間に細分しており、本書で紹介する土器・陶磁器についても可能な限りこの細分に準じた記述を行った。

第２節　刊行に向けての体制

平成25年度の『遺構編』以後の刊行の体制は下記の通りである。

【平成26年度】

館長　伊藤久美子　　調査研究課　大川勝宏・穂積裕昌・新名強・伊藤文彦

【平成27年度】

館長　濱口尚紀　　調査研究課　大川勝宏・穂積裕昌・伊藤文彦・宮原佑治

【平成28年度】

館長　濱口尚紀　　調査研究課　大川勝宏・穂積裕昌・伊藤文彦・宮原佑治

【平成29年度】

館長　明石典男　　調査研究課　大川勝宏・穂積裕昌・川部浩司・宮原佑治

【平成30年度】

館長　明石典男　　調査研究課　大川勝宏・山中由紀子・川部浩司・宮原佑治

また、本書の刊行にいたるまで、下記の斎宮跡調査研究指導委員会の各委員から、斎宮跡調査研究に関する指導・助言を受けている。

氏　　名	分　　野	職　　名	在任期間
◎渡辺　　寛	古代史	皇學館大学名誉教授	S54年度～H10年度、H13年度～
◎八賀　　晋	考古学	三重大学名誉教授	H2年度～H27年度
鈴木　嘉吉	建築史	元奈良国立文化財研究所所長	H5年度～H27年度
所　　京子	国文学	聖徳学園女子短期大学教授	H7年度～H27年度
佐々木恵介	古代史	聖心女子大学教授	H7年度～
金田　章裕	歴史地理学	京都大学名誉教授	H16年度～
増渕　　徹	古代史	京都橘大学教授	H18年度～
浅野　　聡	都市工学	三重大学大学院准教授	H20年度～
綿貫　友子	中世史	神戸大学大学院教授	H22年度～
稲葉　信子	文化遺産	筑波大学大学院教授	H24年度～
松村　恵司	考古学	独)奈良文化財研究所所長	H24年度～
黒田　龍二	建築史	神戸大学大学院教授	H28年度～
本橋　裕美	国文学	愛知県立大学准教授	H28年度～
小澤　　毅	考古学	三重大学教授	H28年度～
京樂真帆子	女性史	滋賀県立大学教授	H30年度～

第１表　斎宮跡調査研究指導委員会委員一覧

（平成26年度以降在任の委員に限る　◎は委員長、座長経験者を表す）

註

(1)「Ⅱ　第143次調査」『史跡斎宮跡平成16年度発掘調査概報』斎宮歴史博物館 2006

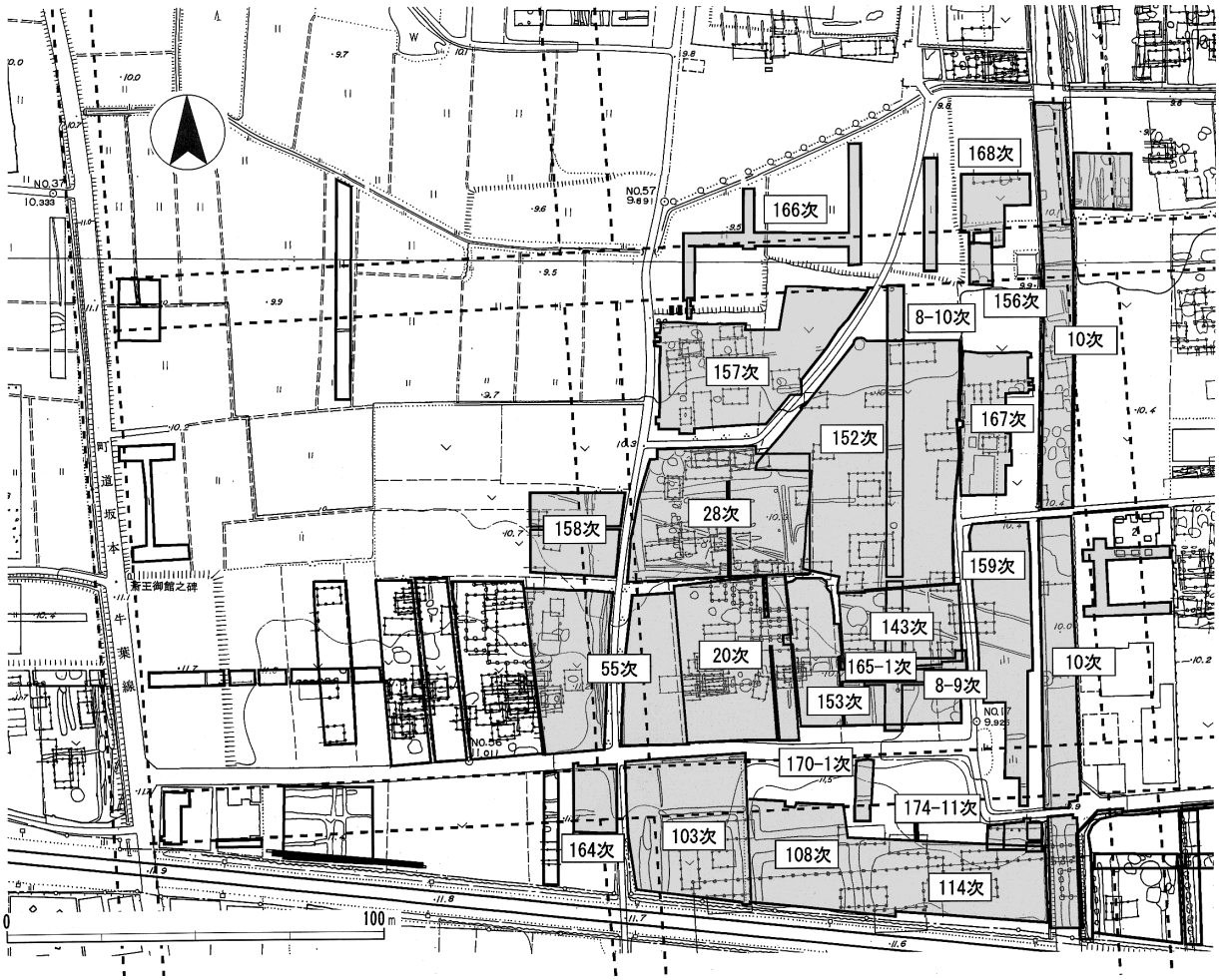
第２章　柳原区画の出土遺物

第１節　建物遺構出土の遺物

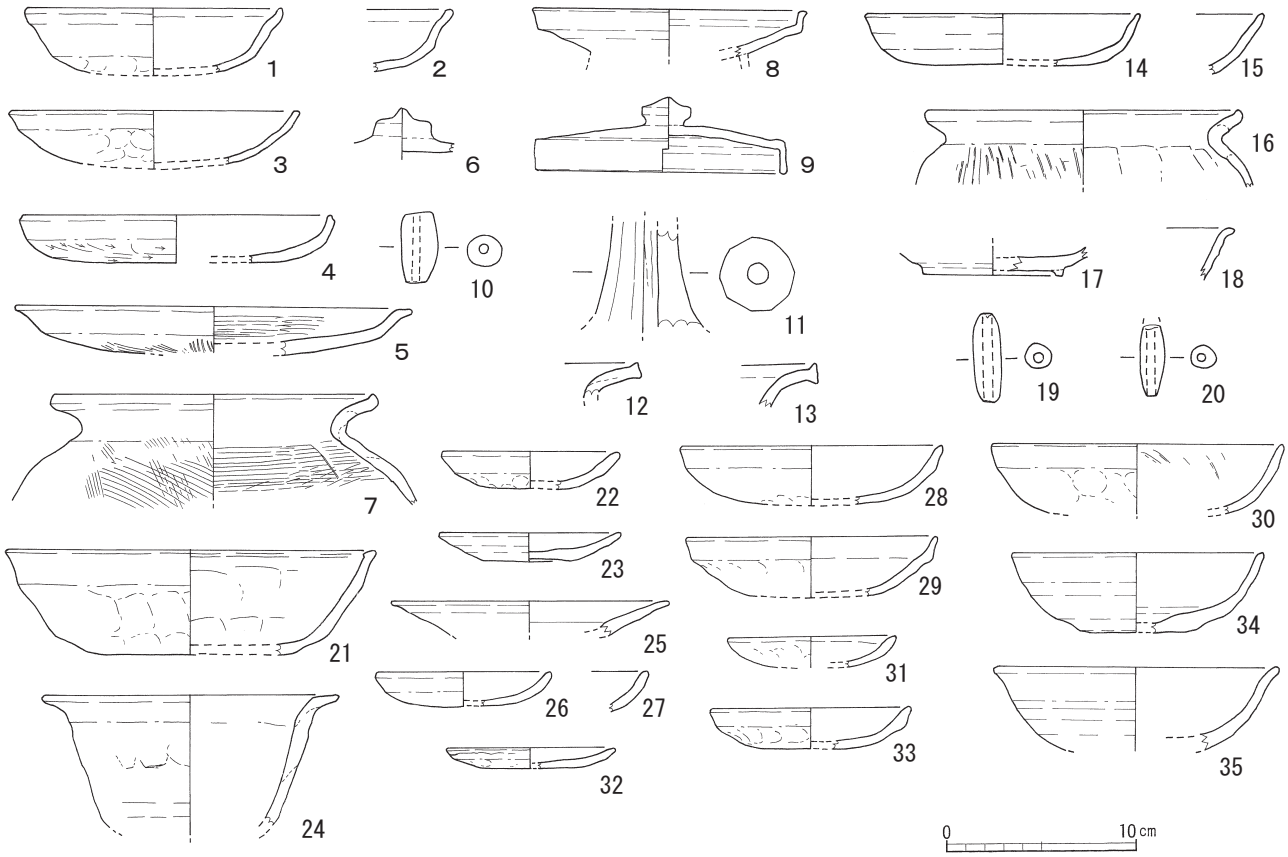
柳原区画は、既に刊行している『遺構編』において、Ｂ期とした９世紀前葉以降、四面庇付建物を正殿とし、その後の平安時代のほぼ全期を通じて、斎宮寮の「寮庁」として儀礼や饗応の場としての機能を有してきたと総括している。

本節では、「寮庁」の中枢を構成した主要な建物の柱穴から出土した遺物を紹介し、それぞれの時期決定の根拠を示したい。なお、土器類の編年的区分は本書第３章を、各調査次の位置関係等は、第１図を参照されたい。

ＳＢ1080出土遺物（1～10）　第20・153次調査で検出した、Ｂ期の西脇殿となる三面庇付建物の柱穴からの出土遺物である。ＳＢ1080は大部分が第20次に含まれ、柱穴掘形と柱痕跡の峻別が困難な上、柱穴埋土の重複関係や柱穴の底部の形状から、最低でも２回の建て替えを想定している。出土遺物は、土師器杯Ａ(1・2)や土師器皿Ａ１(4)はⅡ－１期新相頃の型式で、須恵器盤(8)や薬壺蓋(9)は、猿投窯の折戸10号窯式期頃のものとみられる。[1] 一方、土師器椀Ａ２(3)は、Ⅱ－３期の比較的新しい段階のものとみられる。土師器甕Ａ(7)も、口縁端部を内側に巻き込む型式で、(3)と同時期のものと考えられる。こ



第１図　柳原区画及び周辺の調査区位置図（1：2,000）



第２図　建物遺構出土の遺物（１：４）

ＳＢ1080(1～10)・ＳＢ9003(11～13)・ＳＢ9750(14～20)・ＳＢ9751(21～25・32)・ＳＢ9752(26・27)・ＳＢ9753(28～31・33～35)

れらはＳＢ1080建て替えの下限を示す遺物であろう。その他、Ⅱ－１期中相のＳＨ9001から大量に出土した土錘が、ＳＢ1080の柱穴にも混入している（10)。

ＳＢ9003出土遺物(11～13)　第143・165-1次調査で検出した、Ｂ期の東脇殿となる東面庇付建物の柱穴出土遺物で、出土量は少ない。かろうじて図示可能な土師器高杯(11)・甕(12)と須恵器広口壺(13)を示した。高杯は脚部のみだが10面の面取りがあり、脚高も低いもので、Ⅱ－１期の範疇に収まるものと推定する。

ＳＢ9750出土遺物(14～20)　第152次調査で検出した、Ｃ期の正殿となる四面庇付建物の柱穴から出土した遺物で、土師器杯(14・15)・甕Ａ(16)、灰釉陶器椀(17・18)、土錘(19・20)がある。灰釉陶器は角高台の椀など黒笹14号窯式期のものとみられ、Ｃ期は承和六(839)年以降に、度会郡の離宮院に移転した斎宮が再び多気郡に戻された段階と想定しており、年代観上の齟齬はないとみられる。

ＳＢ9751出土遺物(21～25・32)　第152次調査で検出した、Ｅ期の正殿となる四面庇付建物の柱穴から出土した遺物で、土師器椀Ｃ(21)・皿Ｄ(22・32)・鉢(24)、ロクロ土師器小皿(23)、灰釉陶器段皿(25)がある。(21・22)はⅢ－１期の範疇に収まるものである。(25)は黒笹90号窯式から折戸53号窯式にかけてのものだろうか。なお、(24)はにぶい黄橙色で被熱痕があり、あまり類例のない器種である。

ＳＢ9752出土遺物(26・27)　第152次調査で検出した、Ｆ期の正殿となる四面庇付建物の柱穴から出土

した遺物で、図化できるものは少ない。土師器皿Ｄ(26・27)はいずれもⅢ－１期新相からⅢ－２期頃のものとみられる。

ＳＢ9753出土遺物(28～31・33～35)　第152次調査で検出した、Ｇ期の正殿となる、５間×２間の東西棟の柱穴から出土した遺物で、土師器杯Ｄ(28・29)・皿Ｄ(31・33)・椀Ｃ(30)、ロクロ土師器杯(34)、無釉陶器椀(山茶椀)(35)を図示した。(28・29)はⅢ－３期の範疇のもので、(35)は第３型式の初期山茶椀であろう。

なお、Ｂ期正殿のＳＢ9800の時期決定にかかる遺物は第２節(１)を参照されたい。

第２節　土坑・井戸・溝の出土遺物

（１）斎宮Ⅱ期の遺構出土遺物

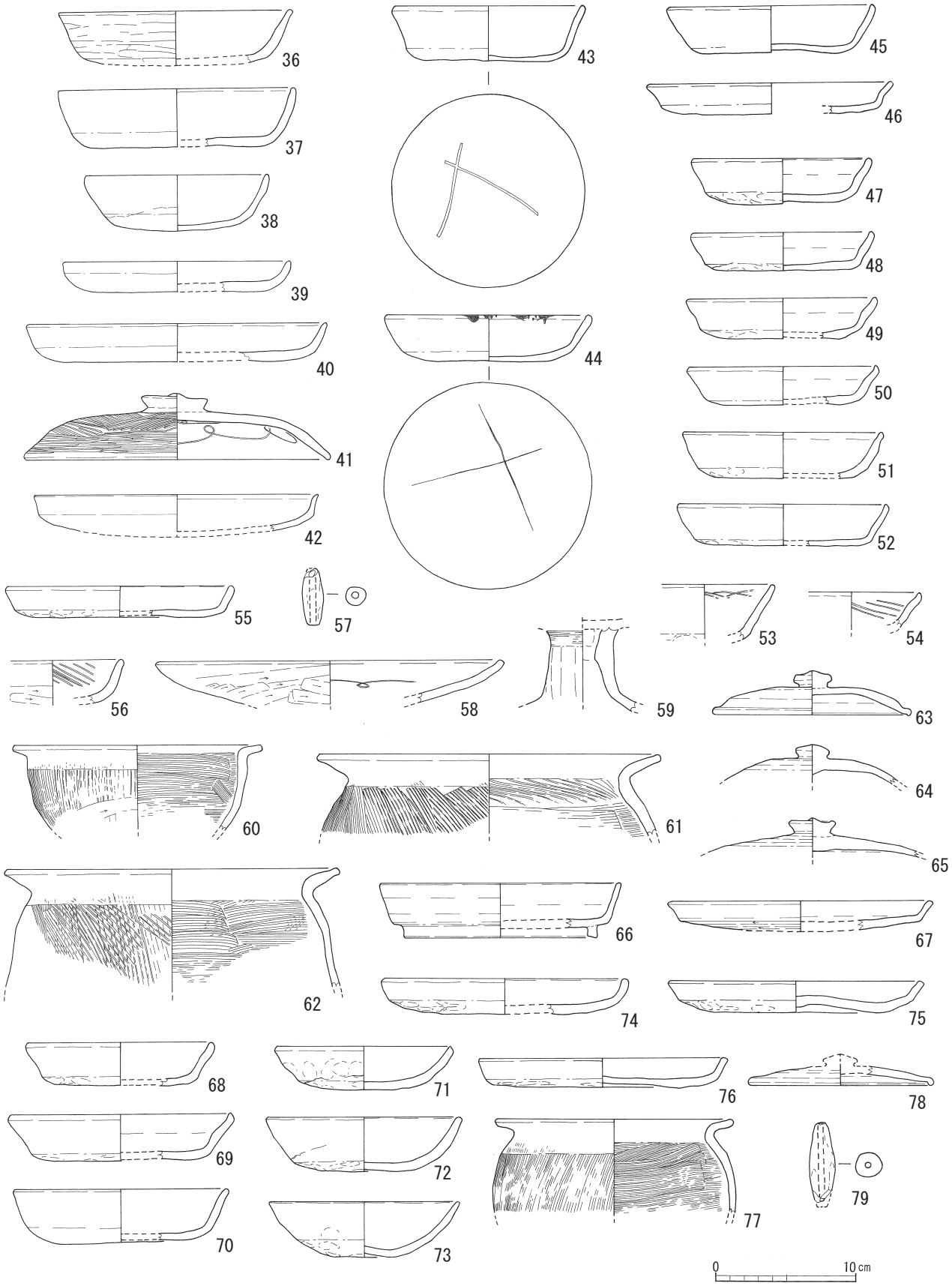
ＳＫ0541出土遺物(36～42)　第10次調査で検出した、柳原区画北東隅に位置する4.2m×3.0m、深さ0.15mの方形の土坑である。土師器杯・蓋・高杯・鍋・甕、須恵器蓋・盤・甕が出土している。土師器杯Ａ(36・37)・杯Ｇ(38)・皿Ａ１(39・40)・蓋(41)、須恵器無台盤(42)を図示した。(36)は外面を全面ヘラケズリしているが、(37・39・40)は口縁部全体をヨコナデ調整しており、新しい要素を持っている。共伴する(42)は鳴海32号窯などに比較的近い形態を見出すことができる。本遺構は『遺構編』ではⅠ－４期としていたが、本書第３章に示すとおり、Ⅰ－４期はⅡ－１期に統合するので、あらためてⅡ－１期古相に属するものと位置づけたい。

ＳＥ0276出土遺物(43～46)　第8-10次調査で柳原区画の中央部南寄りで検出し、約２mの深さまで調査されたのち、第152次調査で底まで完掘した井戸で、遺構検出面で直径約２mの不整円形、深さ0.3m以下で直径1.2mの円形となる。検出面からの深さは4.35mである。第152次調査で底部まで確認した際にはⅡ－１期の土師器杯Ａ・皿Ａ・甕などの小片のみの出土だったが、第8-9次調査では図示した土師器杯Ａ(43～45)・皿Ａ２(46)の完形に近い資料が出土している。(43～45)はいずれも底部から口縁部の立ち上がりが強く、口縁部をヨコナデ調整、底部をナデ調整している。『遺構編』ではⅠ－４期に分類したが、あらためてⅡ－１期古相のものと位置づけたい。なお、(43・44)は底部外面に「×」字状の焼成後の線刻がある。

ＳＫ1079出土遺物(47～67)　第20次調査で検出した、柳原区画南西部に位置する東西5.3m、南北4.1m、深さ0.4mの大型の土坑だが、複数の土坑が重複している可能性がある。土師器杯Ａ(47～54)・皿Ａ(55・56)・高杯(58・59)・鉢(60)・甕Ｃ(61・62)、須恵器蓋(63～65)・杯Ｂ(66)・無台盤(67)、土錘(57)を図示した。土師器杯Ａは、すべて口縁部がヨコナデ調整でやや外傾し、底部はナデ調整する。(53・54)は内面に放射状暗文・螺旋状暗文を施している。鉢(60)は体部外面下半をヘラケズリで成形し、底部が残存しないが平底の鉢になるものだろう。須恵器は、蓋(63)などの形態から折戸10号窯式に相当するものとみられ、土師器の形態とあわせてⅡ－１期中相のものと考えられる。

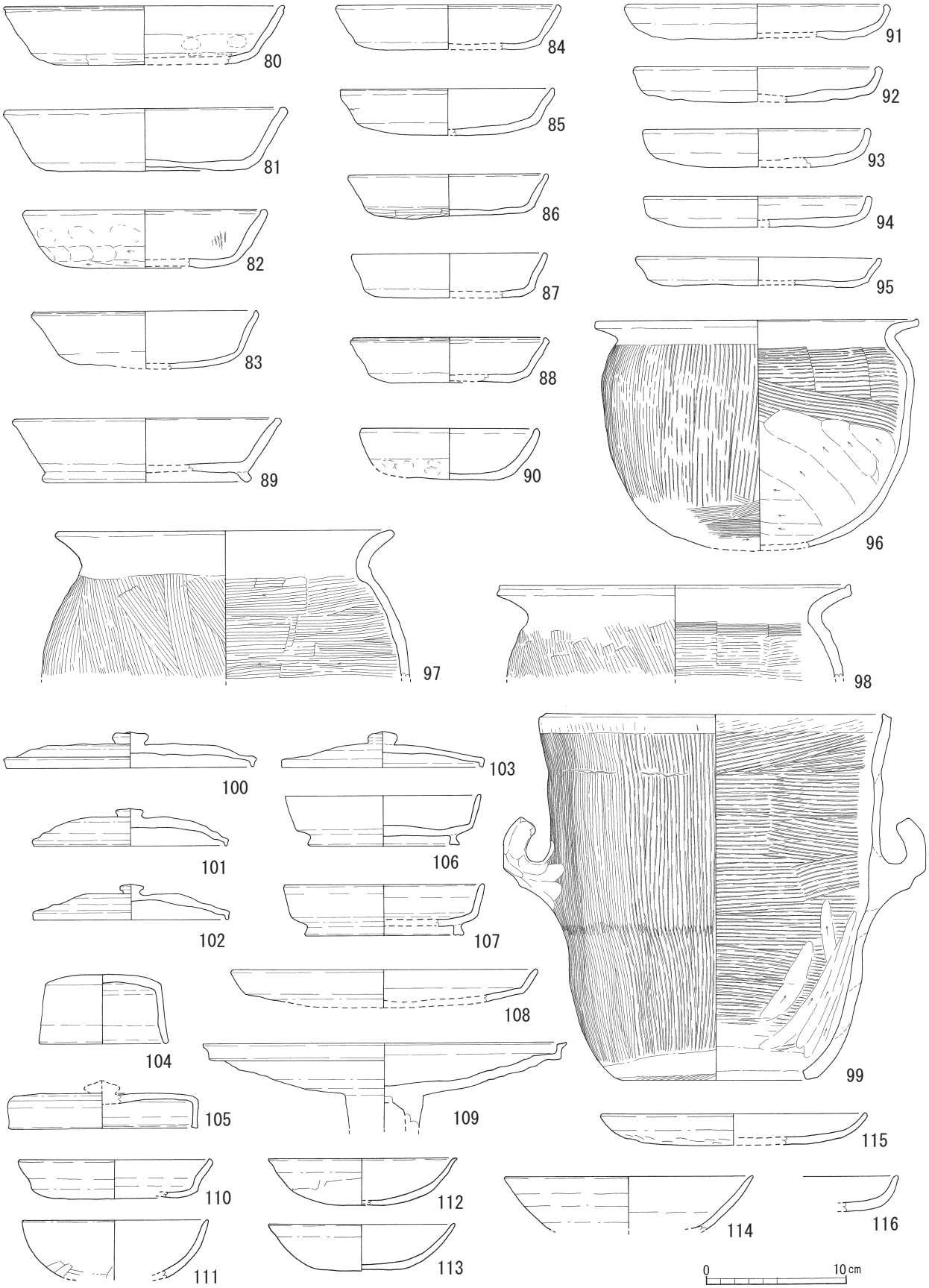
ＳＫ1377出土遺物(68～79)　第28次調査の南端で検出した、柳原区画南西部に位置する南北2.6m、東西1.8m、深さ0.3mの土坑である。土師器杯Ａ(68～70)・椀Ａ２(71～73)・皿Ａ(74～76)・甕Ａ(77)、須恵器蓋(78)、土錘(79)を図示した。いずれもⅡ－１期中相頃のものと考えられる。これら土器類の他、鉄製刀子の残欠が出土している。

ＳＫ1291出土遺物(80～109)　第28次調査区の南端で検出した、東西約6m、南北5.7m、深さ0.25mの不整円形の大型土坑である。遺構の形状からみて複数の遺構が重複している可能性がある。整理箱２箱

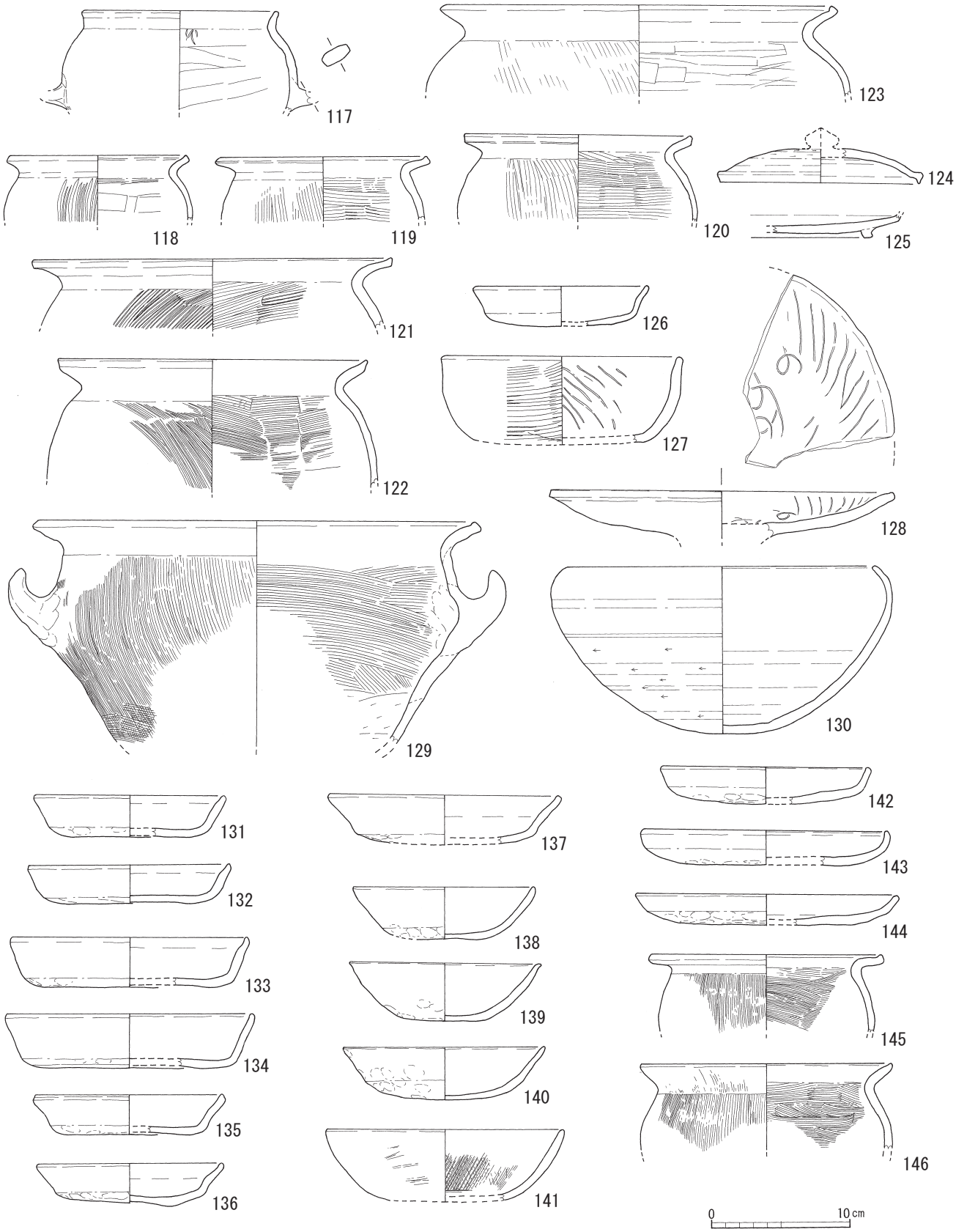


第３図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（１）（１：４）

ＳＫ0541(36～42)・ＳＥ0276(43～46)・ＳＫ1079(47～67)・ＳＫ1377(68～79)

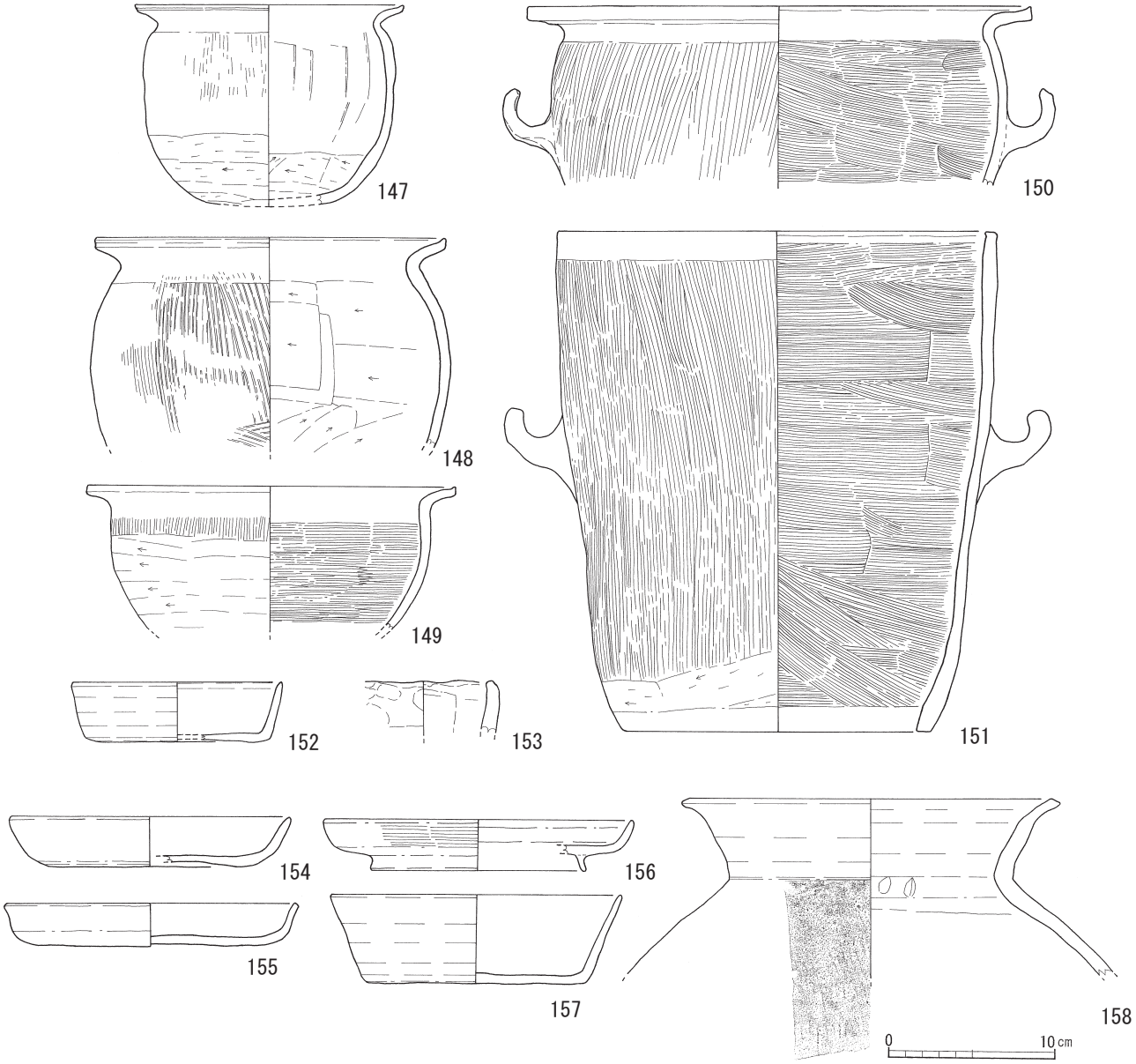


第４図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（２）（１：４）　ＳＫ1291(80～109)・ＳＤ0535(110～116)



第５図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（３）（１：４）

ＳＤ0535(117～125)・ＳＤ0530(126～130)・ＳＫ0557(131～146)



第６図　斎宮Ⅱ－１期の遺構出土遺物（４）（１：４）　ＳＫ0557(147～153)・ＳＤ9046(154～158)

分の土器が出土しており、土師器杯Ａ(80～88)・杯Ｂ(89)・杯Ｇ(90)・皿Ａ(91～95)・甕Ａ(96～98)・甑(99)、須恵器蓋(100～103)・双耳瓶蓋(104)・薬壺蓋(105)・杯Ｂ(106・107)・盤(108)・高杯(109)を図示した。土師器杯Ａは、口径16～20cmで器高が4cm以上の大型品(80～83)と、器高が3.5cm以下で口径14～16cmの小型品(84～88)があり、さらに(80・82・86)のように底部をヘラケズリで調整するものと、(81・83～85・87・88)のようにナデ調整するものが混在する。『遺構編』ではＩ－４期としたが、土師器杯の形状からあらためてⅡ－１期の古～中相の土器群と位置づけたい。須恵器は鳴海32号窯式から折戸10号窯式にかけてのものが混在しているようである。

ＳＤ0535出土遺物(110～125)　柳原区画の北東隅交差点となる区画道路の西側溝となる南北溝で、幅1.3m、深さ0.4mの断面が逆台形の溝である。整理箱で1.5箱分の土器類が出土している。土師器杯Ａ(110)・椀Ａ(111～113)・椀Ｂ(114)・皿Ａ(115・116)・薬壺(117)・甕Ａ(118～120・122)・甕Ｃ(121)・

鍋Ａ(123)、須恵器蓋(124)・杯Ｂ(125)を図示した。(112・113)のような土師器椀Ａ２はⅡ－１期古相から出現し、中相になって定着する新器種で、長岡京期に併行して成立すると考えられている。土師器皿(115)の器高が減じ低平化が進んでいることから、Ⅱ－１期の古相から新相までの土器が混在していると考えられる。

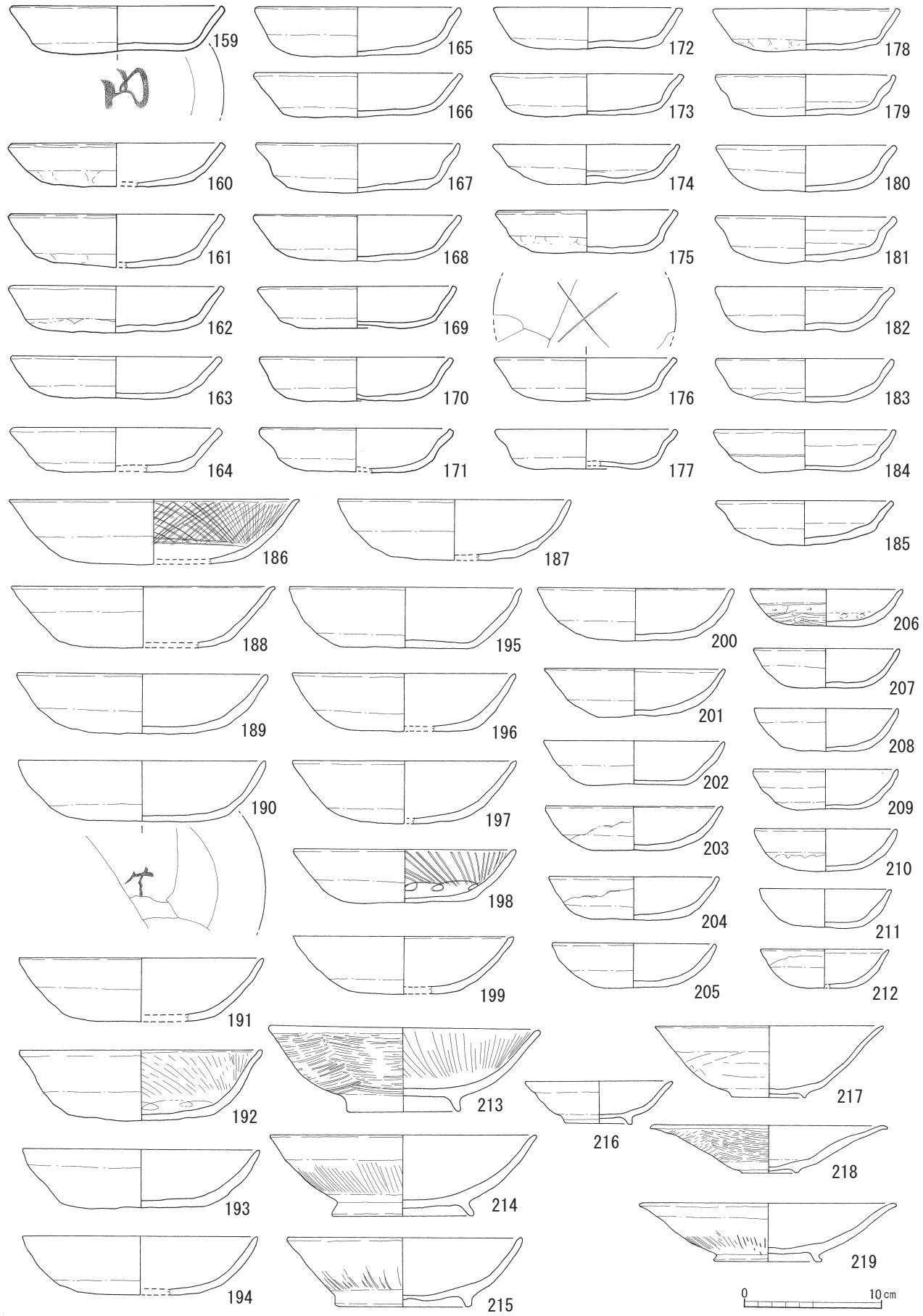
ＳＤ0530出土遺物(126～130)　ＳＤ0535と同様、柳原区画の北東隅交差点部分の、区画道路の南側溝になる東西溝で、幅1.2～1.7m、深さ0.4～0.5mの断面が逆台形の溝である。整理箱で0.5箱分の土器類が出土した。土師器杯Ａ(126)はⅡ－１期新相の形態だが、(130)はいわゆる鉄鉢形で、奈良時代後期にまで遡りうる形態である。[(2)] ＳＤ0530全体ではＳＤ0535同様、Ⅱ－１期の古相から新相までの時間幅が考えられる。(130)については、出土状況を示す記録はないが、ほぼ完形で、溝の遺構内に溝とは別の埋納のための掘形などは調査写真から看取できないため、溝そのものに伴うとみられ、意図的な埋納が考えられる。[(3)]

ＳＫ0557出土遺物(131～153)　第10次調査で検出した、柳原区画東辺のほぼ中央に位置する、南北4.3m、深さ0.2mで、東辺は調査区外に続くものの、東西も南北とほぼ同規模の方形とみられる土坑である。竪穴建物の可能性もあるが、『遺構編』では土坑と分類した。整理箱で1.5箱分の土器類が出土している。土師器杯Ａ(131～137)・椀Ａ２(138～140)・椀Ａ１(141)・皿Ａ(142～144)・甕Ａ(145～148)・鉢(149)・鍋Ｂ(150)・甑(151)、須恵器杯Ａ(152)、志摩式製塩土器(153)を図示した。その他には、土師器椀Ｂ・高杯、須恵器蓋・盤・甕・壺がある。土師器杯Ａは、口縁部の立ち上がりが強く、底部をヘラケズリするような(133・134)や、器壁が薄くなり口縁部の外傾化が進む(135～137)と、その中間的な(131・132)が混在する。須恵器杯Ａ(152)は折戸10号窯式期のものだろうか。出土土器はⅡ－１期の古相から新相までを含むとみられる。

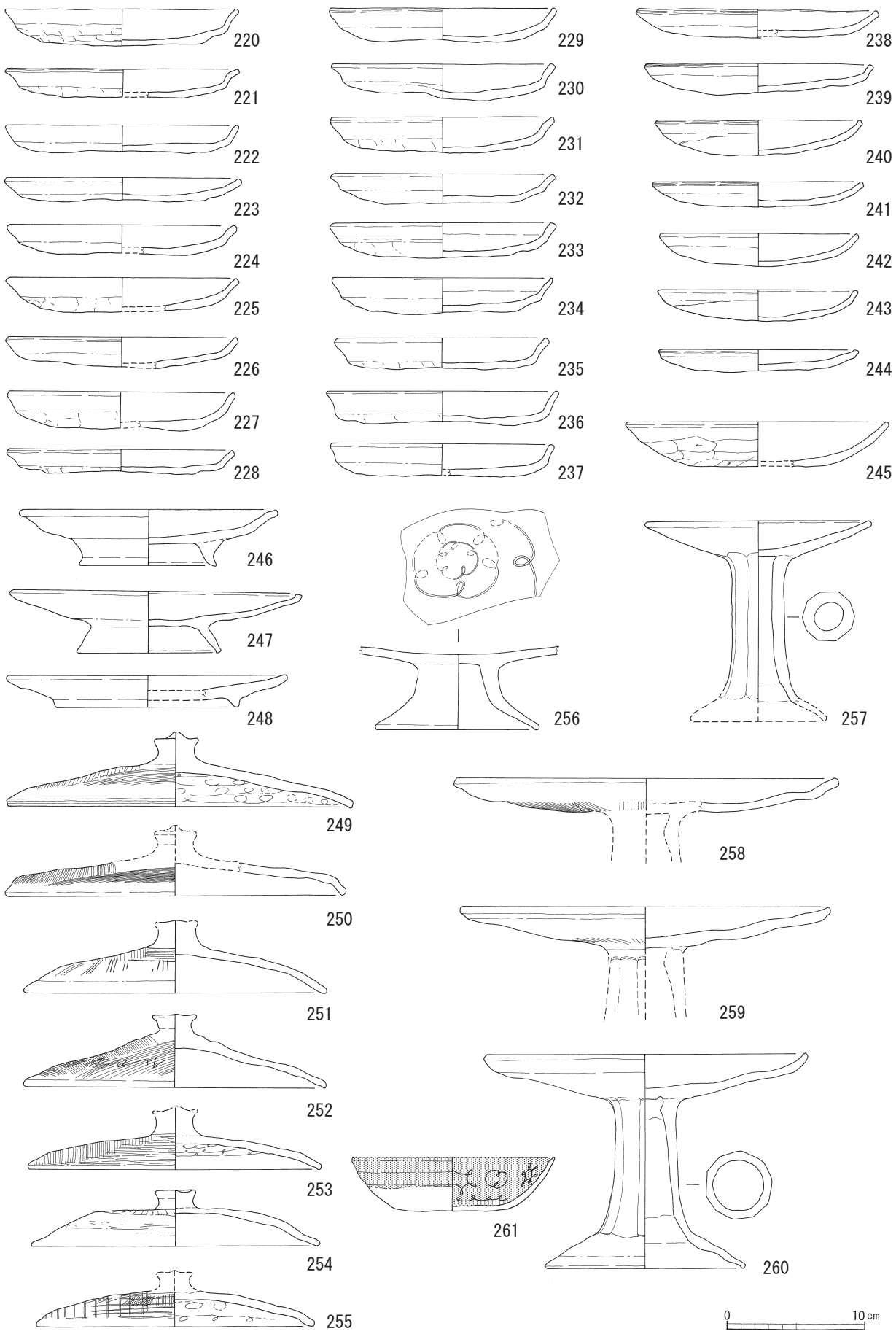
ＳＤ9046出土遺物(154～158)　第143・152・165-1次調査で検出した、柳原区画南東部に位置する幅0.8～1.0m、深さ0.3mの断面形が緩い逆台形になる溝である。出土遺物は少ないが、Ｂ期正殿のＳＢ9800の柱穴に埋土が掘り込まれており、ＳＢ9800の時期決定上、重要な遺構である。土師器杯Ａ(154)・皿Ａ２(155)・皿Ｂ(156)、須恵器杯Ａ(157)・甕(158)を図示した。(154)は底部外面をヘラケズリし、(156)は、内外面をヘラミガキする。これらはⅠ－３期新相頃のものの混入かもしれない。一方、須恵器杯Ａ(157)は折戸10号窯式期のものとみられ、ＳＤ9046は『遺構編』ではⅠ－４期からⅡ－１期としたが、Ⅰ－３期新相からⅡ－１期に改めて位置づけたい。ＳＢ9800は、延暦二十二(803)年頃から天長元(824)年頃までに時期比定しており、矛盾は生じない。

ＳＫ1045出土遺物(159～285)　第20次調査で検出した、Ｂ期寮庁の西脇殿ＳＢ1080の北西脇に位置する大量の土器を廃棄した土坑で、「2000年編年」におけるⅡ－２期の基準資料である。『報告Ⅰ』でも紹介されているが、若干資料を追加して再掲する。東西4.0m、南北3.2m、深さ0.8mの大型の土坑で、地面からほぼ垂直に掘り込まれた形状をしている。これと同様のものに第152次調査のＳＫ9785・9786のように同期の正殿ＳＢ9800の柱穴を壊す土坑があげられる。整理箱で40箱という大量の土器類・鉄製品・炭化材が出土している。土師器杯Ａ(159～185)・椀Ａ２(186～212)・椀Ｂ(213～219)・皿Ａ(220～245)・皿Ｂ(246～248)・蓋(249～255)・高杯(256～260)・甕Ａ(262・263)・甕Ｃ(264)・鍋Ａ(265)・鍋Ｂ(268)・盤Ｂ(266・267)、黒色土器Ａ類杯(261)、須恵器杯Ａ(269～271)・杯Ｂ(272～274)・蓋(275～278)・壺Ｌ(279・280)・鍑(285)、灰釉陶器皿(282・283)・風字硯(284)、緑釉陶器皿(281)を図示した。

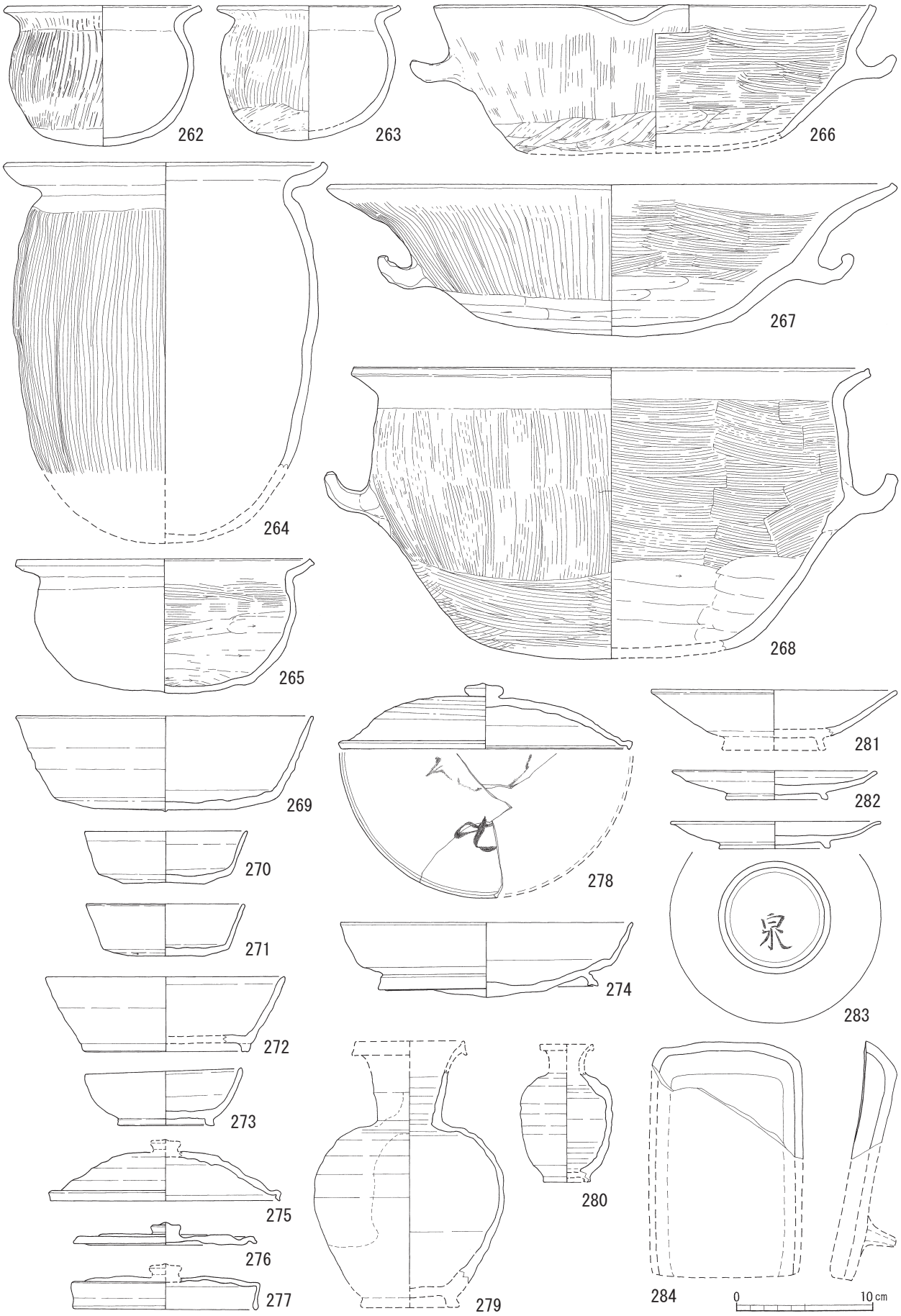
土師器杯Ａは、口径12.8～15.6㎝の幅があるが、口径14.5㎝以上の大型品(159～169)と、それ以下の



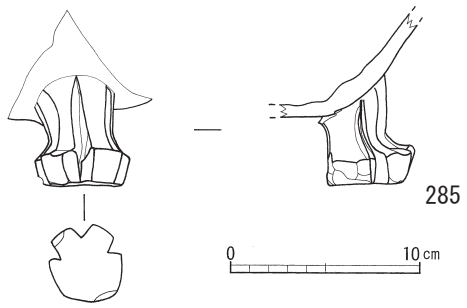
第７図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（１）（１：４）　ＳＫ1045(159～219)



第８図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（２）（１：４）　ＳＫ1045(220～261)



第９図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（３）（１：４）　ＳＫ1045（262～284）



第10図　斎宮Ⅱ－２期の遺構出土遺物（４）
（１：４）
ＳＫ1045(262～284)

小型品(170～185)に、椀Ａ２は口径11.8～21.2cmの幅があり、口径16cm以上の大型品(186～199)とそれ以下の小型品(200～212)に分類できそうである。

ＳＫ1045には精良な胎土で橙色の土師器が多く、台付椀(217～219)や蓋(249～255)のように、同時期の他の遺構ではあまり見られない器種を含んでいる。『報告Ｉ』での破片数のカウントで土師器の割合は約94%、須恵器・灰釉陶器が約6%となっている。一方、大量の土器が出土した、「内院」鍛冶山西区画のⅡ－３期のＳＫ2650(44次)では、多彩な施釉陶器等を含みながらも土師器片の割合が約99.6%、官衙域の東加座区画にあるⅡ－２期のＳＫ5200(77次)で土師器は約98%、西加座南区画のⅡ－１期のＳＫ1445(34次)で約98%となっており、ＳＫ1045出土土器は、方格地割の他の区画の土器の大量出土土坑と比べて陶器の割合が高いといえる。具体的な破片数は計測していないが、第152次調査のⅡ－１～２期のＳＫ9785・9786でも須恵器の出土が目立っている。また、これらの陶器は杯・椀・蓋・高杯などの供膳具が多く、貯蔵具は稀である。こうした状況は、『遺構編』における柳原区画のＢ期～Ｅ期にかけての区画の性格を反映し、「寮庁」での儀礼・饗応に供されたのち廃棄されたものと言えるのではないだろうか。ＳＫ1045からは緑釉陶器も２片出土しているが、これは黒笹90号窯式期のものとみられ、混入と考えられる。ＳＫ1045の土器は、Ｂ期寮庁が天長元(824)年以降、斎宮が度会郡の離宮院に移転する前後に廃棄された一群と考えている。

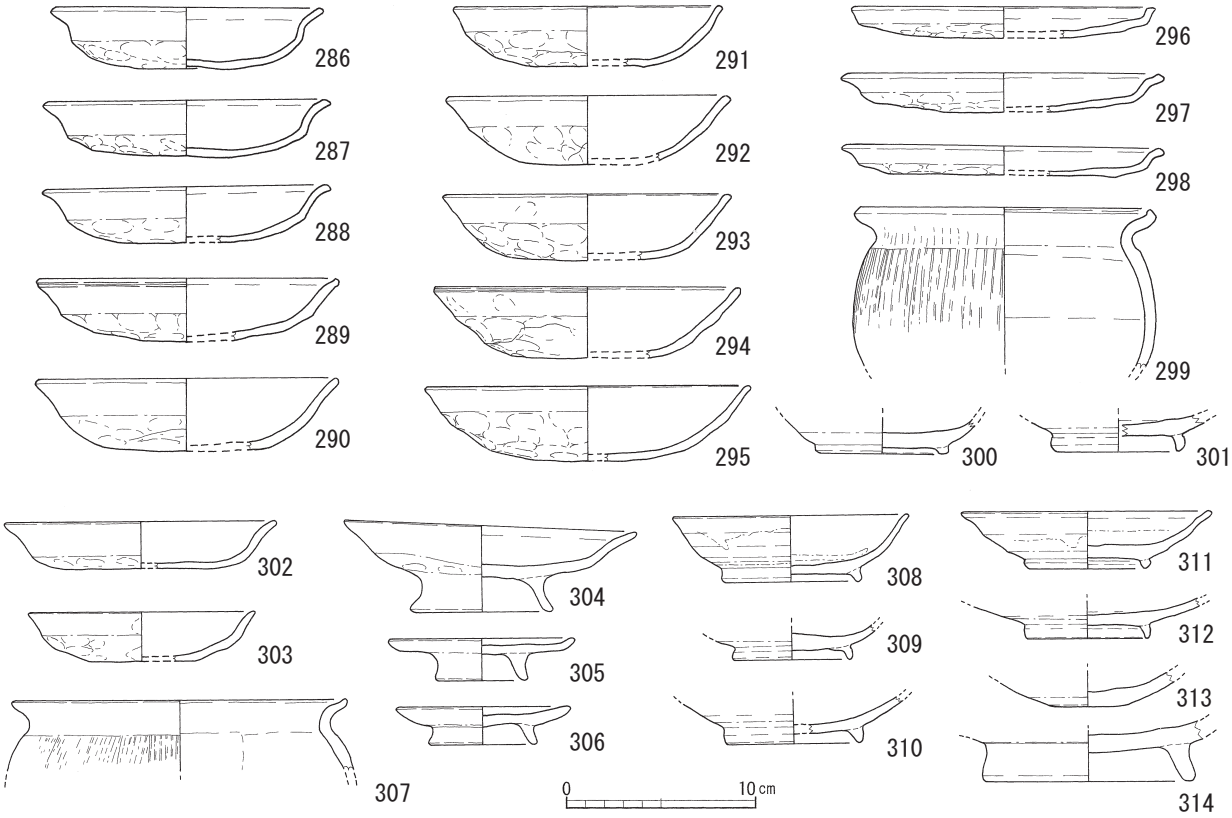
ＳＫ1354出土遺物(286～301)　第28次調査区の中央付近で検出した、南北1.8m、深さ0.25mの楕円形土坑からの出土遺物である。土師器杯Ａ(286～290)・椀Ａ２(291～295)・皿Ａ２(296～298)・甕Ａ(299)、灰釉陶器椀(300・301)を図示した。『遺構編』ではⅡ－２～３期に位置付けているが、土師器供膳具類の形態から、Ⅱ－３期の中相を中心とした時期のものとみられる。共伴する灰釉陶器椀には、角高台のものと三日月高台のものがある。

ＳＥ1295出土遺物(302～314)　第28次調査の北西隅で検出した、東西2.5m、南北2.2mの不整円形の素掘りの井戸である。他の井戸の配置から、開鑿はＩ－４期まで遡るものと推定しているが、遺構面から約１mの深さまでしか調査しておらず、今回図示した土器群は、井戸の最終埋没時の一括資料とみられる。土師器杯Ａ(302・303)・台付杯(304)・台付小皿(305・306)・甕Ａ(307)、須恵器椀(313)・台付鉢(314)、灰釉陶器椀(308～310)・皿(311・312)を図示した。杯Ａ(302)は口径が14.2cmあり、底部も平たく、Ⅱ－３期の特徴をとどめるが、小型化した(303)や、折戸53号窯式に属する形態の灰釉陶器類も共伴することから、ＳＥ1295の埋没はⅡ－４期に位置づけられるとみられる。

柳原区画では、既報告分をあわせてもⅡ－３～４期も良好な資料が乏しいようである。

（２）斎宮Ⅲ期の遺構出土遺物

ＳＫ1297出土遺物(315～331)　第28次調査の北西隅で検出した、東西1.8m、南北2.2m、深さ0.4mの不整円形の土坑である。土師器杯Ｄ(317)・皿Ｄ(315・316)・台付小皿(318～320)・高杯(321)・長頸壺(322)・台付鉢(323)・短頸壺(324)、ロクロ土師器小型杯(325・326)・台付皿(330)、灰釉陶器椀(327～



第11図　斎宮Ⅱ－３・４期の遺構出土遺物（１：４）　ＳＫ1354(286～301)・ＳＥ1295(302～314)

329)、鞴羽口(331)を図示した。(322)は高杯の可能性もある。共伴する灰釉陶器には、やや腰高の東山72号窯式相当のものが出土しているが、杯Ｄ(317)は底部の丸みが強く、Ⅲ－１期でも比較的新しい形態と考えられるとともに、(325・326)のような柱状高台のロクロ土師器はⅢ－２期以降に出現すると考えられる。『遺構編』ではⅢ－１期に区分したが、出土土器には混入の可能性も含めてⅢ－１期新相～Ⅲ－２期の比較的古い段階までの幅が想定される。

ＳＫ1048出土遺物(332～364)　第20次調査区の北西隅で検出した、東西2.3m、南北2.3m、深さ0.3mの不整円形土坑である。土器類と金属製熨斗、炭化材が整理箱２箱分出土している。土師器皿Ｄ(332～344)・杯Ｄ(345・346)・椀Ｃ(347)・台付皿(348～350)・台付椀(351)・小型の短頸壺(352)、ロクロ土師器杯(353～355)・台付小皿(356)・台付杯(357)・台付椀(358～360)、灰釉陶器椀（361)、志摩式製塩土器(362・363)、金属製熨斗(364)を図示した。この他にも黒色土器片・緑釉陶器片が混入している。土師器杯Ｄと皿Ｄは器形の上ではほぼ同じで、規格の上でも明確な差は無いようにみえ、Ⅲ－１期新相以降のものと考えられる。製塩土器は小片で、Ⅱ期の破片が混入したものだろう。金属製熨斗は火皿部が青銅製、柄部が鉄製で、火皿の大部分を欠失している。柄部は三本の鋲で固定されており、幅2.4㎝、先端にいくと幅1.2㎝となり、木製などの柄が装着されていたものとみられる。金属製熨斗は現時点で全国に16例が知られており、古墳出土のものを除くと、東日本の平安時代の竪穴建物からの出土が多い。熨斗は所謂アイロンとして衣服の調製に用いられたと考えられるほか、『大鏡』第三巻では、太政大臣藤原兼通の寝具を温めるために用いたという記事があり、柳原区画の性格を考える上で示唆に富む。(4)

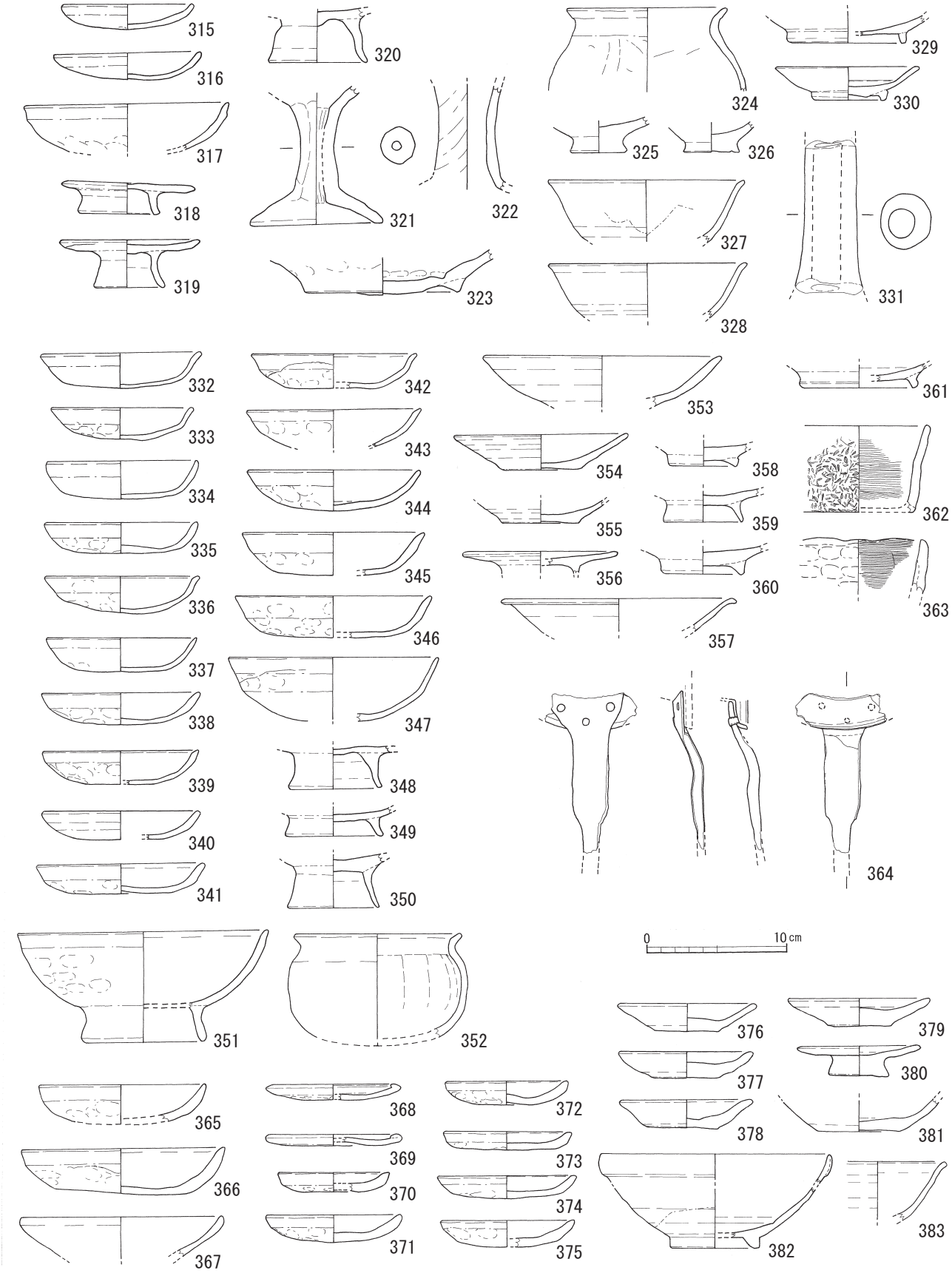
ＳＫ1071出土遺物（365～383）　第20次調査の中央やや南寄りで検出した、東西1.4m、南北1.61m、深さ0.25mの楕円形土坑である。土師器杯Ｄ(365・366)・皿(368～375)、ロクロ土師器杯(367)・小皿(376～379)・小型杯(380)・杯(381)、白磁椀(382)、無釉陶器椀(383)を図示した。土師器類は、「2000年編年」でⅢ－２期の基準資料とされたＳＫ1074の出土資料とほぼ同形式とみられ、Ⅲ－２期の中相以降に位置づけられる。

これらの土師器皿のうち、(368・369)は京都系の所謂「コースター形」の皿を写したものである。「コースター形」の土師器皿は、平安京の土器編年では京Ｖ中頃から底部が完全に平坦なものが現れるが、(368・369)のように口縁部を強く内側に折り返すものは京Ｖ新段階頃に現れ、11世紀半ばから第３四半期の年代観が与えられている。また、玉縁口縁の白磁椀(382)は、大宰府での分類で白磁Ⅺ類に該当するものとみられる。Ⅺ類の白磁は、大宰府では10世紀後半から11世紀半ばの標準資料とされ、ＳＫ1071出土土器にも11世紀第３四半期を中心とした年代が付与できると考えられる。[(5)]

ＳＫ1074出土遺物(384～432)　第20次調査区の南東隅近くで検出した、東西1.4m、南北1.6m、深さ0.3mの楕円形土坑で、整理箱５箱分の土器類が出土している。「2000年編年」においてⅢ－２期の基準資料とされた土器群である。『報告Ⅰ』に報告されたものに未報告資料を加えて、土師器椀Ｃ(384～389)・皿Ｄ(390～396)・杯Ｄ(397・398)・台付小皿(399・400)・台付皿(401)・台付椀(402・403)・甕(404・405)、ロクロ土師器小皿(406～409)・台付小皿(410)・小型杯(411～414)・椀Ｂ(415)、須恵器甕(416)・鉢(417・418)、灰釉陶器台付鉢(419)・椀(420～426・429)・壺(430・431)・甕(432)、無釉陶器椀(山茶椀)(427・428)を図示した。土師器杯Ｄの割合が少ない一方、『報告Ⅰ』でのカウントでも灰釉陶器の出土破片数が全体の60％以上を占めることが知られ、壺類や、他に類例をみない植木鉢状の鉢を伴うことからも、特殊な性格を持つ土器群とも考えられる。しかしながら、他の時期の混入は比較的少なく、Ⅲ－２期中相の良好な一括資料である。共伴する灰釉陶器は百代寺窯式の椀・深椀で、無釉陶器椀(山茶椀)は第２形式の初期山茶椀である。

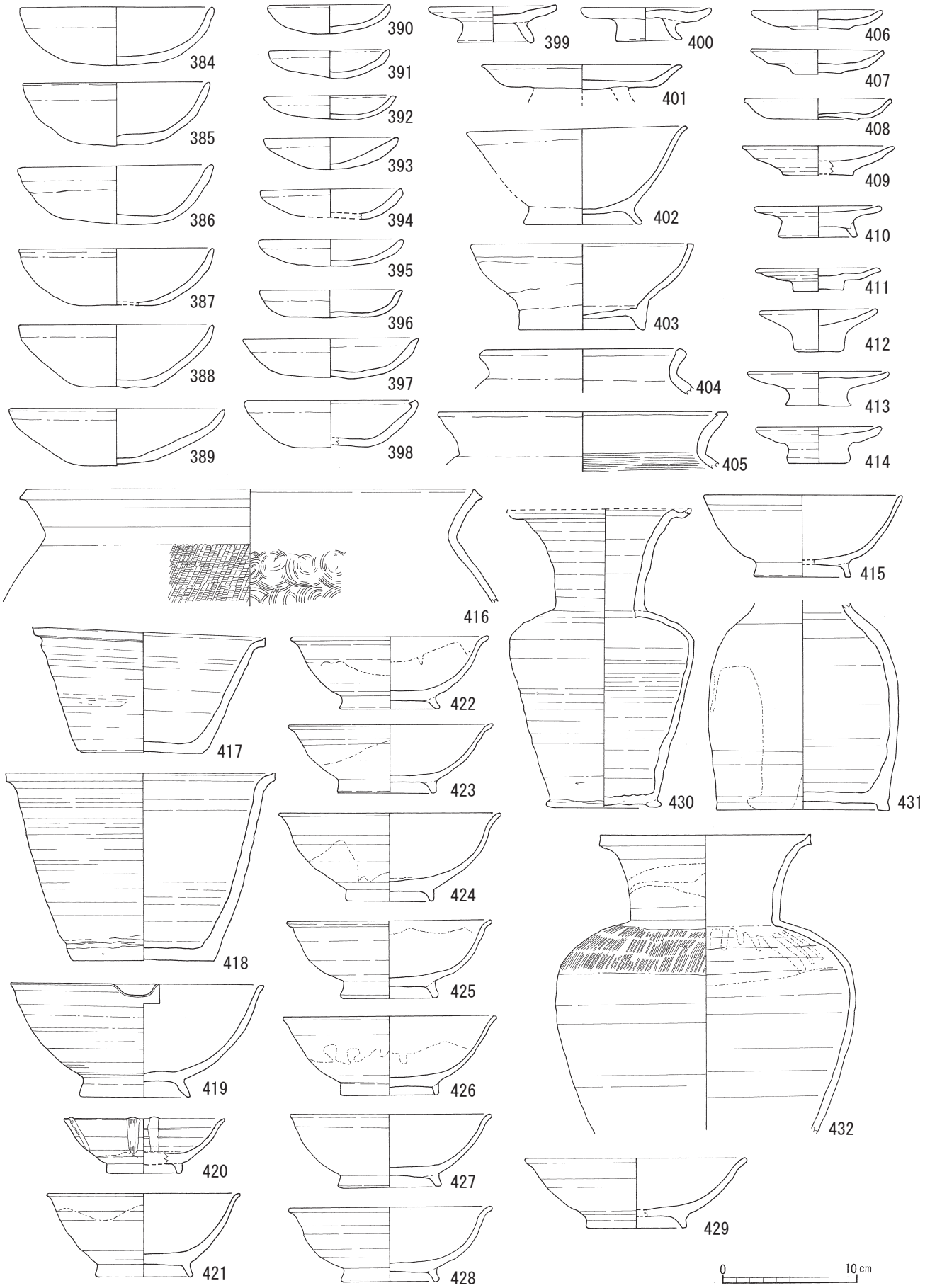
ＳＫ0555出土遺物(433～665)　第10次調査で検出した、柳原区画の東辺中央付近に位置する東西2.6m、南北2.4m、深さ0.3mの略円形の土坑である。周辺には同時期の土坑が10基以上密集しているが、まとまった量の出土遺物があるのはＳＫ0555のみである。特に大きな土坑ではないが、整理箱で15箱と圧倒的な出土量となっている。ほぼ皿化した土師器杯Ｄ(433～478)・皿(479・480)・椀(481・482)・皿Ｄ(483～584)・台付小皿(585～593)・蓋(594・595)・器台あるいは高杯(596～601)、ロクロ土師器杯(602～609)・皿(610)・小皿(611～647)・台付小皿(648～651)・台付杯(652)・短頸壺(653)、土師器甕ないしは鍋(654～657)、土師質土器の盤(658～660)、無釉陶器短頸壺(661)・椀(山茶椀)(662～664)、青磁椀(665)を図示した。その他図示していないが、鞴羽口片や鉄片、混入とみられるⅡ期の土器が出土している。

土師器杯Ｄは、口縁が外傾し、口縁端部が肥厚するⅢ－3期にみられる傾向のもの(433～441)と、口縁端部がやや内弯気味で、先端をヨコナデで尖らせる傾向のもの(442～478)に分けられる。後者には底部を平坦に作るものも多く、Ⅳ期以降の中世的な皿に転換していく過渡的な様相を示していることから、Ⅲ－４期に位置づけられるものと考えられる。杯Ｄは口径13.1～15.7㎝、口径を器高で割った径高指数は0.20となり、同時期の他の土器群とほぼ同じ値となっている。ＳＫ0555からはⅢ－４期の終わり頃の遺構としてはロクロ土師器の出土量も多い。斎宮跡では、Ⅲ期終焉後にはロクロ土師器の出土が急速に減少・消失することが知られている。[(6)]また、外面をヘラ状工具でケズリ調整する耳皿状の土師器小皿

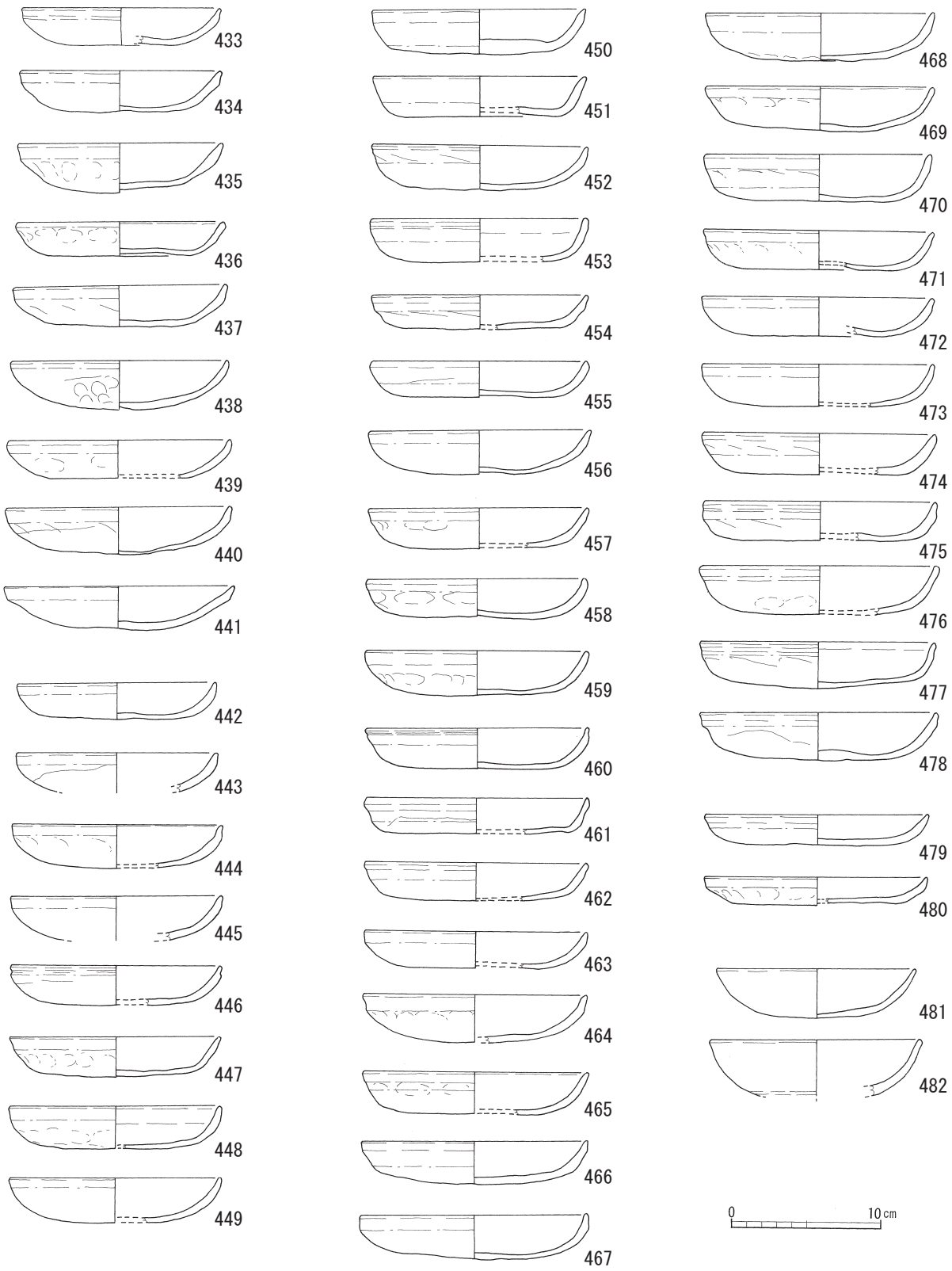


第12図　斎宮Ⅲ－１～３期の遺構出土遺物（１：４）

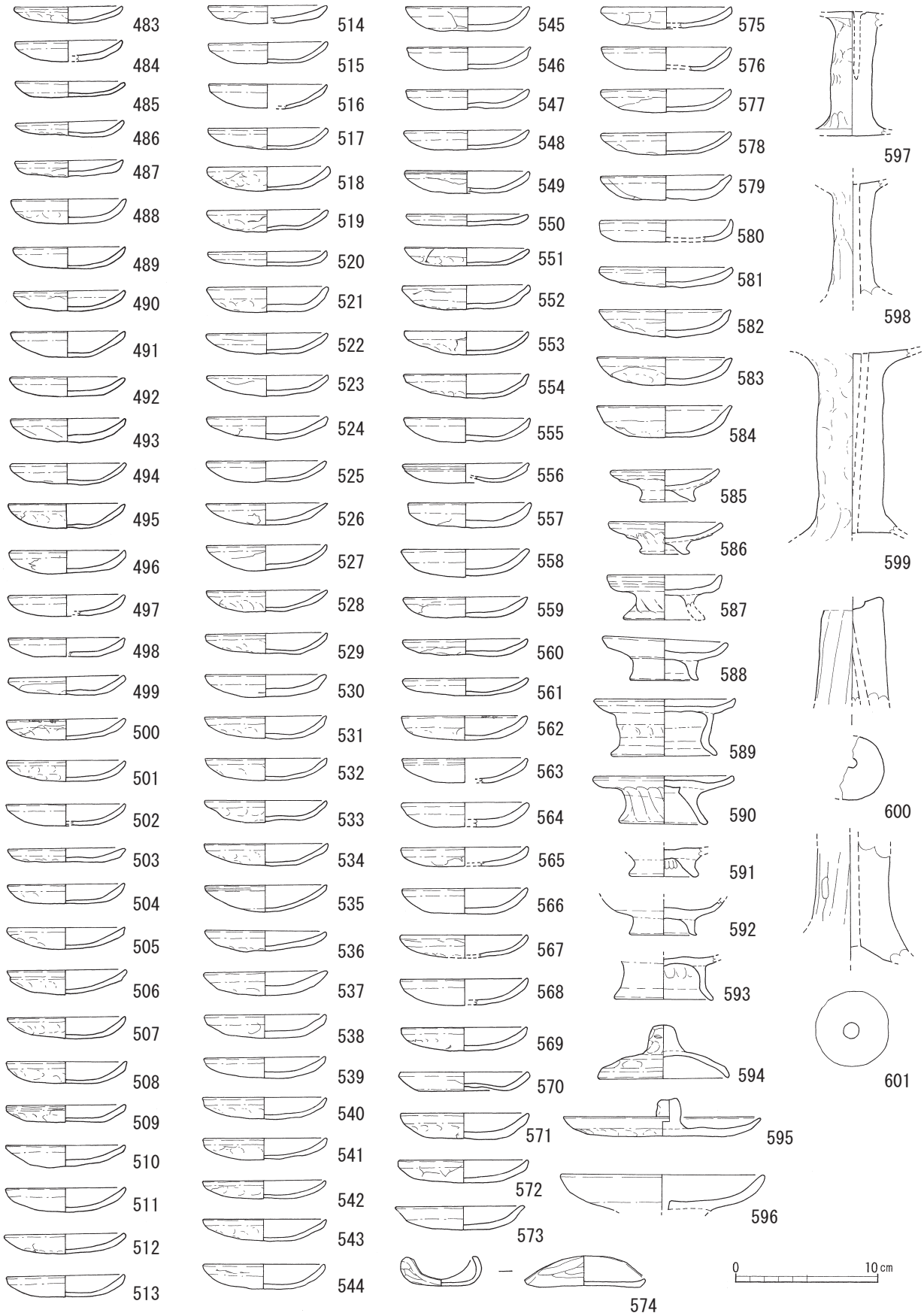
ＳＫ1297(315～331)・ＳＫ1048(332～364)・ＳＫ1071(365～383)



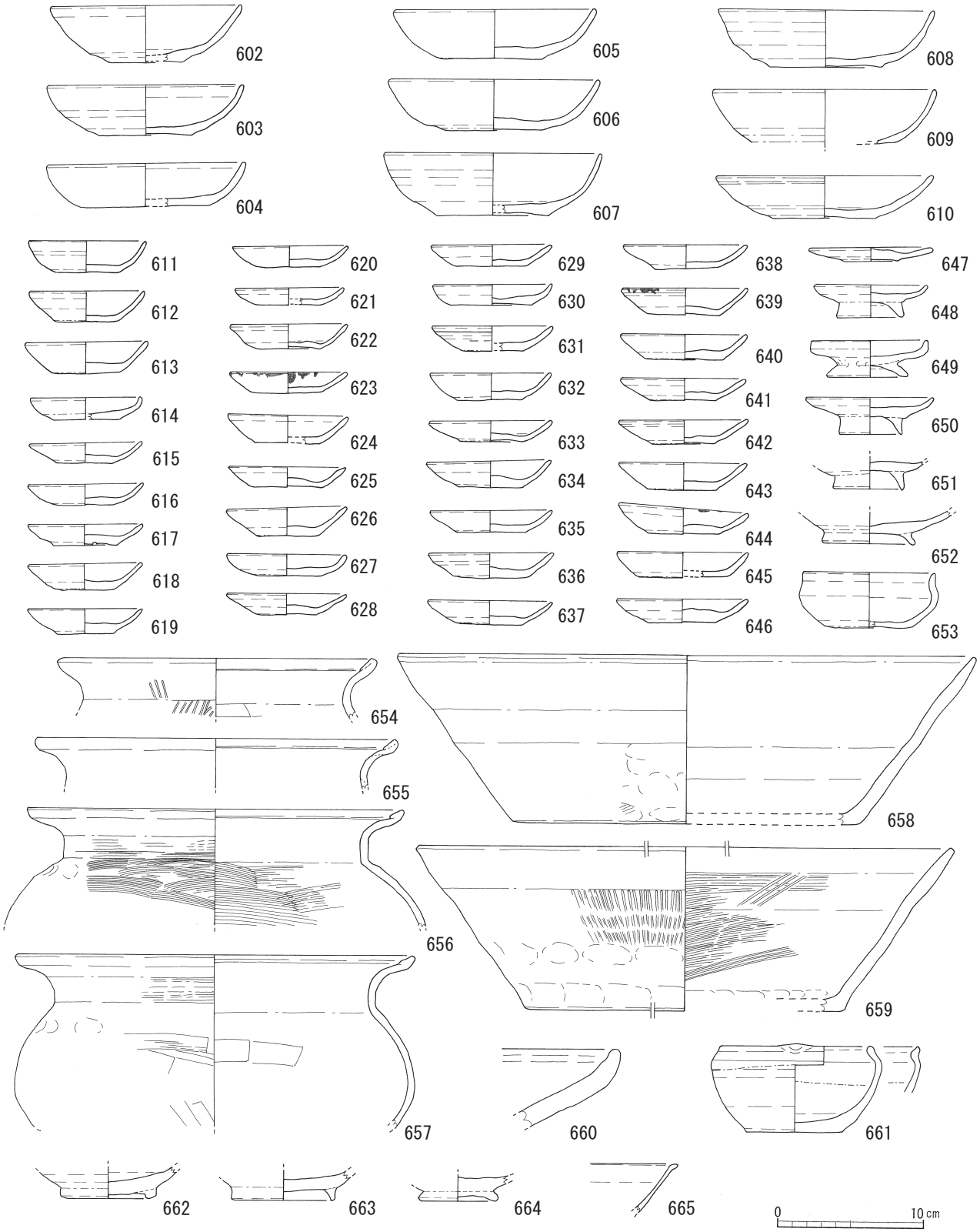
第13図　斎宮Ⅲ－３期の遺構出土遺物（１：４）　ＳＫ1074(384～432)（416・432は１：６）



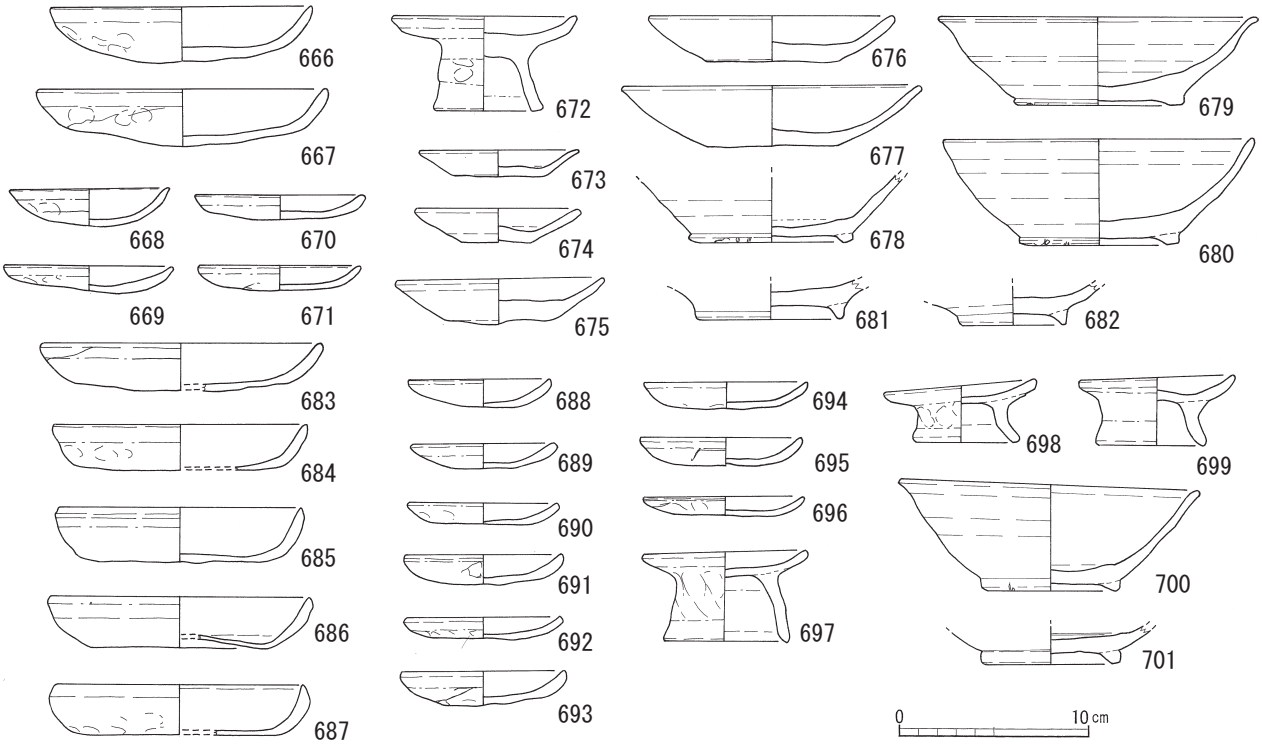
第14図　斎宮Ⅲ－４期の遺構出土遺物（１）（１：４）　ＳＫ0555(433～482)



第15図　斎宮Ⅲ－４期の遺構出土遺物（２）（１：４）　ＳＫ0555(483～601)



第16図　斎宮Ⅲ－４期の遺構出土遺物（３）（１：４）　ＳＫ0555(602～665)



第17図　斎宮Ⅲ－３期・Ⅳ－１期の遺構出土遺物（１：４）　ＳＫ0547(666～682)・ＳＫ0549(683～701)

(574)や、土師器蓋類(594・595)、土師質土器の大型の盤(658～660)など、この時期の類例は少なく、用途が不明な器形もみられる。共伴する土師器鍋は、南伊勢系鍋の第１段階ａ・ｂ型式に、山茶椀は高台の形状から第４～５型式に相当するとみられる。これらのことからＳＫ0555は12世紀後葉から13世紀初頭にかけてのⅢ－４期の良好な資料と考えられる。

ＳＫ0547出土遺物(666～682)　第10次調査で、ＳＫ0555の北約14ｍの地点で検出した南北約5.6ｍの土坑である。調査区東壁沿いでの検出で、東西長や深さはわからない。平面形から複数の遺構が重複している可能性がある。土師器杯Ｄ(666・667)・皿Ｄ(668～671)・台付小皿(672)、ロクロ土師器小皿(673～675)・杯(676・677)、無釉陶器椀(山茶椀)(678～682)を図示した。山茶椀は渥美系の第１段階２型式に相当するとみられ、ＳＫ0547出土土器はⅢ－３期新相からⅢ－４期にかけての幅が考えられる。

（３）斎宮Ⅳ期の遺構出土遺物

ＳＫ0549出土遺物(683～701)　第10次調査で検出した、ＳＫ0547のすぐ南に位置する東西2.0ｍ、南北3.3ｍ、深さ0.25ｍの隅丸長方形の土坑である。整理箱で1.5箱分の土器類が出土している。皿(683～687)・小皿(688～696)・台付小皿(697～699)、無釉陶器椀(山茶椀)(700・701)を図示した。土師器皿は口径が12.8～13.6㎝と、Ⅲ－４期としたＳＫ0555の資料と比べて小径化している。口縁端部の内弯化も顕著で、ＳＫ0555の資料と比べると後出的なものと考えられることからⅣ－１期に位置づけた。共伴する山茶椀は第５～６型式のものであることもこれを裏付けている。

第３節　柳原区画を特徴づける遺物

（１）緑釉陶器・貿易陶磁(702～720)

緑釉陶器は微細な破片も含めると、柳原区画全体で500片以上出土している。しかし、区画の約80％の面積の調査達成率を考えると、「内院」である鍛冶山西区画や「神殿」の可能性のある西加座南区画・「寮庫」の西加座南区画など、近隣区画と比べても決して多くなく、また優品と言える資料も少ない。その中で第167次調査のＳＫ10230出土の(702)は、猿投窯の黒笹14号窯式の段階の、内外面に陰刻花文を施した優品である。現在類似の資料は斎宮跡ではＳＤ0337(9-1次)とＳＫ2650(44次)出土資料の２点のみである。[7] (703)は香炉等の蓋とみられ、外面に陰刻で文様を表す。

緑釉陶器に比べ、貿易陶磁は多い。(704)は、柳原区画北西部の第157次調査で出土した唐三彩の枕で、黄白色で軟質の素地に緑白黄の釉が施されている。越州窯系青磁(705～707)はいずれも椀で、見込みに珪砂の目跡が残るが、いずれも緻密な磁胎を持ち茶緑色に良好に発色したもので、大宰府での区分でⅠ類に分類される。第153・157・159次調査と、区画内でも様々な地点で出土している。また、(705)は折戸53号窯式の灰釉陶器椀が共伴し、10世紀前半に位置づけられる。白磁椀(708～713)は薄手の器壁に透明感のある釉薬が施されており、内面に緻密な劃花文を持つもの(711)や外面に削出しで蓮弁を表現したもの(712)がある。大宰府分類のⅪ類あるいはそれに併行する時期の資料であろう。その他、白磁Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類の、国内に大量に貿易陶磁がもたらされる段階に位置づけられるもの(714～719)も多い。(720)は第143次で出土した龍泉窯系青磁の小椀である。斎宮のⅣ－２期に位置づけられる。

（２）硯(284・721～729)

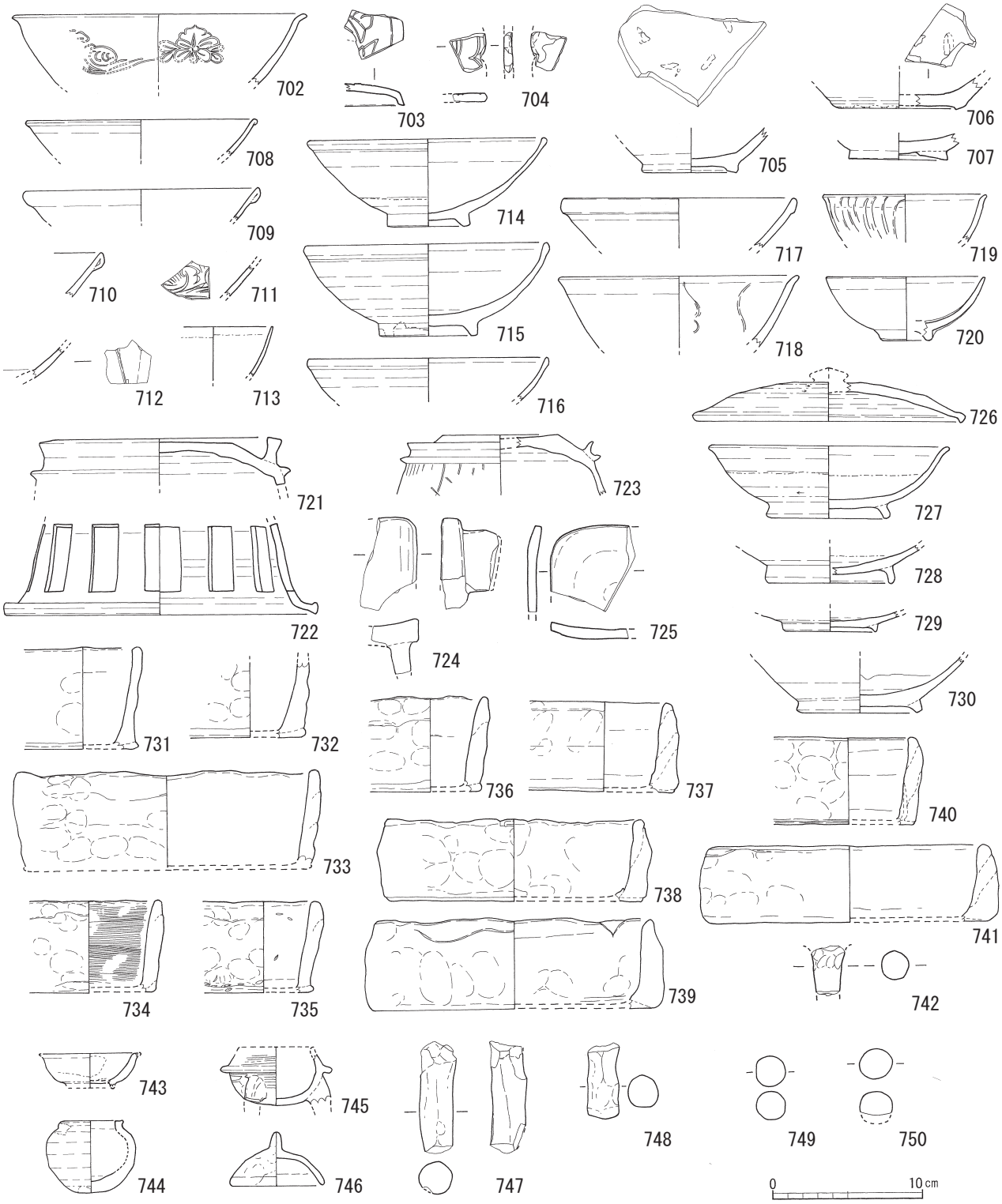
定型硯として、須恵器円面硯(721～723)、灰釉陶器風字硯(284・724)・猿面硯(725)がある。(721)はⅡ－２～３期のＳＫ9818から、(722)はⅡ－1期のＳＨ9001から、硯(284)はⅡ－２期のＳＫ1045からの出土である。この他、明らかに転用硯として使用されたとみられるものとして、須恵器蓋(726)、灰釉陶器椀(727～729)を挙げたが、柳原区画全体で見て出土量は少ない。[8]

（３）製塩土器(153・362・363・731～742)

柳原区画全体で出土したものは、 大部分が細片となっているが、比較的元の形状を復元できるものを図示した。山本雅靖氏の形態分類でみると、[9] 粘土輪積み手法で口縁部が外傾するＡⅢ類(731～736・740)、粘土板一枚作りで胴外面の上部が内弯するＢⅢ類(739)、粘土板一枚作りで、口縁部に粘土紐を張り付けるＣ類(738)に区分でき、それ以外は不明である。(732)がⅡ－１期中相のＳＨ9001から出土している他はⅡ－３期の土坑から出土したものが多い。(742)は知多式製塩土器の脚部片とみられる。

（４）小型模造品(743～746)

(743)は第143次調査の包含層から出土した二彩陶器の椀で、軟質の素地に黄色と白色の釉が施されている。(744)は第159次調査の包含層から出土した無釉陶器の短頸壺、(745)は第143次調査の包含層から出土した瓦質土器の三足羽釜、(746)は第143次調査の表土から出土した土師器蓋である。東隣の西加座南区画では大量の小型高杯などが出土しているのに比べ、柳原区画における小型模造品の出土量は少ない。[10]



第18図　緑釉陶器・貿易陶磁・硯・製塩土器・小型模造品（１：４）

（５）墨書土器(159・190・278・283・751～770)・刻書土器類(43・44・176・771～780)

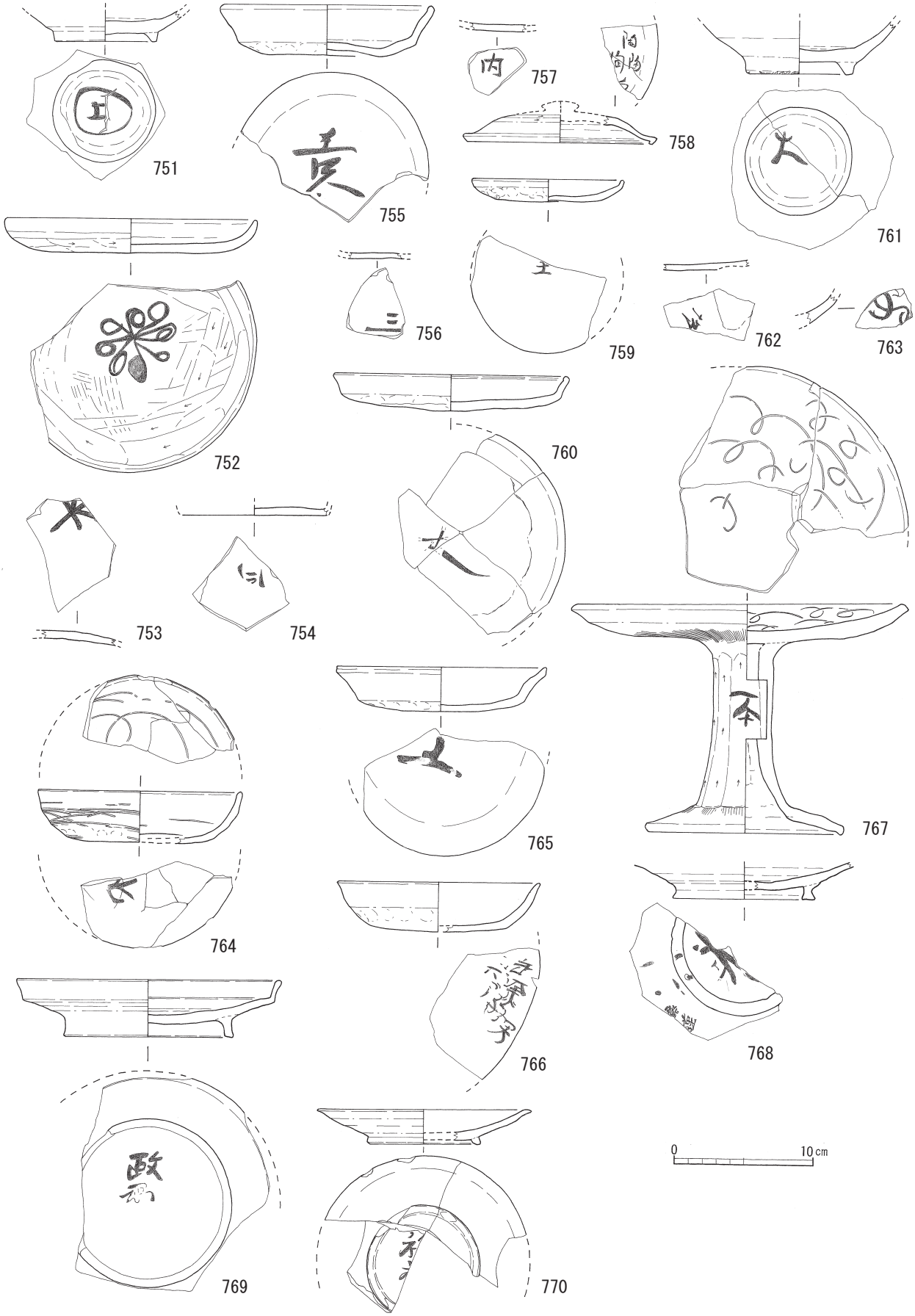
調査次別にみていく。(751)は第10次調査で出土した無釉陶器椀(山茶椀)で、○の中に「上」と墨書する。(752～754)は第143次調査のもので、(752)は土師器皿Ａ１の底部外面に蕨手状の文様を放射状に描く。(755～763)は第152次調査のもので、土師器片に「内」(757)や「三」(756)、「御」あるいは「佛」(762)を墨書したもの以外は明確に判読できない。第153次調査の(760)も土師器皿Ａ２の外面に、第157次調査の(764)も土師器椀Ａ１に漢字とみられる墨書があるが判読できない。第156次調査のＳＫ9689は、柳原区画の北辺区画道路上に掘られたⅡ－２期古相の土器を主体とするが、多数の墨書土器を含んでいる。(765)は土師器杯Ａの底部外面に「上」と書いた可能性がある。(766)は土師器椀Ａ１の外面に多数の文字が墨書され、そのいくつかが「奉」「子」と判読できる。(767)は土師器高杯の脚部に「奉」ないしは「本」を、(768)は須恵器盤の外面に「謹」を２か所、高台内側にも漢字を墨書する。第159次調査の(769)はⅡ－２期のＳＫ10108から出土した須恵器盤で、底部に「政□」の墨書がある。「政所」であろうか。(770)は灰釉陶器皿の高台内側に示偏の漢字を墨書する。この他、ＳＫ1045から土師器杯の底部外面に「内」あるいは「門」と書いたもの(159)や、須恵器蓋の内面に「九」の可能性がある文字を書いたもの(278)、灰釉陶器皿の底部に「泉」と墨書したもの(283)がある。斎宮の官衙の存在を示す官司名墨書土器は、東の西加座南区画で「官」「府」「大炊」「目代」「少允殿」「寮加」、西加座北区画で「水部」「厨」、北の下園東区画で「殿部」、南東の鍛冶山西区画で「殿」「膳」といった斎宮寮や寮の司などに関連するものがみられるが、柳原区画では第159次調査の「政□」に可能性があるのみで、区画の性格を明確に示す墨書土器は出土していない。

次に刻書土器類をみると、いずれも記号状のもので、「#」ないしは九字呪法に関連する可能性のあるもの（ドーマン）として(771・775・776・779)がある。この他、「×」あるいは「＊」状になるものとして、(777・778)や、ＳＥ0276の(43・44)、ＳＫ1045の(176)がある。これらは、一種の魔除けに関連する可能性があり、これまでにも史跡内の各地で多量に出土している[11]。(780)は須恵器杯Ｂの底部に「寶」とみられる文字が印刻されている。

（６）金属製品・金属関連遺物(364・781～799)

図示できるものは少ないが、第20・143・152次調査等、区画の南部を中心に釘類の残欠が多量に出土している。第143次調査出土の(781・782)は鉄製鎌で、包含層や表土からの出土だが、形状から古代末期から中世にかけてのものではないかと考えられる。特に(781)は刃の基部を折り返しており、同様の例として斎宮跡では第71次調査や松阪市東沖遺跡[12]からも鎌を数回折り返したものが出土している。他にも津市芸濃町の松山遺跡では刀子や鎌を折り返したものが出土しており[13]、いずれも鉄の再加工のための地金とみられている。柳原区画では、金属の冶金や加工に関連するものとして、第20次調査でⅡ－２期のＳＫ1056から鞴羽口(799)が、Ⅲ－２期以降のＳＫ1074から鍛冶炉の炉壁とみられる被熱した土塊(798)が出土している他、図示していないが、鋳型等に使われる真土が第20・143・157次調査など柳原区画の外周的な地点で出土している。柳原区画内では、第157次調査のＳＫ9941が長径1.0m、短径0.35m、深さ約0.1mの舟底状を呈する土坑で被熱痕があり、炭片や焼土片を伴っている事から炉跡と考えられている。こうした小規模な冶金ないしは鍛冶が、区画内の建物造営に伴って行われていた可能性がある。

この他、金属製品としては、第20次調査ＳＫ1048出土の熨斗(364)、第143次調査包含層出土の鉄鏃


751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
0
10cm

第19図　墨書土器（１：４）

(783)、第153次ＳＥ9835出土の火打金(784)、第159次調査出土の銅製鞘尻(785)、第157次調査の真鍮製(785)、第167次調査の鉛製の不明品(787)がある。

（７） 石製品(800～803)

(800)は紡錘車で、緑灰色の石材によるものである。第167次調査の包含層からの出土で、東の西加座地区や北の下園地区では墳丘が削平された古墳が見つかっており、古墳時代までさかのぼる可能性がある。(801・802)は碁石とみられる白色の丸石である。(801)はⅡ－１期の第159次調査ＳＤ9907から出土している。同様の丸石は南接する牛葉東区画のⅢ期の遺構から多数出土している。(803)は第8-10次調査で出土した石帯の丸鞆で、淡灰黄色の石材を用いている。

（８） その他の遺物(730・747～750)

(730)は第157次調査の攪乱溝から出土した山茶椀で、内面に漆とみられる黒色の付着物がある。

(747・748)は土師質の土製品で、土馬の可能性がある。(749・750)も土師質で中実の土玉状を呈するが、用途等は不明である。

註

(1) 斎宮跡出土土器の他地域との併行関係を示す上で、東海地方の窯業地と、近畿地方中枢部の都城の編年、貿易陶磁の分類は下記を参照した。
- 愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 窯業１ 古代 猿投系』愛知県 2015
- 愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 窯業２ 中世・近世 瀬戸系』愛知県 2007
- 愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 窯業３ 中世・近世 常滑系』愛知県 2012
- 古代の土器研究会編『古代の土器Ⅰ 都城の土器集成』1992
- 小森俊寛『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７～19世紀－』京都編集工房 2005
- 伊藤裕偉「中世伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol.1 三重歴史文化研究会 1990
- 太宰府市教育委員会編『大宰府条坊跡XV―陶磁器分類編―』 2000

(2) 堀大介「鉢を模倣した須恵器について」『同志社大学歴史資料館館報 第３号』同志社大学歴史資料館 2000

(3) 大川勝宏「研究ノート 斎宮跡で出土する瓦鉢類について―斎宮における仏教的要素への視点の形成―」『斎宮歴史博物館研究紀要二十一』斎宮歴史博物館 2013

(4) 大川勝宏「斎宮跡出土の金属製熨斗」『斎宮歴史博物館研究紀要二十六』斎宮歴史博物館 2017

(5) 大川勝宏「斎宮跡における平安期貿易陶磁の基礎的研究」『斎宮歴史博物館研究紀要十九』斎宮歴史博物館 2011

(6) 大川勝宏「５ 斎宮跡の施釉陶器」『古代の土器研究―律令的土器様式の西・東３ 施釉陶器―』古代の土器研究会 1994

(7) 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘資料選Ⅱ』2010

(8) 例えば、柳原区画の近隣では、一区画あたりの調査率は低いにも関わらず、少なくとも西加座南区画で12点、西加座北区画で９点、牛葉東区画で21点、鍛冶山西区画で11点の定型硯が確認されている。

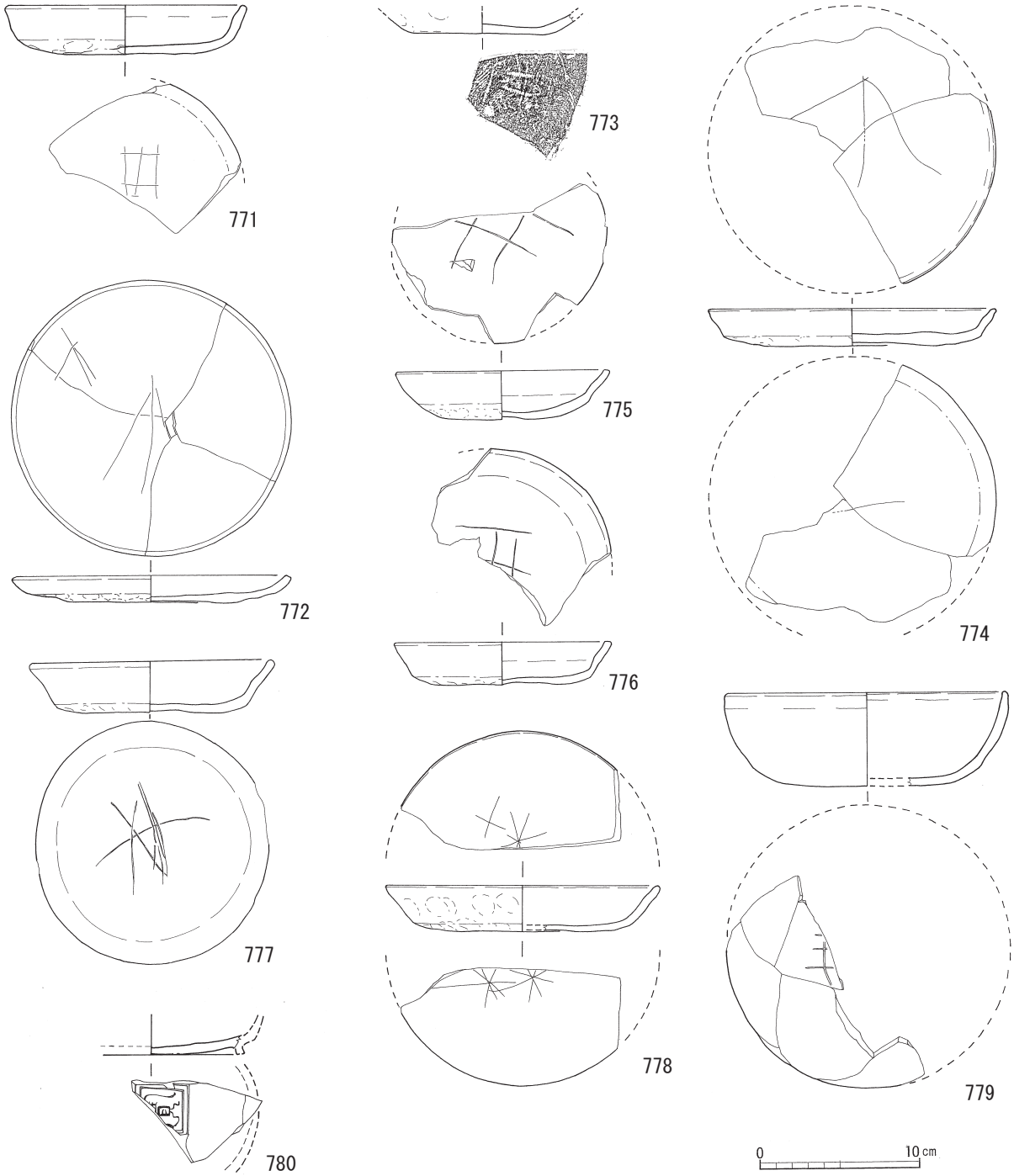
(9) 山本雅靖「志摩式製塩土器考」『考古学論集 第３集』考古学を学ぶ会 1990

(10) 大川勝宏「斎宮跡の祭祀と出土遺物」『三重県史 資料編 考古２』三重県 2008

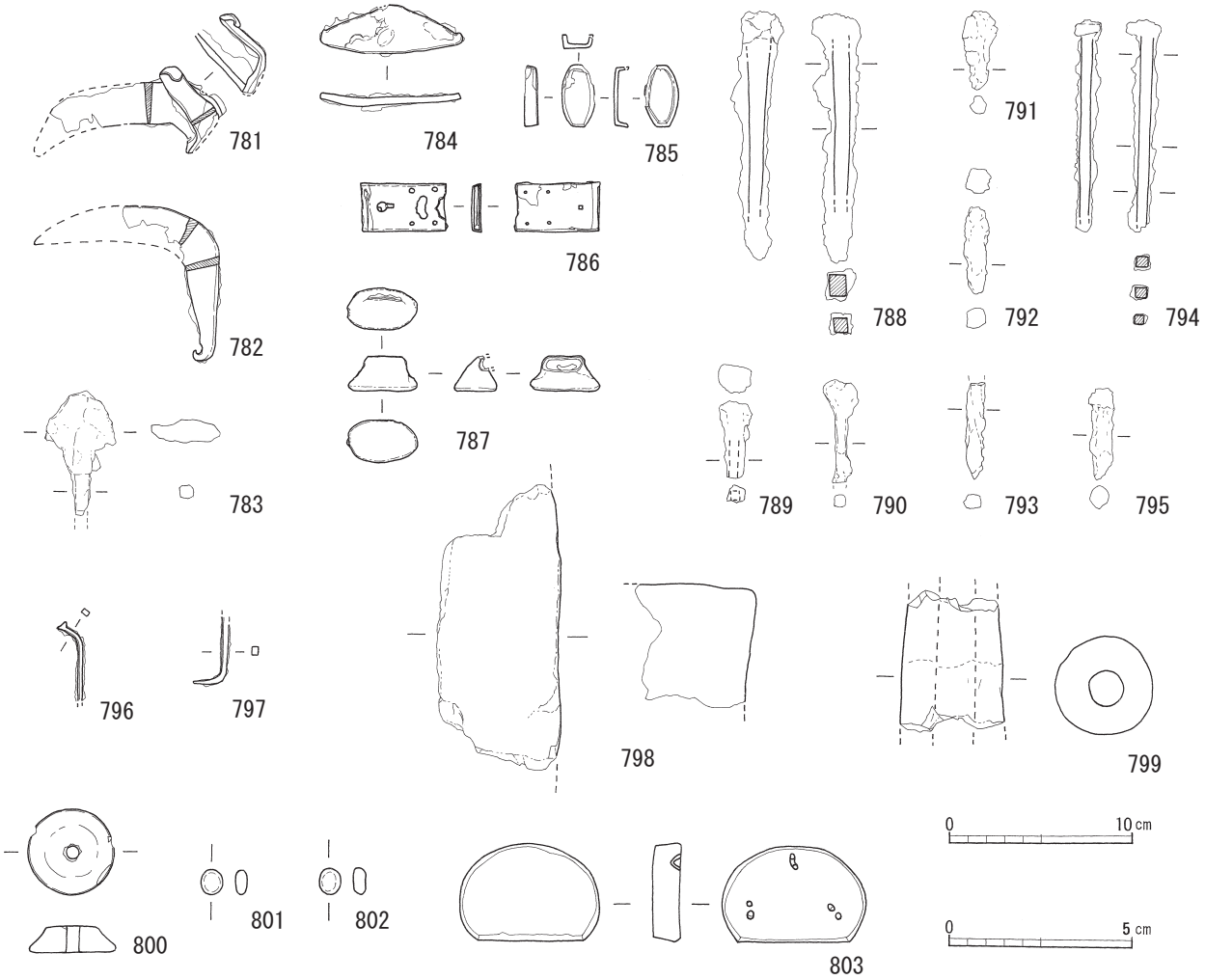
(11) 前掲(10)

(12) 三重県埋蔵文化財センター編『下茅原遺跡(第１次・第２次)、東沖遺跡発掘調査報告』 2009

(13) 三重県埋蔵文化財センター 大川操氏のご教示による



第20図　刻書土器（１：４）



第21図　金属製品・金属関連遺物・石製品（１：４）（803は１：２）

第２表　出土遺物観察表（１）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	009-04	土師器	杯Ａ	20	ＳＢ1080	口径 13.4 残高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	緻密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/6	西側身舎棟柱穴出土
2	009-05	土師器	杯Ａ	20	ＳＢ1080	口径 － 残高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	口縁径の1/10	南側身舎西から２つ目の柱穴出土
3	009-08	土師器	椀Ａ２	20	ＳＢ1080	口径 15.2 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/7	身舎北西隅柱穴出土
4	009-03	土師器	皿Ａ１	20	ＳＢ1080	口径 16.2 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR6/6	口縁径の1/3	北側身舎西から2つ目の柱穴出土
5	010-01	土師器	高坏Ａ	20	ＳＢ1080	口径 20.8 残高 2.5	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ヘラミガキ	緻密	良	明赤褐 5YR5/8	口縁径の1/4	南側身舎西から4つ目の柱穴出土
6	009-06	土師器	蓋	20	ＳＢ1080	口径 － 残高 2.3	貼付宝珠つまみ、内外面の調製不明	密	良	橙 7.5YR6/8	つまみ部のみ	西側身舎棟柱穴出土
7	009-07	土師器	甕Ａ	20	ＳＢ1080	口径 16.8 残高 5.7	口縁部ヨコナデ、体部外面タテ・ナナメハケ、内面ヨコハケ	微細な白色粒を多量に含む	良	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：褐灰 7.5YR4/1	口縁径の1/8	北側身舎西から4つ目の柱穴出土、被熱痕あり
8	009-02	須恵器	盤	20	ＳＢ1080	口径 14.3 残高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、貼付高台痕	密	良	灰黄 2.5Y7/2～オリーブ黒 5Y3/1	口縁径の1/8	南側身舎西から2つ目の柱穴出土
9	009-01	須恵器	薬壺蓋	20	ＳＢ1080	口径 13.2 器高 3.9	体部ロクロナデ、貼付宝珠つまみ	密	良	外：浅黄 2.5Y7/3 内：オリーブ黒 5Y3/1	全体の約50%	北側身舎西から2つ目の柱穴出土
10	010-02	土製品	土錘	20	ＳＢ1080	全長 3.7 幅 1.9	外面ナデ	密	堅緻	灰黄 2.5Y7/2	完形	北側身舎西から2つ目の柱穴出土
11	111-03	土師器	高坏Ａ	143	ＳＢ9003	残高 5.5	外面ヘラケズリにより10面の面取り	微細な白色粒含むが密	良	にぶい褐 7.5YR5/4	脚部の一部	身舎南側棟柱穴掘形出土
12	111-02	土師器	甕	143	ＳＢ9003	口径 － 残高 1.8	口縁部ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部の一部	東側身舎南から2つ目の柱穴掘形出土
13	111-03	須恵器	広口壺	143	ＳＢ9003	口径 － 残高 2.3	口縁部ロクロナデ	密	良	外：黄灰 2.5Y5/1 内：にぶい黄褐 2.5Y5/1	口縁部の一部	東側身舎北から2つ目の柱穴掘形出土
14	043-01	土師器	杯	152	ＳＢ9750	口径 14.4 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約10%	身舎南東隅柱穴出土
15	043-02	土師器	杯Ａ	152	ＳＢ9750	口径 － 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	口縁部の一部	身舎南東隅柱穴掘形出土
16	043-04	土師器	甕Ａ	152	ＳＢ9750	口径 16.4 残高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面粗いタテハケ、内面横方向の断続板ナデ	密	良	外：にぶい橙 5YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/10	身舎南西脇柱穴掘形出土、外面に煤付着
17	043-03	灰釉陶器	椀	152	ＳＢ9750	高台径 7.4 残高 1.5	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台、内面に灰釉がゴマメ状にかかる	1㎜以下の白色粒・黒色粒を含む	良	外：灰白 5Y7/2 内：にぶい黄 2.5Y6/3	底部の一部	南側身舎西から2つ目の柱穴掘形出土

第３表　出土遺物観察表（２）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
18	043-05	灰釉陶器	椀	152	ＳＢ9750	口径 － 残高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、内面にうすく灰釉かかる	密	良	灰白 2.5Y8/1	口縁部の一部	身舎南西隅柱穴掘形出土
19	043-06	土製品	土錘	152	ＳＢ9750	全長 4.8 幅 1.5	外面ナデ	密	やや軟	浅黄 2.5Y7/3	ほぼ完形	南側身舎西から2つ目の柱穴掘形出土
20	043-07	土製品	土錘	152	ＳＢ9750	残長 3.9 幅 1.3	外面ナデ	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約80%	南側身舎西から2つ目の柱穴掘形出土
21	044-01	土師器	椀Ｃ	152	ＳＢ9751	口径 19.4 器高 5.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面強いナデ痕	微細な砂粒を多量に含む	やや軟	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：褐灰 10YR4/1	口縁径の1/8	北側庇西から3つ目の柱穴柱痕跡出土
22	043-10	土師器	皿Ｄ	152	ＳＢ9751	口径 9.2 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良	外：灰黄 2.5Y7/2 内：浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/3	北側庇西から3つ目の柱穴柱痕跡出土
23	043-09	ロクロ土師器	小皿	152	ＳＢ9751	口径 9.6 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	微細な砂粒を多量に含む	やや軟	灰白 2.5Y8/2	全体の約60%	身舎南東隅柱穴柱痕跡出土
24	044-02	土師器	鉢	152	ＳＢ9751	口径 15.4 残高 6.9	口縁部ヨコナデ、体部内外面雑なナデ	微細な砂粒を多量に含むが密	良	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：橙 5YR6/6	口縁径の1/10	北側庇西から2つ目の柱穴掘形出土、被熱痕あり
25	043-08	灰釉陶器	段皿	152	ＳＢ9751	口径 14.6 残高 1.9	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、内面にうすく灰釉かかる	密	良	外：灰黄 2.5Y7/2 内：浅黄 2.5Y7/3	口縁径の1/8	身舎南東隅柱穴柱痕跡出土
26	044-03	土師器	皿Ｄ	152	ＳＢ9752	口径 9.0 器高 1.8	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ	微細な砂粒を多量に含むが密	良	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の2/5	北側庇西から3つ目のの柱穴柱痕跡出土
27	044-4	土師器	皿Ｄ	152	ＳＢ9752	口径 － 残高 2.1	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	やや軟	灰白 2.5Y8/2	口縁径の1/10	北側庇東から2つ目の柱穴掘形出土
28	045-02	土師器	杯Ｄ	152	ＳＢ9753	口径 13.8 残高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/6	北側桁行西から３つ目の柱穴柱痕跡出土
29	044-08	土師器	杯Ｄ	152	ＳＢ9753	口径 13.2 残高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	やや軟	灰白 10YR8/2	口縁径の1/8	北側桁行西から3つ目の柱穴掘形出土
30	045-01	土師器	椀Ｃ	152	ＳＢ9753	口径 15.4 残高 3.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ・ヘラ状工具痕	微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y8/2	口縁径の1/6	北側桁行西から3つ目の柱穴柱痕跡出土
31	045-04	土師器	皿Ｄ	152	ＳＢ9753	口径 8.8 残高 1.6	内外面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/3	北側桁行西から3つ目の柱穴柱痕跡出土
32	045-03	土師器	皿Ｄ	152	ＳＢ9751	口径 8.6 器高 1.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/3	北側桁行西から3つ目の柱穴掘形出土
33	044-06	土師器	皿Ｄ	152	ＳＢ9753	口径 10.4 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR7/6	口縁径の2/5	東側棟柱穴柱痕跡出土
34	044-07	ロクロ土師器	杯	152	ＳＢ9753	口径 13.2 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切痕	微細な砂粒を多量に含むが密	やや軟	浅黄橙 10YR8/3	全体の約30%	北側桁行西から3つ目の柱穴柱痕跡出土
35	044-05	無釉陶器	椀	152	ＳＢ9753	口径 15.0 残高 4.4	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、内面に自然釉	密	良	外：灰 5Y6/1 内：暗オリーブ 5Y4/3	口縁径の1/10	北側桁行西から3つ目の柱穴掘形出土
36	005-02B	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0541	口径 16.4 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ	密	堅緻	橙 5YR6/6	口縁径の1/3	
37	005-01B	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0541	口径 16.6 器高 4.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約60%	
38	005-03B	土師器	杯Ｇ	10	ＳＫ0541	口径 12.8 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明黄褐 2.5Y7/6	完形	
39	005-05B	土師器	皿Ａ１	10	ＳＫ0541	口径 16.0 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	やや軟	橙 5YR6/8	口縁径の1/6	
40	005-04B	土師器	皿Ａ１	10	ＳＫ0541	口径 21.0 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	明黄褐 10YR6/6	口縁径の1/8	
41	005-07B	土師器	蓋	10	ＳＫ0541	口径 21.4 器高 4.7	外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ナデ・螺旋状暗文、貼付宝珠つまみ	精良	良	橙 5YR6/6	全体の約60%	
42	005-06B	須恵器	無台盤	10	ＳＫ0541	口径 20.0 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ	密 白色粒を含む	堅緻	外：灰黄 2.5Y6/2	口縁径の1/7	
43	Ｒ55	土師器	杯Ａ	8-10	ＳＥ0276	口径 13.1 器高 4.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	ほぼ完形	底部外面に「×」字状の焼成後線刻
44	Ｒ54	土師器	杯Ａ	8-10	ＳＥ0276	口径 14.2 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約90%	底部外面に「×」字状の焼成後線刻、口縁部に油煙付着
45	Ｒ56	土師器	杯Ａ	8-10	ＳＥ0276	口径 14.2 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 2.5YR6/6	全体の約70%	
46	Ｒ58	土師器	皿Ａ２	8-10	ＳＥ0276	口径 17.1 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	橙 2.5YR6/6	全体の約40%	
47	003-02	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 12.3 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約80%	
48	003-04	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 12.6 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	やや軟	外：黄橙 7.5YR7/8 内：橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
49	003-01	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 13.0 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約80%	
50	003-05	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 13.3 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約25%	
51	003-07	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 13.9 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：浅黄橙 10YR8/4	全体の約25%	
52	003-03	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 14.6 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約60%	
53	003-10	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 － 残高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ・暗文	精良	良	橙 5YR6/6	口縁部の一部	
54	003-11	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1079	口径 － 残高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ・放射状暗文	精良	良	橙 5YR6/6	口縁部の一部	
55	003-06	土師器	皿Ａ	20	ＳＫ1079	口径 15.8 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約20%	
56	003-12	土師器	皿Ａ	20	ＳＫ1079	口径 － 残高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ・放射状暗文	密	良	橙 5YR6/6	口縁部の一部	
57	004-04	土製品	土錘	20	ＳＫ1079	残長 3.9 幅 1.4	外面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
58	003-08	土師器	高杯	20	ＳＫ1079	口径 24.0 残高 3.0	口縁端部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデのち螺旋状暗文	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/6	
59	003-09	土師器	高杯	20	ＳＫ1079	残高 6.0	脚部外面ナデ・一部ハケ、内面ナデ・シボリ	密	良	橙 5YR6/8	脚部のみ残存	
60	004-03	土師器	鉢	20	ＳＫ1079	口径 16.3 残高 6.0	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ・ヘラケズリ、内面ヨコハケ	密	良	橙 5YR6/8	口縁径の1/4	
61	004-02	土師器	甕Ｃ	20	ＳＫ1079	口径 23.8 残高 5.7	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：浅黄橙 10YR8/4 内：にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の1/3	
62	004-01	土師器	甕Ｃ	20	ＳＫ1079	口径 23.2 残高 8.3	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：橙 7.5YR7/6 内：明黄褐 10YR7/6	口縁径の1/3	
63	004-05	須恵器	蓋	20	ＳＫ1079	口径 13.7 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰 5Y6/1	全体の約70%	
64	004-07	須恵器	蓋	20	ＳＫ1079	口径 － 残高 2.7	体部外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	黄灰 2.5Y6/1	全体の約20%	
65	004-06	須恵器	蓋	20	ＳＫ1079	口径 － 残高 2.8	体部外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密	良	灰黄 2.5Y7/2	全体の約30%	
66	004-09	須恵器	杯Ｂ	20	ＳＫ1079	口径 16.7 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部ロクロケズリも貼付高台	密 2㎜以下の砂・石含む	良	灰黄 2.5Y7/2	高台径の1/5	
67	004-08	須恵器	無台盤	20	ＳＫ1079	口径 18.1 残高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰白 5Y7/1	全体の約10%	

第４表　出土遺物観察表（３）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
68	006-05	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1377	口径 12.8 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
69	006-06	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1377	口径 15.5 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：橙 7.5YR7/6 内：黄橙 7.5YR7/8	全体の約30%	
70	006-04	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1377	口径 14.9 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：明黄褐 10YR7/6 内：黄橙 7.5YR7/8	全体の約80%	
71	006-09	土師器	椀Ａ２	28	ＳＫ1377	口径 12.2 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：浅黄橙 7.5YR8/6 内：橙 7.5YR7/6	全体の約40%	
72	006-07	土師器	椀Ａ２	28	ＳＫ1377	口径 13.4 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約80%	
73	006-08	土師器	椀Ａ２	28	ＳＫ1377	口径 13.2 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：橙 5YR6/6	全体の約50%	
74	006-03	土師器	皿Ａ	28	ＳＫ1377	口径 16.8 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
75	006-02	土師器	皿Ａ	28	ＳＫ1377	口径 17.5 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
76	006-01	土師器	皿Ａ	28	ＳＫ1377	口径 17.1 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	外：明黄褐 10YR7/6 内：橙 5YR6/6	全体の約80%	
77	006-10	土師器	甕Ａ	28	ＳＫ1377	口径 16.4 残高 6.6	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	外：灰黄 2.5Y6/2 内：暗灰黄 2.5Y4/2	口縁径の2/5	
78	006-11	須恵器	蓋	28	ＳＫ1377	口径 12.7 残高 1.3	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、上面に自然釉かかる	密	良	素地：灰白 2.5Y7/ 釉：灰オリーブ 5Y5/3	全体の約30%	
79	006-12	土製品	土錘	28	ＳＫ1377	残長 5.6 幅 1.8	外面ナデ・オサエ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y7/6 ～橙 7.5YR7/6	全体の約90%	
80	Ｒ9	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 18.8 器高 4.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ後暗文か	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/8	
81	002-02	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 19.6 器高 4.4	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	やや軟	黄橙 7.5YR7/8	全体の約50%	
82	001-09	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 16.9 器高 4.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ後放射状暗文	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
83	001-08	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 15.8 器高 4.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	やや軟	橙 7.5YR7/6	全体の約90%	
84	Ｒ16	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 15.6 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/6	
85	001-07	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 15.0 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部内外面の調製不明	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	口縁径の1/6	
86	Ｒ7	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 13.9 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約70%	
87	Ｒ8	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 13.6 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	精良	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
88	Ｒ17	土師器	杯Ａ	28	ＳＫ1291	口径 13.7 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	口縁径の1/3	
89	002-01	土師器	杯Ｂ	28	ＳＫ1291	口径 18.8 器高 4.5	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	やや軟	橙 7.5YR7/6	全体の約30%	
90	001-04	土師器	杯Ｇ	28	ＳＫ1291	口径 12.3 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約90%	
91	Ｒ11	土師器	皿Ａ１	28	ＳＫ1291	口径 18.4 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	やや軟	橙 5YR6/6	全体の約20%	
92	Ｒ6	土師器	皿Ａ１	28	ＳＫ1291	口径 17.4 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約20%	
93	001-06	土師器	皿Ａ１	28	ＳＫ1291	口径 15.9 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部内外面の調整不明	密 1㎜以下の砂粒含む	やや軟	橙 7.5YR7/6	口縁径の1/5	
94	001-05	土師器	皿Ａ１	28	ＳＫ1291	口径 15.8 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	黄橙 7.5YR7/8	口縁径の1/8	
95	Ｒ5	土師器	皿Ａ２	28	ＳＫ1291	口径 17.2 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
96	002-03	土師器	甕Ａ	28	ＳＫ1291	口径 22.6 器高 16.3	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ・内面ヨコハケ、底部外面不定方向のハケ・内面ヘラケズリ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	全体の約60%	
97	Ｒ10	土師器	甕Ａ	28	ＳＫ1291	口径 23.6 残高 10.6	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/3	
98	Ｒ12	土師器	甕Ａ	28	ＳＫ1291	口径 25.0 残高 6.4	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	口縁径の1/3	
99	003-01	土師器	甑	28	ＳＫ1291	口径 24.0 器高 25.9	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ・内面ヨコハケ、底部内外面ヘラケズリ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR6/6	全体の約30%	
100	Ｒ3	須恵器	蓋	28	ＳＫ1291	口径 17.6 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密	良	灰白 5Y6/1	全体の約20%	重ね焼き痕あり
101	Ｒ14	須恵器	蓋	28	ＳＫ1291	口径 13.6 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密	やや軟	灰白 5Y6/1	全体の約50%	
102	Ｒ4	須恵器	蓋	28	ＳＫ1291	口径 14.0 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	ほぼ完形	
103	Ｒ1	須恵器	蓋	28	ＳＫ1291	口径 14.4 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、貼付つまみ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y7/1	口縁径の1/5	部分的に自然釉付着
104	001-01	須恵器	双耳瓶 蓋	28	ＳＫ1291	口径 8.9 器高 4.9	体部内外面ロクロナデ、頂部ロクロヘラケズリ後ナデか、自然釉かかる	密	良	胎土：黄灰 2.5Y6/1	全体の約50%	
105	001-03	須恵器	薬壺蓋	28	ＳＫ1291	口径 13.3 器高 2.5	体部内外面ロクロナデ、頂部ロクロケズリ、自然釉かかる	密	良	胎土：黄灰 2.5Y6/1	全体の約20%	
106	Ｒ2	須恵器	杯Ｂ	28	ＳＫ1291	口径 13.8 器高 3.6	体部ロクロナデ、底部外面ヘラケズリ、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y7/1	全体の約60%	
107	001-02	須恵器	杯Ｂ	28	ＳＫ1291	口径 14.0 器高 3.6	体部内外面ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	良	灰白 5Y7/1	全体の約30%	
108	Ｒ13	須恵器	盤	28	ＳＫ1291	口径 21.5 残高 2.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	やや軟	灰白 5Y7/1	口縁径の1/10	
109	Ｒ15	須恵器	高杯	28	ＳＫ1291	口径 26.0 残高 6.0	口縁部ヨコナデ、杯体部外面ロクロナデ後下半ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	良	灰白 5Y6/1	杯部のみ残存	
110	030-04	土師器	杯Ａ	10	ＳＤ0535	口径 13.5 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約70%	
111	034-02	土師器	椀Ａ	10	ＳＤ0535	口径 13.1 残高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ、体部外面ヘラケズリ	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/5	
112	030-01	土師器	椀Ａ	10	ＳＤ0535	口径 13.2 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 2.5YR6/6	全体の約40%	
113	030-03	土師器	椀Ａ	10	ＳＤ0535	口径 13.0 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約40%	
114	030-02	土師器	椀Ｂ	10	ＳＤ0535	口径 17.4 残高 3.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
115	030-05	土師器	皿Ａ１	10	ＳＤ0535	口径 18.6 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約30%	
116	030-06	土師器	皿Ａ１	10	ＳＤ0535	口径 － 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	口縁部の一部	
117	030-08	土師器	薬壺	10	ＳＤ0535	口径 13.9 残高 7.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ヘラケズリ、貼付取手	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁径の1/10	

第５表　出土遺物観察表（４）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
118	031-01	土師器	甕Ａ	10	ＳＤ0535	口径 12.8 残高 4.7	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 5YR6/4	口縁径の1/6	
119	031-02	土師器	甕Ａ	10	ＳＤ0535	口径 14.9 残高 4.5	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/6	
120	032-02	土師器	甕Ａ	10	ＳＤ0535	口径 16.1 残高 6.2	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/4	
121	031-03	土師器	甕Ｃ	10	ＳＤ0535	口径 25.8 残高 5.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ヨコハケ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の1/4	
122	032-03	土師器	甕Ａ	10	ＳＤ0535	口径 22.2 残高 9.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ヨコハケ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/3	
123	032-01	土師器	鍋Ａ	10	ＳＤ0535	口径 27.9 残高 6.5	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の1/10	
124	034-03	須恵器	蓋	10	ＳＤ0535	口径 14.4 残高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部上面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	やや軟	外：にぶい黄橙　10YR6/4 内：にぶい黄 2.5Y6/3	口縁径の1/6	
125	030-07	須恵器	杯Ｂ	10	ＳＤ0535	口径 － 残高 1.7	内面ロクロナデ、底部外面ロクロヘラケズリ、体部ロクロナデ、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	高台径の1/12	
126	034-01	土師器	杯Ａ	10	ＳＤ0530	口径 12.5 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	やや軟	橙 5YR6/8	全体の約30%	
127	034-05	土師器	椀Ａ	10	ＳＤ0530	口径 17.2 器高 7.3	体部外面ヘラミガキ、内面ナデ・放射状暗文、底部外面ヘラケズリ	密	良	橙 5YR6/8	口縁径の1/8	
128	034-04	土師器	高杯	10	ＳＤ0530	口径 24.8 残高 3.3	杯部外面ヘラケズリ後ていねいなナデ、内面ナデ後放射状＋螺旋状暗文	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/4	
129	033-01	土師器	鍋Ｂ	10	ＳＤ0530	口径 31.6 残高 16.1	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ・内面ヨコハケ、体部外面ヨコハケ・内面ヘラケズリ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約30%	
130	001-01Ｂ	須恵器	鉢	10	ＳＤ0530	口径 22.2 器高 12.0	口縁部ヨコナデ、体部外面上半ロクロナデ・下半ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/	ほぼ完形	
131	001-03Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 13.5 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
132	001-02Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 14.9 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約40%	
133	001-09Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 17.0 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
134	001-05Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 17.5 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/8	
135	001-10Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 13.4 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約40%	
136	001-01Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 13.1 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	ほぼ完形	
137	001-04Ｂ	土師器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 16.4 器高 3.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/8	
138	001-08Ｂ	土師器	椀Ａ２	10	ＳＫ0557	口径 13.0 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約60%	
139	001-06Ｂ	土師器	椀Ａ２	10	ＳＫ0557	口径 13.6 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
140	001-07Ｂ	土師器	椀Ａ２	10	ＳＫ0557	口径 14.4 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約40%	
141	002-07Ｂ	土師器	椀Ａ２	10	ＳＫ0557	口径 16.9 器高 5.1	口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ、内面ナデ・斜格子状暗文	密	良	橙 5YR6/8	全体の約40%	
142	002-06Ｂ	土師器	皿Ａ	10	ＳＫ0557	口径 14.7 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/6	
143	002-04Ｂ	土師器	皿Ａ	10	ＳＫ0557	口径 17.5 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約60%	
144	002-05Ｂ	土師器	皿Ａ	10	ＳＫ0557	口径 18.6 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/6	
145	002-03Ｂ	土師器	甕Ａ	10	ＳＫ0557	口径 16.5 残高 5.5	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：にぶい橙 5YR6/4 内：にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/6	
146	002-02Ｂ	土師器	甕Ａ	10	ＳＫ0557	口径 18.0 残高 6.2	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/4	
147	003-02Ｂ	土師器	甕Ａ	10	ＳＫ0557	口径 16.0 残高 12.1	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ、底部内外面ヘラケズリ	密	良	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい橙 2.5YR6/4	口縁径の1/6	
148	002-01Ｂ	土師器	甕Ａ	10	ＳＫ0557	口径 20.6 器高 12.7	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：にぶい橙 5YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/6	
149	003-01Ｂ	土師器	鉢	10	ＳＫ0557	口径 22.0 残高 8.5	口縁部ヨコナデ、体部外面上半タテハケ・下半ヘラケズリ、内面ヨコハケ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約20%	
150	003-03Ｂ	土師器	鍋Ｂ	10	ＳＫ0557	口径 30.0 器高 10.5	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約25%	
151	004-01Ｂ	土師器	甑	10	ＳＫ0557	口径 26.0 器高 30.0	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ・内面ヨコハケ、底部付近ヘラケズリ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/4	
152	002-07Ｂ	須恵器	杯Ａ	10	ＳＫ0557	口径 12.4 器高 3.6	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/	全体の約60%	
153	002-09Ｂ	製塩土器	志摩式 製塩土器	10	ＳＫ0557	口径 － 残高 3.2	外面ナデ・オサエ、内面板ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 7.5YR7/6	口縁部の一部	
154	042-04	土師器	皿Ａ	152	ＳＤ9046	口径 16.7 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約40%	
155	042-03	土師器	皿Ａ２	152	ＳＤ9046	口径 17.2 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
156	042-05	土師器	皿Ｂ１	152	ＳＤ9046	口径 16.7 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、貼付高台	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	全体の約20%	
157	042-02	須恵器	杯Ａ	152	ＳＤ9046	口径 17.1 器高 5.4	体部内外面ロクロナデ、底部外面ヘラケズリ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	黄灰 2.5Y5/1	全体の約30%	
158	042-01	須恵器	甕	152	ＳＤ9046	口径 21.7 残高 10.7	口縁部ヨコナデ、体部外面タタキ、内面タタキ後ナデ、自然釉付着	密 3㎜以下の砂・石含む	良	灰白 2.5Y7/1	口縁径の1/3	
159	Ｒ75	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 15.2 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	底部外面に「内」と墨書
160	Ｒ81	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 15.3 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
161	Ｒ79	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 15.2 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約90%	
162	Ｒ84	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 15.2 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明黄褐 10YR7/6	ほぼ完形	
163	Ｒ110	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 15.1 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/6	ほぼ完形	
164	Ｒ80	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 14.9 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
165	Ｒ70	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 14.8 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約60%	
166	Ｒ82	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 14.8 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	
167	Ｒ46	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 14.6 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	完形	底部外面に墨書があるが判読不能

第６表　出土遺物観察表（５）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
168	R77	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 14.6 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約40%	
169	R78	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 14.0 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
170	R69	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.9 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	やや軟	外：橙 7.5YR6/8 内：明赤褐 5YR5/8	全体の約60%	
171	R74	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.8 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
172	R76	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.4 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	ほぼ完形	
173	R67	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.4 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/8	全体の約90%	墨書あるが判読不能
174	R35	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.4 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8 ～にぶい黄橙 10YR7/4	完形	
175	R71	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.8 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6/8	全体の約90%	
176	R65	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.2 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 5YR5/8	ほぼ完形	底部外面に「×」字状の線刻
177	R73	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.1 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
178	R68	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 13.0 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR5/8	完形	
179	R50	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.9 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	完形	
180	R4	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.8 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6 ～にぶい黄橙 10YR7/4	完形	
181	R36	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.8 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/6	完形	
182	R66	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.8 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6	全体の約70%	
183	R72	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.8 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6 ～明黄褐 10YR7/6	全体の約70%	
184	R38	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.9 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	外：明黄褐 10YR7/6 内：橙 5YR6/6	完形	
185	R47	土師器	杯Ａ	20	ＳＫ1045	口径 12.7 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/6	完形	
186	R93	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 21.1 器高 4.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面斜格子状暗文	密	良	明褐 7.5YR5/8	全体の約20%	
187	R94	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 16.9 器高 4.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	外：明黄褐 10YR7/6 内：橙 7.5YR6/8	全体の約50%	
188	R92	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 19.1 器高 4.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約20%	
189	R86	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 18.1 器高 4.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明黄褐 10YR7/6	全体の約50%	
190	R85	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 17.8 器高 4.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	黄橙 7.5YR7/8	全体の約50%	底部外面に墨書があるが判読不能
191	R95	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 17.7 器高 4.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明黄褐 10YR7/6	全体の約30%	
192	R88	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 17.5 器高 5.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面放射状暗文と螺旋状暗文	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 2.5YR5/8	全体の約25%	
193	R6	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 17.2 器高 4.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：橙 7.5YR6/6	完形	
194	R91	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 17.1 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約40%	
195	R41	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 16.8 器高 4.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
196	R97	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 16.2 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明黄褐 10YR7/6 ～オリーブ黒 7.5Y3/1	底部欠損	
197	R90	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 16.2 器高 4.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：橙 5YR6/6	全体の約50%	
198	R87	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 16.1 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面放射状暗文と螺旋状暗文	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約90%	
199	R89	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 15.8 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
200	R128	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 14.2 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 5YR5/6	全体の約70%	
201	R130	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 13.1 器高 3.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR6/6	全体の約70%	
202	R5	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 13.1 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約90%	
203	R129	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 12.8 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
204	R112	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 12.0 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 5YR5/8	完形	
205	R114	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 11.8 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR6/4	全体の約90%	
206	R126	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 11.0 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ナデ後螺旋状暗文	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約60%	
207	R125	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 10.4 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：橙 7.5YR6/8	完形	
208	R17	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 10.5 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	精良	良	橙 5YR6/8	完形	
209	R51	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 10.5 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	ほぼ完形	
210	R123	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 10.2 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	
211	R42	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 9.6 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	黄褐 10YR5/6	完形	
212	R124	土師器	椀Ａ２	20	ＳＫ1045	口径 9.2 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約30%	
213	R29	土師器	椀Ｂ	20	ＳＫ1045	口径 19.8 器高 6.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面放射状暗文と螺旋状暗文、貼付高台	密	良	明赤褐 5YR5/6	全体の約90%	
214	R25	土師器	椀Ｂ	20	ＳＫ1045	口径 19.6 器高 5.9	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ナデ、貼付高台	密	良	橙 7.5YR6/6	口縁径の1/5	
215	R3	土師器	椀Ｂ	20	ＳＫ1045	口径 17.1 器高 5.0	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ナデ、貼付高台	密	良	赤褐 2.5YR4/8	完形	内外面に被熱による黒変
216	R37	土師器	椀Ｂ	20	ＳＫ1045	口径 10.5 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ、貼付高台	密	良	明褐 7.5YR5/8	全体の約70%	
217	R2	土師器	椀Ｂ	20	ＳＫ1045	口径 16.4 器高 5.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ、貼付高台	密	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	高台が楕円形を呈する

第７表　出土遺物観察表（６）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
218	R56	土師器	椀B	20	SK1045	口径 17.0 器高 3.5	口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ、内面ナデ、暗文は不明、貼付高台	密	良	橙 5YR6/8	口縁径の7/10	
219	R19	土師器	椀B	20	SK1045	口径 18.0 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ後ナデ、内面ナデ、貼付高台	密	良	橙 7.5YR6/6	全体の約30%	
220	R26	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.6 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	精良	やや軟	明赤褐 2.5YR5/8	ほぼ完形	
221	R102	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.8 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	外：橙 7.5YR6/6 内：にぶい褐 7.5YR5/4	全体の約50%	
222	R101	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.8 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	
223	R105	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.8 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形	
224	R133	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.5 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR6/6	全体の約25%	
225	R109	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.5 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	
226	R103	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.5 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 2.5YR5/8	全体の約60%	
227	R108	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.3 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	
228	R106	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.2 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
229	R104	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.1 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 7.5YR5/6	全体の約50%	
230	R14	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.6 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約70%	口縁部内面に黒色物付着
231	R99	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.9 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	外：橙 7.5YR6/6 内：明黄褐 10YR7/6	全体の約60%	
232	R40	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.9 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	口縁径の7/10	
233	R98	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.8 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/8	全体の約70%	
234	R39	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.6 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約90%	
235	R107	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.2 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
236	R96	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.4 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約90%	口縁に黒色物が付着
237	R100	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.8 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	精良	良	橙 2.5YR6/6	全体の約25%	
238	R119	土師器	皿A	20	SK1045	口径 17.0 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 7.5YR6/6	全体の約30%	
239	R120	土師器	皿A	20	SK1045	口径 16.0 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
240	R113	土師器	皿A	20	SK1045	口径 14.6 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約70%	
241	R118	土師器	皿A	20	SK1045	口径 15.0 器高 1.8	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい橙 7.5YR5/4	全体の約50%	
242	R18	土師器	皿A	20	SK1045	口径 14.0 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR6/6	全体の約60%	
243	R122	土師器	皿A	20	SK1045	口径 14.0 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	やや軟	橙 2.5YR6/8	全体の約50%	
244	R121	土師器	皿A	20	SK1045	口径 14.1 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約70%	
245	R111	土師器	皿A	20	SK1045	口径 18.6 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約40%	
246	R59	土師器	皿B	20	SK1045	口径 18.0 器高 4.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付高台	密	良	橙 2.5YR6/6	全体の約25%	
247	R1	土師器	皿B	20	SK1045	口径 20.2 器高 4.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付高台	密	良	明赤褐 2.5YR5/8	口縁径の1/2	
248	R27	土師器	皿B	20	SK1045	口径 20.0 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約20%	
249	R24	土師器	蓋	20	SK1045	口径 23.6 器高 5.3	口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ、内面ナデ後螺旋状暗文、貼付つまみ	密	良	橙 5YR6/6	完形	
250	R43	土師器	蓋	20	SK1045	口径 24.0 残高 2.7	口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約50%	
251	R60	土師器	蓋	20	SK1045	口径 22.0 器高 5.2	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ナデ、貼付つまみ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約60%	内面にスス付着
252	R31	土師器	蓋	20	SK1045	口径 21.6 器高 5.4	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ナデ、貼付つまみ	密	良	明赤褐 5YR5/6	全体の約50%	内面に墨痕
253	R58	土師器	蓋	20	SK1045	口径 20.8 器高 3.5	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ナデ後螺旋状暗文、貼付つまみ	密	良	橙 7.5YR6/8	全体の約20%	内面にスス付着
254	R55	土師器	蓋	20	SK1045	口径 20.8 器高 4.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ後ヘラケズリ、内面ナデ、貼付つまみ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	
255	R62	土師器	蓋	20	SK1045	口径 20.0 残高 4.1	口縁部ヨコナデ、外面ハケ後ヘラミガキ、内面ナデ後螺旋状暗文、貼付つまみ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約30%	
256	R63	土師器	高杯	20	SK1045	脚径 11.0 残高 5.8	脚部内外面ナデ、杯部内面ナデ後螺旋状暗文	密	良	橙 5YR6/8	脚部のみ残存	
257	R54	土師器	高杯	20	SK1045	口径 12.5 残高 13.0	口縁部ヨコナデ、杯部内外面ナデ、脚部10面にヘラケズリによる面取り、脚裾部ヨコナデ	密	良	橙 5YR6/8	脚裾部欠損	
258	R53	土師器	高杯	20	SK1045	口径 27.3 残高 2.4	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	口縁径の1/2	
259	R45	土師器	高杯	20	SK1045	口径 26.5 残高 3.2	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/2	
260	R30	土師器	高杯	20	SK1045	口径 23.0 器高 15.5	口縁部ヨコナデ、杯部内外面ナデ、脚部10面にヘラケズリによる面取り、脚裾部ヨコナデ	密	良	明赤褐 5YR5/8	全体の約60%	
261	R28	黒色土器 A類	杯	20	SK1045	口径 15.8 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリか、内面ヘラミガキ後螺旋状暗文	密	良	外：にぶい黄橙 10YR5/4 内：黒 5Y2/1	全体の約40%	
262	R16	土師器	甕A	20	SK1045	口径 14.0 器高 10.3	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面横方向のナデ、底部外面ナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2	底部の一部欠損	底部外面にヘラ描き沈線
263	R33	土師器	甕A	20	SK1045	口径 13.2 器高 9.8	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ナデ、底部外面ヘラケズリ	密	良	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：灰黄褐 10YR6/2	完形	外面にスス付着
264	R131	土師器	甕C	20	SK1045	口径 23.3 残高 22.9	口縁部ヨコナデ、縦部外面タテハケ、内面上部ナデ、下部ヘラケズリ	密	良	外：褐灰 10YR4/1 内：にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約25%	口縁部外面にスス付着
265	R34	土師器	鍋A	20	SK1045	口径 21.6 器高 9.8	口縁部ヨコナデ、体部外面不明、内面上半ヨコハケ・下半ヘラケズリ	やや粗 小石橙含む	良	橙 5YR6/6	底部欠損	
266	R32	土師器	盤B	20	SK1045	口径 31.6 残高 10.8	口縁部ヨコナデ、体部外面上半タテハケ・下半ヘラケズリ、内面ヨコハケ、底部内面ヘラケズリ、挿入式把手	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	底部欠損	片口状
267	R132	土師器	盤B	20	SK1045	口径 41.2 器高 11.1	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ、底部内外面ヘラケズリ、挿入式把手	密	良	淡黄 2.5Y7/3	ほぼ完形	

第８表　出土遺物観察表（７）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
268	R117	土師器	鍋B	20	SK1045	口径 37.8 器高 21.4	口縁部ヨコナデ、体部外面上半タテハケ・下半ヨコハケ、内面上半ヨコハケ・下半ヘラケズリ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約25%	
269	R20	須恵器	杯A	20	SK1045	口径 21.7 器高 6.9	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	密	良	灰白 5Y7/2	全体の約50%	
270	R10	須恵器	杯A	20	SK1045	口径 11.8 器高 3.7	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰 5Y6/1	全体の約80%	
271	R127	須恵器	杯A	20	SK1045	口径 11.4 器高 3.8	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰黄 2.5Y6/2	口縁径の2/5	
272	R21	須恵器	杯A	20	SK1045	口径 17.5 器高 5.5	体部ロクロナデ、貼付高台	密	良	灰オリーブ 5Y5/2	全体の約40%	
273	R8	須恵器	杯B	20	SK1045	口径 11.4 器高 3.9	体部ロクロナデ、底部外面ヘラケズリ、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰 5Y6/1	全体の約70%	
274	R12	須恵器	杯B	20	SK1045	口径 21.4 器高 5.4	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ後ナデ、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰 5Y6/1	全体の約50%	
275	R13	須恵器	蓋	20	SK1045	口径 16.8 残高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	外：灰黄 2.5Y6/2 内：暗灰黄 2.5Y5/2	全体の約50%	
276	R9	須恵器	蓋	20	SK1045	口径 12.4 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラ切後ナデ、内面ナデ、貼付つまみ	密	良	灰 7.5Y6/1	全体の約50%	
277	R11	須恵器	蓋	20	SK1045	口径 13.4 残高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、外面にゴマメ状に自然釉	密 微細な砂粒を多量に含む	良	胎土：黄灰 2.5Y6/1 釉：暗灰黄.5Y3/2	全体の約50%	
278	R7	須恵器	蓋	20	SK1045	口径 21.2 器高 4.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロヘラケズリ、内面ロクロナデ、貼付つまみ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y7/1	全体の約60%	内面に墨書、判読不能
279	R23	須恵器	壺L	20	SK1045	口径 － 残高 15.2	体部ロクロナデ、外面自然釉	密	良	胎土：灰 5Y7/1 釉：オリーブ黒 5Y3/2	体部の約50%	体部に焼きぶくれ
280	R22	須恵器	壺L	20	SK1045	台径 3.6 残高 4.0	体部ロクロナデ、貼付高台か	密	良	灰 5Y6/1	全体の約50%	肩部に自然釉
281	R116	緑釉陶器	皿	20	SK1045	口径 17.8 残高 2.8	体部ロクロナデ後ていねいなヘラミガキ、釉は薄い	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：淡黄 5Y7/3	口縁径の1/16	
282	R15	灰釉陶器	皿	20	SK1045	口径 14.8 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、貼付高台	精良	良	素地：灰 7.5Y6/1 釉：オリーブ 5Y5/4	ほぼ完形	体部に焼きぶくれ
283	R48	灰釉陶器	皿	20	SK1045	口径 15.0 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	素地：灰黄 2.5Y6/2 釉：暗灰黄 2.5Y5/2	口縁径の7/10	底部外面に「泉」と墨書
284	R49	灰釉陶器	風字硯	20	SK1045	残長 8.4 幅 11.2	外縁部ヘラケズリ、内外面ナデ、外面に灰釉	密	良	素地：灰白 5Y7/1 釉：灰黄 2.5Y6/2	全体の約30%	
285	R134	灰釉陶器	鍑	20	SK1045	残高 9.3	体部ロクロナデ、脚部貼付、ヘラケズリ・ヘラ切により獣脚の表現、内外面に自然釉付着	密	良	灰黄 2.5Y6/2	脚部のみ残存	
286	008-02	土師器	杯A	28	SK1354	口径 14.0 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：橙5YR6/8 内：橙 7.5YR7/6	全体の約40%	内面に黒色物付着
287	008-01	土師器	杯A	28	SK1354	口径 14.7 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR6/6	全体の約90%	
288	008-03	土師器	杯A	28	SK1354	口径 14.7 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約30%	
289	008-05	土師器	杯A	28	SK1354	口径 15.7 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
290	008-10	土師器	杯A	28	SK1354	口径 15.7 器高 3.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明黄褐 10YR7/6	全体の約30%	
291	008-06	土師器	椀A 2	28	SK1354	口径 13.8 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
292	008-07	土師器	椀A 2	28	SK1354	口径 14.5 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約20%	
293	008-09	土師器	椀A 2	28	SK1354	口径 14.8 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	外：明黄褐 10YR6/6 内：橙 2.5YR6/8	全体の約30%	
294	008-04	土師器	椀A 2	28	SK1354	口径 16.0 器高 3.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約20%	
295	008-08	土師器	椀A 2	28	SK1354	口径 16.9 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約40%	
296	009-01	土師器	皿A 2	28	SK1354	口径 15.6 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
297	009-03	土師器	皿A 2	28	SK1354	口径 16.4 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
298	009-02	土師器	皿A 2	28	SK1354	口径 16.6 器高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/6	全体の約20%	
299	009-04	土師器	甕A	28	SK1354	口径 15.2 残高 8.3	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
300	009-05	灰釉陶器	椀	28	SK1354	台径 6.5 残高 2.0	体部ロクロナデ、貼付高台、灰釉刷毛塗り	密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：浅黄 7.5Y7/3	高台部のみ残存	
301	009-06	灰釉陶器	椀	28	SK1354	台径 6.3 残高 1.9	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	やや軟	灰白 5Y8/1	台径の1/4	
302	005-04	土師器	杯A	28	SE1295	口径 14.2 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約70%	
303	005-05	土師器	杯A	28	SE1295	口径 11.8 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約20%	
304	005-01	土師器	台付杯	28	SE1295	口径 15.2 器高 5.1	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約90%	ゆがみが大きい
305	005-02	土師器	台付小皿	28	SE1295	口径 9.4 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密	良	淡黄 2.5Y8/3	全体の約80%	
306	005-03	土師器	台付小皿	28	SE1295	口径 8.8 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	やや粗 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約80%	
307	005-06	土師器	甕A	28	SE1295	口径 17.4 残高 3.7	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/6	
308	005-08	灰釉陶器	椀	28	SE1295	口径 12.2 器高 3.5	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台、灰釉漬け掛け	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：オリーブ灰 10Y6/2	全体の約30%	
309	005-12	灰釉陶器	椀	28	SE1295	台径 6.1 残高 1.8	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	灰白 2.5Y7/1	底部のみ完存	
310	005-10	灰釉陶器	椀	28	SE1295	台径 6.9 残高 2.4	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	やや粗 0.5㎜以下の砂粒含む	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：灰オリーブ 7.5Y6/2	台径の1/4	
311	005-09	灰釉陶器	皿	28	SE1295	口径 12.9 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、灰釉漬け掛け	やや粗 0.5㎜以下の砂粒含む	良	素地：灰白 2.5Y8/2 釉：灰白 7.5Y7/2	全体の約40%	
312	005-11	灰釉陶器	皿	28	SE1295	台径 6.3 残高 2.1	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：灰オリーブ 7.5Y6/2	全体の約40%	
313	005-13	須恵器	椀	28	SE1295	底径 4.2 残高 1.8	体部ロクロナデ、底部ロクロケズリ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰白 7.5Y7/1	全体の約30%	
314	005-07	須恵器	台付鉢	28	SE1295	台径 11.0 残高 5.1	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	良	灰白 2.5Y7/1	台径の1/3	
315	015-01	土師器	皿D	28	SK1297	口径 9.4 器高 1.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	やや軟	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形	
316	015-02	土師器	皿D	28	SK1297	口径 10.4 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	やや軟	橙 5YR7/6 ～浅黄橙 7.5YR8/3	ほぼ完形	
317	016-02	土師器	杯D	28	SK1297	口径 14.6 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を 多量に含む	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁径の1/2	

第９表　出土遺物観察表（８）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
318	014-04	土師器	台付小皿	28	ＳＫ1297	口径 8.8 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約80%	
319	014-05	土師器	台付小皿	28	ＳＫ1297	口径 9.7 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約40%	
320	015-07	土師器	台付小皿	28	ＳＫ1297	台径 6.8 残高 3.9	体部内外面ナデ、貼付高台	微細な砂粒を 多量に含む	やや軟	外：にぶい橙 7.5YR7/4	脚台部のみ 残存	
321	015-04	土師器	高杯	28	ＳＫ1297	台径 9.4 残高 9.8	脚部外面ヘラケズリで弱い面取り・内面シボリ痕、台部・杯部ナデ	微細な砂粒を 多量に含む	やや軟	にぶい黄橙 10YR6/4	台径の1/4と 脚部のみ	
322	016-01	土師器	長頸壺	28	ＳＫ1297	口径 － 残高 7.6	外面シボリ痕、内面ナデ	密 微細な砂粒を含む	やや軟	外：浅黄橙 10YR8/3 内：灰白2.5Y8/2	頸部のみ残存	あるいは高杯の脚部か
323	015-09	土師器	台付鉢	28	ＳＫ1297	台径 11.2 残高 3.1	内外面強いナデ・オサエ痕、貼付高台	微細な砂粒を 多量に含む	やや軟	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい橙 7.5YR7/3	台径の1/3	粗製 内面に被熱痕
324	015-03	土師器	短頸壺	28	ＳＫ1297	口径 11.2 残高 6.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ヘラケズリか	微細な砂粒を 多量に含む	やや軟	外：灰白 2.5Y8/2 内：灰黄 2.5Y7/2	口縁径の1/4	
325	015-05	ロクロ 土師器	小型杯	28	ＳＫ1297	台径 3.8 残高 2.5	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 微細な砂粒を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約60%	
326	015-06	ロクロ 土師器	小型杯	28	ＳＫ1297	台径 4.0 残高 2.2	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 微細な砂粒を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約50%	
327	015-08	灰釉陶器	椀	28	ＳＫ1297	口径 14.0 残高 4.4	体部ロクロナデ、外面下部ロクロケズリ、灰釉漬け掛け	密	良	灰白 7.5Y7/1	口縁径の1/10	
328	014-02	灰釉陶器	椀	28	ＳＫ1297	口径 13.9 残高 3.9	体部ロクロナデ、外面下部ロクロケズリ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	口縁径の1/6	
329	014-03	灰釉陶器	椀	28	ＳＫ1297	台径 7.9 残高 2.1	体部ロクロナデ、外面下部ロクロケズリ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	釉：青白橡	台径の1/10	
330	014-01	ロクロ 土師器	台付皿	28	ＳＫ1297	口径 10.1 器高 2.4	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 3㎜以下の砂・石含む	堅緻	淡黄 2.5Y8/3	全体の約80%	陶器のような焼成
331	016-03	土製品	鞴羽口	28	ＳＫ1297	径 3.6～3.9 残長 10.8	表面は丁寧なナデ、内孔径は2.0cm	微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄 2.5Y6/3	先端・基部を 欠失	
332	007-01	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 11.2 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	灰黄褐 10YR6/2	全体の約30%	
333	002-08	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 10.0 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄 2.5Y7/4	全体の約80%	
334	007-02	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 10.7 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約40%	
335	001-06	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 10.8 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 やや砂質	良	灰白 2.5Y8/2	全体の約40%	
336	001-05	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 10.9 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
337	006-08	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 10.7 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約70%	
338	002-07	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 11.2 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
339	002-06	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 11.0 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約50%	
340	008-02	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 10.9 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/3	全体の約30%	
341	001-03	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 11.8 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約60%	
342	002-05	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 11.8 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	灰黄 2.5Y6/2	全体の約40%	
343	006-07	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 12.2 残高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	暗灰黄 2.5Y5/2	口縁径の1/3	
344	001-04	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 12.2 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 やや砂質	やや軟	浅黄橙 10YR8/3	全体の約70%	
345	007-08	土師器	杯Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 12.8 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約20%	
346	002-04	土師器	杯Ｄ	20	ＳＫ1048	口径 13.8 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約20%	
347	007-03	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1048	口径 14.8 器高 4.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約30%	
348	006-05	土師器	台付皿	20	ＳＫ1048	台径 6.2 残高 3.0	体部ナデ、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	高台部のみ残存	
349	007-04	土師器	台付皿	20	ＳＫ1048	台径 6.6 残高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	高台部のみ残存	
350	006-03	土師器	台付皿	20	ＳＫ1048	台径 6.4 残高 3.8	体部ナデ、貼付高台	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	高台部のみ残存	
351	002-02	土師器	台付椀	20	ＳＫ1048	口径 17.8 器高 7.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付高台	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約80%	
352	002-01	土師器	短頸壺	20	ＳＫ1048	口径 11.7 残高 7.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ、内面板ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約70%	
353	007-07	ロクロ 土師器	杯	20	ＳＫ1048	口径 16.6 残高 3.6	体部ロクロナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約30%	台付杯か
354	007-06	ロクロ 土師器	杯	20	ＳＫ1048	口径 12.1 器高 2.5	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約30%	
355	008-01	ロクロ 土師器	杯	20	ＳＫ1048	台径 5.2 残高 1.7	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	底部のみ残存	
356	007-05	ロクロ 土師器	台付小皿	20	ＳＫ1048	口径 10.5 残高 1.6	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
357	002-03	ロクロ 土師器	台付杯	20	ＳＫ1048	口径 8.2 残高 2.4	体部ロクロナデ	密	良	灰黄褐 10YR5/2	口縁径の1/6	
358	006-04	ロクロ 土師器	台付椀	20	ＳＫ1048	台径 4.5 残高 1.6	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	高台部のみ残存	
359	006-01	ロクロ 土師器	台付椀	20	ＳＫ1048	台径 5.4 残高 2.4	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	台径の3/2	
360	006-02	ロクロ 土師器	台付椀	20	ＳＫ1048	台径 5.5 残高 2.1	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	台径の3/4	
361	006-06	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1048	台径 7.9 残高 1.7	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	素地：にぶい黄橙 10YR6/3 釉：青白橡	台径の1/10	
362	001-07	製塩土器	志摩式 製塩土器	20	ＳＫ1048	口径 － 器高 6.2	外面ナデ、内面ヨコハケ	籾殻を大量に含む	良	橙 5YR6/6	－	
363	001-08	製塩土器	志摩式 製塩土器	20	ＳＫ1048	口径 － 残高 4.0	外面ナデ・オサエ、内面ヨコハケ	密 籾殻少量含む	良	にぶい褐 7.5YR5/4	－	
364	R57	金属製品	熨斗	20	ＳＫ1048	残長 11.3 残幅 6.5	銅製火皿部と鉄製柄部を銅製とみられる鋲３個で結合	－	－	－	火皿の大部分と 柄の先端を欠損	推定火皿径約13㎝
365	005-02	土師器	杯Ｄ	20	ＳＫ1071	口径 11.8 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 7.5Y8/2	全体の約30%	
366	005-01	土師器	杯Ｄ	20	ＳＫ1071	口径 14.5 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 7.5YR7/6	完形	口縁部に油煙付着
367	005-14	ロクロ 土師器	杯	20	ＳＫ1071	口径 14.4 残高 2.8	体部ロクロナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/4	

第10表　出土遺物観察表（９）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
368	005-17	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 8.4 器高 1.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	灰白 2.5Y8/2	口縁径の1/6	京都系コースター形
369	005-16	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 9.7 器高 0.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/2	京都系コースター形
370	005-07	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 7.8 器高 1.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3 ～暗灰黄 2.5Y5/2	口縁径の1/3	
371	005-03	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 9.5 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	やや軟	橙 5YR7/8	全体の約60%	
372	005-08	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 8.5 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	明黄褐 10YR7/6	全体の約40%	
373	005-06	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 8.8 器高 1.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	全体の約40%	
374	005-04	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 9.8 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR6/6	全体の約50%	
375	005-05	土師器	皿	20	ＳＫ1071	口径 9.4 器高 1.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄 2.5Y8/3 ～黄灰 2.5Y5/1	全体の約60%	
376	005-10	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1071	口径 9.6 器高 2.0	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約70%	
377	005-11	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1071	口径 9.3 器高 1.9	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
378	005-12	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1071	口径 9.0 器高 2.0	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約90%	
379	005-09	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1071	口径 9.8 器高 2.0	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	浅黄橙 10YR8/3 ～淡赤橙7.5YR7/3	全体の約60%	
380	005-13	ロクロ土師器	小型杯	20	ＳＫ1071	口径 8.3 器高 2.2	杯部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 7.5YR7/6	完形	
381	005-15	ロクロ土師器	杯	20	ＳＫ1071	底径 6.0 残高 2.1	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 雲母片含む	良	浅黄橙 10YR8/4	底部のみ完存	
382	紀19-15	白磁	椀	20	ＳＫ1071	口径 16.2 器高 6.8	体部ロクロナデ、体部外面下半ロクロケズリで露胎、玉縁口縁、削出高台、内面に圏線	密	堅緻	素地：灰白 10Y7/1 釉：灰白 7.5Y7/1	高台径の1/3	ガラス質の釉全面に貫入
383	005-18	無釉陶器	椀	20	ＳＫ1071	口径 － 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁部の一部	
384	Ｒ17	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1074	口径 14.3 器高 4.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/3	ほぼ完形	
385	Ｒ18	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1074	口径 13.9 器高 4.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約25%	
386	Ｒ40	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1074	口径 14.0 器高 4.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	外：橙 5YR6/6 内：にぶい黄橙 10YR7/2	口縁径の1/2	
387	Ｒ38	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1074	口径 14.3 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	粗 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
388	Ｒ41	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1074	口径 14.5 器高 4.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	黒褐 10YR3/1	全体の約40%	
389	R39	土師器	椀Ｃ	20	ＳＫ1074	口径 15.9 器高 4.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
390	Ｒ19	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 9.0 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y8/2	完形	
391	Ｒ26	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 9.0 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 10YR8/2 ～橙 5YR6/6	全体の約90%	
392	Ｒ28	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 9.8 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約80%	
393	Ｒ27	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 10.0 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗	良	にぶい橙 5YR6/4	全体の約90%	
394	Ｒ25	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 10.4 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/3	底部欠損	
395	Ｒ31	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 10.6 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗	良	黄灰 2.5Y4/1	全体の約50%	
396	Ｒ30	土師器	皿Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 10.6 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約50%	
397	Ｒ36	土師器	杯Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 12.9 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	
398	Ｒ37	土師器	杯Ｄ	20	ＳＫ1074	口径 12.6 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗	良	灰黄 2.5Y7/2	全体の約50%	
399	Ｒ16	土師器	台付小皿	20	ＳＫ1074	口径 9.3 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付高台	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約90%	
400	Ｒ15	土師器	台付小皿	20	ＳＫ1074	口径 8.6 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付高台	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	皿部径の1/2	
401	Ｒ48	土師器	台付皿	20	ＳＫ1074	口径 14.4 残高 1.8	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y8/2	皿部の約40%	
402	Ｒ21	土師器	台付椀	20	ＳＫ1074	口径 24.0 器高 10.6	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ、貼付高台	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR5/4	全体の約70%	被熱痕あり
403	Ｒ22	土師器	台付椀	20	ＳＫ1074	口径 23.6 器高 9.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰白 2.5Y8/2	全体の約50%	全体に雑な仕上げ
404	Ｒ42	土師器	甕	20	ＳＫ1074	口径 14.4 残高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ・オサエ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR5/4	口縁径の4/5	
405	Ｒ43	土師器	甕	20	ＳＫ1074	口径 21.4 残高 4.4	口縁部ヨコナデ、体部外面調整不明、内面ヨコハケ	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/5	
406	Ｒ13	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1074	口径 9.6 器高 1.3	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密	良	橙 7.5YR6/6	口縁径の7/10	
407	Ｒ14	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1074	口径 9.8 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	やや粗 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR6/3	口縁径の1/5	
408	Ｒ24	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1074	口径 10.8 器高 1.6	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密	良	外：黄灰 2.5Y5/1 内：にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約50%	
409	Ｒ29	ロクロ土師器	小皿	20	ＳＫ1074	口径 11.2 器高 2.1	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	やや粗 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄 2.5Y6/3	全体の約50%	
410	Ｒ35	ロクロ土師器	台付小皿	20	ＳＫ1074	口径 9.1 器高 2.3	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	やや粗	良	黄褐 2.5Y5/3	全体の約30%	陶器のような焼成
411	Ｒ11	ロクロ土師器	小型杯	20	ＳＫ1074	口径 8.9 器高 1.6	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密	良	淡黄 2.5Y8/3	全体の約90%	
412	Ｒ34	ロクロ土師器	小型杯	20	ＳＫ1074	口径 8.3 器高 3.1	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	密 微細な砂粒を多量に含む	良	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：黒褐 10YR3/1	全体の約30%	
413	Ｒ32	ロクロ土師器	小型杯	20	ＳＫ1074	口径 10.3 器高 2.4	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4 ～淡黄 2.5Y8/3	全体の約50%	
414	Ｒ12	ロクロ土師器	小型杯	20	ＳＫ1074	口径 9.1 器高 2.7	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁径の7/10	
415	Ｒ47	ロクロ土師器	椀Ｂ	20	ＳＫ1074	口径 14.6 器高 6.1	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	淡黄 2.5Y4/1	全体の約50%	
416	Ｒ49	須恵器	甕	20	ＳＫ1074	口径 49.8 残高 12.8	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ後外面平行タタキ目、内面同心円状のタタキ目	精良	良	灰 5Y6/1	口縁径の1/6	
417	Ｒ10	無釉陶器	鉢	20	ＳＫ1074	口径 25.9 器高 13.4	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、外面の一部ヘラケズリ、底部外面未調整	やや粗 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	底部の一部を欠損	

第11表　出土遺物観察表（10）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
418	R9	無釉陶器	鉢	20	ＳＫ1074	口径 29.9 器高 20.9	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、外面の一部へラケズリ、底部外面未調整	やや粗 2㎜以下の砂・小石含む	良	灰黄褐 10YR6/2	全体の約50%	
419	R20	灰釉陶器	台付鉢	20	ＳＫ1074	口径 28.0 器高 12.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ後ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付高台	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	灰黄 2.5Y6/2	全体の約50%	内面に自然釉かかる
420	R3	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 11.8 器高 4.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ後ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付高台	密	良	外：灰 5Y6/1 内：灰黄 2.5Y3/2	全体の約50%	六か所に輪花表現、内面に圏線五条
421	R45	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 14.2 器高 6.2	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台、灰釉ハケ塗り	密	良	灰白 5Y7/1	全体の約30%	
422	R6	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 14.6 器高 5.4	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	緻密	やや軟	灰黄褐 10YR6/2	口縁径の1/6	
423	R7	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 15.0 器高 5.3	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台、灰釉漬け掛け	密	良	黄灰 2.5Y6/1	全体の約90%	見込みに重ね焼き痕
424	R44	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 16.4 器高 6.5	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台、灰釉漬け掛け	密	良	素地：黄灰 2.5Y6/1 釉：暗灰黄 2.5Y5/2	全体の約30%	
425	R5	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 15.0 器高 5.8	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	にぶい黄 2.5Y6/3	全体の約50%	
426	R1	灰釉陶器	椀	20	ＳＫ1074	口径 15.6 器高 5.9	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密 3㎜以下の砂・石含む	良	黄灰 2.5Y6/1	口縁径の1/7	
427	R2	無釉陶器	椀 (山茶椀)	20	ＳＫ1074	口径 14.9 器高 5.4	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	黄灰 2.5Y6/1	全体の約50%	
428	R4	無釉陶器	椀 (山茶椀)	20	ＳＫ1074	口径 15.0 器高 5.6	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	全体の約60%	
429	R46	無釉陶器	椀 (山茶椀)	20	ＳＫ1074	口径 16.3 器高 5.2	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	やや粗 微細な砂粒を多量に含む	良	外：橙 7.5YR6/6 内：灰黄 2.5Y6/2	全体の約25%	
430	R23	灰釉陶器	壺	20	ＳＫ1074	台径 8.5 器高 22.4	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部外面ナデ、貼付高台	やや粗 3㎜以下の砂・石含む	良	素地：灰白 7.5Y7/1 釉：灰オリーブ 7.5Y6/2	口縁部欠損、体部の約50%残存	
431	R50	灰釉陶器	壺	20	ＳＫ1074	底径 12.8 残高 15.6	体部外面ロクロナデ後下半ロクロケズリ、内面ロクロナデ、底部外面ヘラケズリ、貼付高台	密 微細な砂粒を多量に含む	良	素地：灰 5Y6/1 釉：灰オリーブ 5Y5/2	全体の約80%	
432	R23	灰釉陶器	甕	20	ＳＫ1074	口径 23.3 残高 33.9	口縁部～体部ロクロナデ、外面肩部平行タタキ目	密 微細な砂粒を多量に含む	良	灰 5Y6/1	胴部径の1/2	
433	024-06	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.1 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約40%	
434	020-03	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.2 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1～2㎜の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
435	009-01	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.5 器高 3.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	浅黄 2.5Y8/3	ほぼ完形	
436	008-07	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.6 器高 2.3	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	淡橙 5YR8/4	口縁径の2/5	
437	026-03	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.1 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	口縁径の5/12	
438	017-09	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.3 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
439	014-03	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.7 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR7/6	口縁径の1/3	
440	027-09	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.9 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	ほぼ完形	
441	022-03	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 15.1 器高 2.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	灰白 2.5Y8/2	全体の約30%	
442	018-06	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.1 器高 2.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
443	020-02	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.1 器高 2.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/4	
444	006-14	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.8 器高 2.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/4	
445	016-08	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.8 器高 3.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁径の1/4	
446	026-04	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.8 器高 2.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	口縁径の5/12	
447	006-13	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.9 器高 2.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約50%	
448	011-04	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.9 器高 2.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	外:浅黄橙 10YR8/3 内:にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/4	
449	016-07	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 13.8 器高 3.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	口縁径の1/3	
450	016-02	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.0 器高 3.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約80%	底部が異常に厚い
451	016-04	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.0 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/3	全体の約25%	
452	018-03	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.1 器高 3.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の3/4	
453	020-05	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.2 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/4	
454	024-05	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.2 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
455	027-08	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.2 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約50%	
456	018-04	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.4 器高 2.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	全体の約80%	
457	020-04	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.4 器高 2.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR7/6	全体の約50%	
458	026-01	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.4 器高 2.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1～2㎜の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	ほぼ完形	
459	016-01	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.5 器高 2.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約70%	
460	009-08	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.6 器高 2.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	ほぼ完形	
461	013-03	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.6 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁径の1/4	
462	020-08	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.6 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR6/6	口縁径の5/12	
463	022-04	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.6 器高 2.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5Y6/4	口縁径の1/4	
464	011-05	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.7 器高 3.2	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約80%	
465	014-02	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.7 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR7/6	全体の約40%	
466	016-06	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.9 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
467	018-02	土師器	杯D	10	ＳＫ0555	口径 14.9 器高 3.1	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約50%	

第12表　出土遺物観察表（11）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
468	024-03	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.0 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の5/12	
469	014-01	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.1 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	
470	007-01	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.2 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	完形	土圧による亀裂あり
471	013-02	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.2 器高 2.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰黄褐 10YR6/2	全体の約30%	
472	020-01	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.2 器高 2.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/4	
473	018-05	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.3 器高 2.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	口縁径の1/4	
474	024-04	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.3 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/3	器壁厚い
475	022-02	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.4 器高 2.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
476	010-12	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.5 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい褐 7.5YR6/3	全体の約30%	
477	010-10	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.6 器高 3.1	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	体部外面に強いナデ痕
478	026-02	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 15.7 器高 3.2	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約90%	
479	022-05	土師器	皿	10	ＳＫ0555	口径 14.8 器高 2.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	全体の約70%	
480	010-11	土師器	皿	10	ＳＫ0555	口径 14.7 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約40%	
481	008-06	土師器	椀	10	ＳＫ0555	口径 13.2 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約80%	
482	022-01	土師器	椀	10	ＳＫ0555	口径 13.8 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約20%	
483	009-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.4 器高 1.3	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	完形	
484	026-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.4 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約30%	
485	015-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.5 器高 1.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約70%	
486	015-12	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.5 器高 1.1	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄 2.5Y8/3	全体の約60%	
487	023-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.5 器高 1.1	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
488	007-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約40%	
489	019-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
490	024-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
491	006-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.9 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
492	015-11	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.9 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の2/3	
493	021-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.9 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の1/3	
494	023-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 7.9 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約70%	
495	007-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約60%	
496	015-15	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
497	017-11	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約30%	
498	021-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.3	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約40%	
499	027-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.3	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約50%	
500	007-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の4/3	
501	012-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	完形	
502	017-12	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約40%	
503	019-10	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	灰白 2.5Y8/2	全体の約30%	
504	023-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
505	026-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約60%	
506	008-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	
507	010-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	ほぼ完形	
508	012-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
509	012-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.2	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完形	
510	015-10	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
511	017-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
512	017-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
513	019-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂・雲母含む	良	にぶい黄橙 10YR6/4	全体の約40%	
514	021-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.2	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
515	021-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
516	023-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/4	全体の約90%	
517	024-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約40%	

第13表　出土遺物観察表（12）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
518	009-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR7/6	完形	
519	009-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形	
520	009-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	ほぼ完形	
521	012-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	完形	
522	015-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
523	015-14	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ほぼ完形	歪み大きい
524	017-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
525	019-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
526	023-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ほぼ完形	
527	023-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約80%	口縁部に油煙付着
528	007-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約60%	
529	007-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形	
530	007-14	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	ほぼ完形	
531	009-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	完形	
532	009-11	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 2.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約70%	
533	012-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	灰黄褐 10YR6/2	全体の約70%	
534	012-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形	
535	015-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
536	019-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約60%	
537	021-13	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約70%	器壁厚い
538	025-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約60%	
539	026-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約50%	
540	006-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約60%	
541	006-12	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約60%	
542	010-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.3	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約60%	
543	012-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形	
544	015-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
545	015-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
546	015-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約40%	
547	017-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
548	019-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄褐 10YR5/3	全体の約80%	
549	019-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
550	024-10	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 0.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約40%	
551	006-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	全体の約90%	
552	007-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
553	009-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	完形	
554	009-10	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
555	017-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
556	019-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
557	021-14	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄 2.5Y7/3	全体の約60%	器壁厚い
558	021-15	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 2.5Y6/4	全体の約70%	
559	023-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約50%	
560	025-10	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.2	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約60%	
561	026-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.3	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約80%	
562	007-12	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	完形	
563	021-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
564	023-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約40%	
565	025-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
566	026-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
567	006-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.8 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約40%	

第14表　出土遺物観察表（13）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
568	017-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.8 器高 1.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
569	023-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.8 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2mm以下の砂・石含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約60%	
570	015-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.9 器高 1.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁径の1/6	
571	023-10	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.9 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約50%	
572	024-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.9 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2mm以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	全体の約50%	
573	008-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約80%	
574	025-29	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 8.3～4.9 器高 2.1	口縁外面ヘラケズリ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	完形	耳皿状の形態
575	019-11	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 1.5	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 3mm以下の砂・石含む	良	橙 5YR6/6	全体の約30%	
576	021-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 1.7	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
577	021-06	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 1.6	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
578	021-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
579	027-01	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 1.8	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
580	019-05	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.1 器高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/6	
581	027-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.1 器高 1.4	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約50%	外面にワラ状圧痕
582	007-13	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.2 器高 1.9	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完形	
583	008-08	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.3 器高 2.0	口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	完形	
584	008-09	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0555	口径 9.3 器高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
585	010-01	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.4 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、貼付高台、内面に布目圧痕	密 2mm以下の砂石含む	良	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完形	
586	012-12	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.7 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、貼付高台、内面に布目圧痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	灰黄褐 10YR6/2	完形	
587	010-02	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、貼付高台、内面ナデ、高台部にシボリ痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
588	010-08	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、貼付高台、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y6/2	全体の約60%	
589	008-10	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 9.6 器高 4.0	口縁部ヨコナデ、貼付高台、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約70%	
590	028-01	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 9.6 器高 3.4	口縁部ヨコナデ、貼付高台、内面ナデ、高台部にシボリ痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約70%	
591	019-13	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	台径 4.6 残高 2.1	内面ナデ、貼付高台	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	高台部のみ残存	
592	025-06	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	台径 4.6 残高 2.5	内面ナデ、貼付高台	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約30%	
593	025-07	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	台径 6.7 残高 3.1	内面ナデ、貼付高台	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	高台部のみ残存	
594	007-10	土師器	蓋	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 3.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ、貼付つまみ	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
595	011-02	土師器	蓋	10	ＳＫ0555	口径 13.6 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ、貼付つまみ	密 1mm以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/3	全体の約70%	
596	013-04	土師器	器台	10	ＳＫ0555	口径 14.1 残高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	杯部の約40%	
597	018-08	土師器	器台	10	ＳＫ0555	残高 8.7 脚径 2.9	脚部外面ナデ・オサエ	密 1mm以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	脚部のみ残存	脚部内にφ4mmの穿孔
598	010-13	土師器	器台	10	ＳＫ0555	残高 7.4 脚径 2.7	脚部外面ナデ・オサエ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	脚部のみ残存	脚部内にφ7mmの貫通孔
599	009-02	土師器	器台	10	ＳＫ0555	残高 13.2 脚径 4.7	脚部外面ナデ・オサエ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	脚部のみ残存	脚部内にφ5mmの貫通孔
600	024-01	土師器	高杯	10	ＳＫ0555	残高 7.3	外面ヘラケズリ	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	脚部の一部	脚部内にφ4mmの穿孔
601	019-01	土師器	器台	10	ＳＫ0555	残高 8.4	外面ヘラケズリ、内面ナデ	密 1mm以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	脚部の一部	脚部内にφ1.1cmの貫通孔
602	022-07	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 13.0 器高 3.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2mm以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
603	007-02	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 13.4 器高 3.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 3mm以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約70%	
604	022-06	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 13.5 器高 3.0	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	明黄褐 10YR7/6	全体の約30%	
605	024-02	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 13.5 器高 3.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 3mm以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約80%	
606	017-10	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 14.3 器高 3.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
607	013-01	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 14.7 器高 4.3	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 砂粒と小石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
608	010-09	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 14.7 器高 3.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2mm以下の砂・石含む	良	橙 5YR7/6	全体の約50%	
609	020-06	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0555	口径 15.1 器高 3.6	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2mm以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の1/12	椀か
610	006-15	ロクロ土師器	皿	10	ＳＫ0555	口径 14.6 器高 2.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2mm以下の砂・石含む	良	橙 5YR7/6	全体の約40%	
611	006-04	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 2.2	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 0.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
612	025-04	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 2.1	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約40%	
613	021-10	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 2.2	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 3mm以下の砂・石含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約40%	
614	017-13	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.5 器高 1.6	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y6/2	全体の約40%	
615	025-11	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.6 器高 1.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約50%	
616	009-12	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.7 器高 1.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1mm以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約60%	
617	010-05	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.7 器高 1.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5mm以下の砂粒含む	良	にぶい橙 5YR7/4	全体の約70%	

第15表　出土遺物観察表（14）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
618	010-06	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.7 器高 1.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	浅黄橙 7.5YR8/6	全体の約80%	
619	012-10	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約60%	
620	017-03	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ほぼ完形	
621	006-08	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.4 器高 1.2	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
622	006-10	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.9 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
623	008-02	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.9 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約80%	口縁部に油煙付着
624	006-09	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
625	012-09	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約80%	
626	023-12	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 2.0	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
627	027-04	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.0 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約60%	
628	006-06	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約40%	
629	010-07	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	
630	012-07	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y6/2	全体の約90%	
631	025-05	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
632	025-12	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.1 器高 1.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR6/4	全体の約60%	
633	015-13	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 1.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約60%	
634	012-15	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 2.0	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約80%	
635	017-08	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.3 器高 1.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約70%	
636	012-08	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
637	015-06	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
638	021-03	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.4 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 3㎜以下の砂・石含む	良	橙 7.5YR 7/6	全体の約70%	
639	009-13	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ほぼ完形	口縁部に油煙付着
640	019-12	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.8	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約50%	
641	021-12	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.5 器高 1.6	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	全体の約30%	
642	021-11	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.7	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	橙 7.5YR7/6	全体の約30%	
643	023-13	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.6 器高 1.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
644	012-11	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 2.1	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約60%	口縁部に油煙付着
645	023-11	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.8 器高 1.8	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
646	025-03	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.9 器高 1.6	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約50%	
647	006-11	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.2 器高 0.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約60%	
648	027-05	ロクロ土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.6 器高 2.3	体部ロクロナデ、貼付高台	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約70%	
649	012-13	ロクロ土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 7.8 器高 2.5	体部ロクロナデ、貼付高台	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	完形	
650	025-13	ロクロ土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	口径 8.7 器高 2.5	体部ロクロナデ、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
651	016-05	ロクロ土師器	台付小皿	10	ＳＫ0555	高台径 4.7 残高 1.9	体部ロクロナデ、貼付高台	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	高台部のみ残存	
652	008-04	ロクロ土師器	台付杯	10	ＳＫ0555	高台径 6.1 残高 2.3	体部ロクロナデ、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	淡橙 5YR8/4	全体の約50%	
653	022-08	ロクロ土師器	短頸壺	10	ＳＫ0555	口径 9.0 器高 3.9	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約70%	
654	027-07	土師器	鍋	10	ＳＫ0555	口径 21.1 残高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ・内面ヨコハケ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/12	
655	011-03	土師器	鍋	10	ＳＫ0555	口径 24.6 残高 3.4	口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰黄褐 10YR6/2	口縁径の1/4	内面黒変
656	028-02	土師器	鍋	10	ＳＫ0555	口径 25.7 残高 7.9	口縁部ヨコナデ、体部内外面ヨコハケ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/12	内外面に黒色物付着
657	028-03	土師器	鍋	10	ＳＫ0555	口径 27.2 残高 11.8	口縁部ヨコナデ、体部内外面ヨコハケ・板ナデ	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁径の1/3	外面に黒色物付着
658	011-01	土師質土器	盤	10	ＳＫ0555	口径 39.5 器高 11.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面板ナデ、底部外面未調整	密 2㎜以下の砂・石含む	良	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁径の1/4	
659	029-01	土師質土器	盤	10	ＳＫ0555	口径 約36.0 器高 11.2	口縁部ヨコナデ、体部外面粗いタテハケ・ナデ、内面ミガキ・ナデ	密 3㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁径の 1/10以下	
660	013-05	土師質土器	盤	10	ＳＫ0555	口径 ― 残高 5.4	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや粗 1㎜以下の砂粒含む	良	黄灰 2.5Y5/1	口縁部の一部	
661	013-06	無釉陶器	短頸壺	10	ＳＫ0555	口径 10.1 器高 6.0	体部ロクロナデ、底部糸切痕、上半に自然釉付着	密 3㎜以下の砂・石含む	良	素地：灰白 5Y7/1 釉：暗灰黄 2.5Y5/2	全体の約60%	片口状
662	027-06	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0555	高台径 5.5 残高 2.2	体部ロクロナデ、貼付高台	密 2㎜以下の砂・石含む	良	灰黄 2.5Y6/2	高台径の1/2	
663	016-03	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0555	高台径 6.7 残高 2.0	体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台	密 3㎜以下の砂・石含む	良	灰黄 2.5Y6/2	高台部のみ残存	
664	023-14	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0555	高台径 5.0 残高 1.8	体部ロクロナデ、貼付高台	密 2.5㎜以下の砂・石含む	良	灰黄 2.5Y6/2	高台径の3/4	
665	029-02	青磁	椀	10	ＳＫ0555	口径 ― 残高 3.4	体部ロクロナデ、全面施釉	緻密	良	釉：青白橡 素地：灰黄 2.5Y7/2	口縁の一部	
666	002-08	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0547	口径 13.6 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ほぼ完形	
667	002-06	土師器	杯Ｄ	10	ＳＫ0547	口径 15.1 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約70%	

第16表　出土遺物観察表（15）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
668	001-03	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0547	口径 8.2 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約70%	
669	001-07	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0547	口径 8.7 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 5YR6/6	全体の約50%	
670	001-02	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0547	口径 8.6 器高 1.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
671	001-04	土師器	皿Ｄ	10	ＳＫ0547	口径 8.4 器高 1.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約80%	
672	002-01	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0547	口径 9.5 器高 5.0	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ、貼付高台	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
673	001-05	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0547	口径 8.2 器高 1.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約80%	
674	001-06	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0547	口径 8.5 器高 1.8	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約70%	
675	002-02	ロクロ土師器	小皿	10	ＳＫ0547	口径 10.8 器高 2.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 1㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形	
676	002-03	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0547	口径 12.6 器高 2.4	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 微細な雲母片・小石含む	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の約80%	
677	003-01	ロクロ土師器	杯	10	ＳＫ0547	口径 15.6 器高 3.3	体部ロクロナデ、底部糸切痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/2	全体の約60%	
678	002-04	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0547	高台径 7.5 残高 3.5	体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台、内面に自然釉付着	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y7/2	高台径の1/2	高台に籾殻痕
679	003-02	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0547	口径 16.6 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台、内面に自然釉付着	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y7/2	全体の約70%	
680	002-07	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0547	口径 16.2 器高 5.6	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/2	全体の約60%	
681	002-05	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0547	高台径 7.1 残高 2.1	体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台	密	良	浅黄橙 10YR8/3	高台径の2/3	
682	002-09	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0547	高台径 5.3 残高 2.1	体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台	密	良	灰白 10YR8/2	高台部のみ	
683	004-13	土師器	杯Ｄ (中世皿)	10	ＳＫ0549	口径 14.5 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約40%	
684	005-02	土師器	杯Ｄ (中世皿)	10	ＳＫ0549	口径 13.2 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約40%	
685	005-01	土師器	杯Ｄ (中世皿)	10	ＳＫ0549	口径 12.8 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	
686	005-03	土師器	杯Ｄ (中世皿)	10	ＳＫ0549	口径 13.6 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
687	004-14	土師器	杯Ｄ (中世皿)	10	ＳＫ0549	口径 13.0 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	
688	004-04	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 7.3 器高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約70%	
689	004-09	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 7.4 器高 1.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	完形	
690	004-07	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 7.7 器高 1.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 5YR7/6	全体の約40%	
691	004-08	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.1 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	全体の約60%	
692	004-01	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.0 器高 1.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 2㎜以下の砂・石含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ほぼ完形	
693	004-03	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.4 器高 1.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約80%	
694	004-02	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.5 器高 1.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約90%	
695	004-05	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.4 器高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	全体の約60%	
696	004-06	土師器	小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.3 器高 1.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約50%	
697	004-11	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0549	口径 8.5 器高 4.8	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約60%	
698	004-10	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0549	口径 7.8 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	淡黄 5YR8/4	全体の約70%	
699	004-12	土師器	台付小皿	10	ＳＫ0549	口径 7.9 器高 3.7	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	全体の約50%	
700	005-05	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0549	口径 15.5 器高 5.9	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y7/2	全体の約70%	
701	005-04	無釉陶器	椀 (山茶椀)	10	ＳＫ0549	高台径 6.6 残高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切痕、貼付高台	密 1㎜以下の砂粒含む	良	灰黄 2.5Y7/2	高台径の3/5	
702	001-01	緑釉陶器	椀	167	ＳＫ10230	口径 19.4 残高 4.7	内外面ヘラミガキ後、内外面に陰刻花文	密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：浅黄 7.5Y7/3	口縁径の1/6	
703	001-01	緑釉陶器	香炉蓋	153	包含層	口径 ― 残高 1.5	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ	緻密	堅緻 (須恵質)	素地：暗灰黄 2.5Y5/2 釉：千歳緑	全体の約10%	外面に沈線による陰刻花文と木葉形の透穴
704	017-01	唐三彩	枕	157	表土	厚さ 0.6	表面ナデか、沈線と施釉	緻密	やや軟	素地：乳白　緑釉：千歳緑 褐釉：唐茶　白釉：象牙色	小片	
705	017-02	青磁 (越州窯系)	椀	157	ＳＢ9875	台径 6.0 残高 3.2	体部ロクロナデ後ロクロケズリ、削出高台、見込み部に目痕	緻密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：オリーブ黄 5Y6/3	高台径の2/3	
706	019-02	青磁 (越州窯系)	椀	159	包含層	台径 7.6 残高 2.1	外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ、削出高台、見込み部に目痕	密	良	素地：灰白 N7/ 釉：オリーブ黄 5Y6/3	底部径の1/10	底部外面釉なし
707	002-04	青磁 (越州窯系)	椀	153	包含層	台径 6.6 残高 1.8	体部ロクロナデ、底部ナデ？、貼付蛇目高台	緻密	堅緻	素地：灰白 7.5Y7/1 釉：海松茶	高台径の1/4	全面施釉
708	013-01	白磁	椀	28	ＳＢ1393	口径 15.2 器高 2.4	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	緻密	良	素地：灰白 2.5Y8/1 釉：灰白 5Y8/1	口縁径の1/12	白磁Ⅰ類か
709	012-06	白磁	椀	167	ＳＢ10154	口径 15.6 器高 2.2	内外面ロクロナデ、全面施釉	密	良	灰白 5GY8/1	口縁径の1/12	
710	002-05	白磁	椀	153	ＳＥ9835	口径 ― 残高 3.0	体部ロクロナデ、断面に間隙のある玉縁口縁	緻密	良	素地：灰白 7.5Y8/1 釉：白	口縁部の一部	刑窯系か
711	019-04	白磁	椀	159	包含層	口径 ― 器高 ―	外面ロクロケズリ、内面に劃花文	密	良	素地：灰白 5Y8/1 釉：灰白 7.5Y8/1	体部の一部	
712	019-03	白磁	椀	159	包含層	口径 ― 器高 ―	ロクロナデ後、外面に陽刻で蓮弁文	密	良	素地：灰白 5Y8/1 釉：灰白 5Y8/2	体部の一部	
713	020-09	白磁	椀	159	包含層	口径 ― 残高 3.3	体部ロクロナデ	密	良	素地：灰白 10Y8/1 釉：灰白 5GY8/1	体部の一部	
714	097-04	白磁	椀	143	包含層	口径 16.0 器高 5.8	体部ロクロナデ、外部下半ロクロケズリ、削出高台	精良	良	素地：灰白 5Y7/1 釉：淡黄 5Y8/3	全体の約50%	
715	097-05	白磁	椀	143	包含層	口径 16.4 器高 6.1	体部ロクロナデ、外部下半ロクロケズリ、削出高台	精良	良	素地：灰白 2.5Y8/2 釉：灰白 2.5Y8/2	全体の約50%	
716	079-03	白磁	椀	143	ＳＤ9043	口径 16.0 残高 3.0	体部ロクロナデ	精良	良	灰白 5Y8/2	口縁径の1/12	
717	179-05	白磁	椀	143	ＳＫ9025	口径 15.6 器高 3.4	体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密 内：灰白 5Y7/2	良	素地：灰白 7.5Y8/1	口縁径の1/6	

第17表　出土遺物観察表（16）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
718	020-10	白磁	椀	159	包含層	口径 15.7 残高 4.8	体部ロクロナデ	密	良	素地：黄灰 2.5Y6/2 釉：浅黄 2.5Y7/3	口縁径の1/6	
719	079-04	白磁	椀	143	ＳＫ9018	口径 11.0 器高 3.6	体部ロクロナデ、外面に劃花文	精良	良	灰白 5Y8/2	口縁径の/12	
720	079-01	青磁 (龍泉窯系)	椀	143	ＳＫ9035	口径 10.6 器高 3.4	体部ロクロナデ、削出高台、全面施釉	精良	良	素地：灰白 7.5Y7/1 釉：錆青磁	口縁径の1/4	
721	002-06	須恵器	円面硯	153	ＳＫ9818	口径 16.2 残高 3.2	体部内外面ロクロナデ、硯面ロクロケズリ、貼付外堤部、貼付突帯、脚部に方形透かし	密	やや軟	灰白 5Y7/1	口縁径の1/2	硯面に墨痕
722	109-01	須恵器	円面硯	143	ＳＨ9001	台径 21.2 残高 6.0	内外面ロクロナデ、方形透かし	密	良	外：灰褐 7.5YR4/2 内：灰オリーブ 5Y5/2	脚部径の1/12	
723	002-07	須恵器	円面硯	153	包含層	口径 12.4 残高 3.6	体部ロクロナデ、硯面ロクロケズリ、貼付外堤部と突帯	密	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁径の1/4	脚部にヘラ描きで格子文、硯面は摩耗すすむ
724	097-06	須恵器	風字硯	143	包含層	口径 ― 器高 ―	表面ナデ、脚部貼付	精緻	良	灰白 5Y7/1	脚部の一部	
725	067-06	須恵器	猿面硯	143	ＳＫ9037	口径 ― 器高 ―	底面糸切痕、硯面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	灰白 5Y7/1	全体の1/8程度	墨痕のこる
726	111-03	須恵器	蓋 転用硯	143	ＳＨ9001	口径 17.5 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	灰 7.5Y6/1	全体の約10%	内面に墨痕
727	005-03	灰釉陶器	椀 転用硯	167	ＳＢ10152	口径 15.8 器高 4.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付高台	密	良	素地：灰黄 2.5Y7/2 釉：浅黄 2.5Y7/3	全体の約70%	内面に墨痕
728	005-04	灰釉陶器	椀 転用硯	167	ＳＢ10152	台径 8.2 残高 2.5	体部外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ、貼付高台	密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：灰黄.5Y7/2	高台径の3/4	内面に墨痕
729	015-01	灰釉陶器	椀 転用硯	153	ＳＥ9835	台径 6.0 残高 1.3	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	灰 5Y6/1	高台径の1/4	内面に朱墨付着
730	014-01	陶器	椀 (山茶椀)	157	ＳＤ9884	台径 7.7 残高 4.2	体部ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	灰黄 2.5Y7/2	底部のみ残存	内面に黒色の付着物（漆か？）
731	111-02	製塩土器	志摩式 製塩土器	143	包含層	口径 ― 残高 6.8	外面ナデ・オサエ・内面ナデ	やや粗 3㎜以下の砂・石含む	やや軟	橙 5YR7/8	体部の一部	
732	111-01	製塩土器	志摩式 製塩土器	143	ＳＨ9001	口径 ― 残高 5.2	外面ナデ・オサエ・内面ナデ	粗 5㎜以下の砂・石含む	やや軟	橙 5YR7/6	体部の一部	
733	100-02	製塩土器	志摩式 製塩土器	152	ＳＫ9786	口径 20.0 残高 6.3	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗 2㎜以下の砂・石含む	良	橙 2.5YR6/6 ～にぶい橙 5YR6/4	口縁径の 1/10以下	被熱痕あり、外面にスス付着
734	100-04	製塩土器	志摩式 製塩土器	152	ＳＫ9786	口径 ― 器高 6.0	外面ナデ・オサエ、内面ヨコハケ	やや粗 3㎜以下の砂・石含む	やや軟	淡黄 2.5Y8/3	体部の一部	
735	100-03	製塩土器	志摩式 製塩土器	152	ＳＫ9786	口径 ― 器高 6.0	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	粗 2㎜以下の砂・石含む	良	淡黄 2.5Y8/3	体部の一部	
736	100-05	製塩土器	志摩式 製塩土器	152	ＳＫ9786	口径 ― 器高 6.2	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	粗 3㎜以下の砂・石含む	やや軟	黄橙 10YR8/6	体部の一部	
737	004-07	製塩土器	志摩式 製塩土器	157	ＳＫ9930	口径 ― 器高 6.0	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	やや粗	良	外：灰黄褐 10YR5/2 内：にぶい黄橙 10YR7/3	口縁径の1/6	
738	019-02	製塩土器	志摩式 製塩土器	157	ＳＫ9930	口径 16.8 器高 5.5	内外面ナデ・オサエ	粗	良	外：灰黄褐 10YR5/2 内：浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/12	外面にスス付着
739	019-01	製塩土器	志摩式 製塩土器	157	ＳＫ9930	口径 18.2 器高 6.0	内外面ナデ・オサエ	粗	良	外：浅黄橙 10YR8/4 内：にぶい橙 5YR7/4	口縁径の1/6	
740	004-08	製塩土器	志摩式 製塩土器	157	ＳＫ9930	口径 ― 器高 5.8	外面ナデ・オサエ、内面ヘラナデか	粗	良	外：橙 5YR6/6 内：浅黄橙 10YR8/3	口縁径の1/12	外面に灰白色物付着
741	008-05	製塩土器	志摩式 製塩土器	157	ＳＫ9933	口径 17.8 器高 5.1	外面ナデ・オサエ、内面調整不明	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	小片	
742	100-01	製塩土器	知多式 製塩土器	152	ＳＫ9786	残長 3.3 幅 2.0	表面ナデ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4 ～橙 2.5YR6/6	脚部の一部	被熱痕あり
743	111-02	二彩 小型模造品	椀	143	包含層	口径 6.9 残高 2.2	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、貼付高台か	緻密	良	素地：灰白 10YR8/2 白釉：象牙色 緑釉：松葉色	全体の約10%	
744	017-01	須恵器 小型模造品	短頸壺	159	包含層	口径 3.9 器高 4.8	体部ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	完形	
745	111-01	瓦質土器 小型模造品	三足羽釜	143	包含層	口径 ― 残高 3.4	体部外面ナデ後ヘラミガキ、三足・鍔貼付	密 1㎜以下の砂粒含む	良	にぶい橙 7.5YR7/4	全体の約30%	器表面に炭素吸着
746	097-09	土師器 小型模造品	蓋	143	表土	口径 6.4 器高 3.6	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	精緻	良	橙 5YR7/6	全体の約50%	
747	067-04	土製品	土馬？	143	表土	残長 7.4 幅 2.2	表面ナデ・オサエ	密 0.5㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR7/6	脚部の一部	
748	097-08	土製品	土馬？	143	表土	残長 4.8 幅 2.2	表面ナデ・オサエ	精緻	良	にぶい橙 7.5YR7/5	脚部の一部	
749	067-07	土製品	土玉	143	ＳＨ9001	直径 2.0	表面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR6/4	完形	
750	067-08	土製品	土玉	143	ＳＨ9001	直径 2.1	表面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良	にぶい黄橙 10YR6/4	一部欠損	
751	035-02	陶器 墨書土器	椀 (山茶椀)	10	75R E67 土坑2	台径 7.0 残高 2.3	体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台	密	良	灰黄 2.5Y7/2	底部のみ残存	底部外面に墨書、○に「上」
752	067-03	土師器 墨書土器	皿Ａ１	143	ＳＫ9034	口径 18.3 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	橙 5YR6/8	全体の約70%	底部外面に蕨手状の記号を墨書
753	111-05	須恵器 墨書土器	蓋？	143	ＳＨ9001	口径 ― 器高 ―	外面ロクロナデ・ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1	体部の一部	外面に墨書、「木」あるいは「本」か
754	111-06	須恵器 墨書土器	杯Ａ	143	包含層	口径 ― 器高 ―	底部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1	底部の一部	底部外面に墨書、「同」か「司」か「見」か
755	037-01	土師器 墨書土器	杯Ａ	152	ＳＫ9786	口径 15.5 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	精良	良	橙 5YR6/8	全体の約50%	底部外面に墨書、判読困難
756	040-02	土師器 墨書土器	杯？	152	ＳＫ9785	口径 ― 器高 ―	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	底部の一部	底部外面に墨書、「三」か
757	040-03	土師器 墨書土器	杯？	152	ＳＫ9785	口径 ― 器高 ―	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	底部の一部	底部外面に「内」と墨書
758	040-04	須恵器 墨書土器	蓋	152	ＳＫ9786	口径 13.3 残高 2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y6/2	口縁径の1/5	体部上面に複数の墨書、「陶」か
759	040-01	土師器 墨書土器	皿Ａ	152	ＳＫ9785	口径 10.7 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 2.5YR6/8	全体の約60%	底部外面に墨書、「土」か
760	018-04	土師器 墨書土器	皿Ａ２	152	ＳＫ9785	口径 16.6 器高 2.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	明赤褐 5YR5/8	口縁径の1/4	底部外面に墨書、判読不能
761	040-06	陶器 墨書土器	椀 (山茶椀)	152	ＳＤ9685	台径 7.0 残高 3.8	体部内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、貼付高台、高台底に籾殻痕	密 2㎜以下の砂・石含む	良	灰黄 2.5Y7/2	全体の約50%	底部に墨書、「大」か
762	037-02	土師器 墨書土器	椀？	152	包含層	口径 ― 器高 ―	器表面ナデ	密	良	橙 2.5YR6/8	底部の一部	底部外面に「御」あるいは「佛」の墨書
763	040-05	陶器 墨書土器	椀 (山茶椀)	152	包含層	口径 ― 器高 ―	内外面ロクロナデ	密 1㎜以下の砂粒含む	良	外：にぶい橙 7.5YR6/3 内：灰黄 2.5Y7/2	体部の一部	外面に墨書、判読不能
764	009-06	土師器 墨書土器	杯Ａ	157	ＳＫ9931	口径 14.4 器高 3.7	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ後螺旋状暗文	密	良	橙 5YR6/6	口縁径の1/4	底部外面に墨書、判読不能
765	005-03	土師器 墨書土器	杯Ａ	156	ＳＫ9869	口径 15.1 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/6	口縁径の1/3	底部外面に墨書、「上」か？
766	005-01	土師器 墨書土器	椀Ａ	156	ＳＫ9869	口径 14.6 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/6	口縁径の1/4	外面に墨書、「奉」「子」か？内面に黒色物付着
767	004-01	土師器 墨書土器	高杯	156	ＳＫ9869	口径 24.2 器高 16.6	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・ハケ、内面ナデ・螺旋状暗文、脚柱部ヘラケズリ、脚台部ヨコナデ、ナデ、ハケ	密	良	橙 7.5YR6/6	全体の約70%	脚柱部外面に墨書、「奉」か？

第18表　出土遺物観察表（17）

番号	登録番号	器種	器形	調査次数	遺構・層位	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
768	005-02	須恵器 墨書土器	盤	156	ＳＫ9869	台径 10.4 残高 2.7	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	良	灰黄褐 10YR5/2	高台径の1/3	外面に墨書、「諱」ほか 底部外面にも墨書、判読不能
769	009-01	須恵器 墨書土器	盤	159	ＳＫ10108	口径 16.8 器高 4.2	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	良	灰白 2.5Y7/1	全体の約70%	底部外面に墨書、「政□」 内面に黒色物付着
770	006-04	灰釉陶器 墨書土器	皿	159	S6 p3	口径 15.1 器高 2.5	体部ロクロナデ、貼付高台	密	良	素地：灰白 2.5Y7/1 釉：にぶい黄 2.5Y6/3	全体の約50%	底部外面に墨書、判読不能
771	035-01	土師器 刻書土器	杯Ａ	10	包含層	口径 14.8 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	全体の約30%	底部外面に「田」字状の焼成後線刻
772	006-01	土師器 刻書土器	皿Ａ	152	ＳＫ9786	口径 16.9 器高 1.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	黄橙 7.5YR7/8	ほぼ完形	外面に1か所、内面に2か所焼成後線刻
773	041-01	土師器 刻書土器	杯Ａ？	152	ＳＫ9786	口径 － 残高 1.3	体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	体部の一部	焼成前、外面に櫛状工具を押圧して記号あるいは文字を施印
774	017-01	土師器 刻書土器	皿Ａ２	152	ＳＫ9785	口径 17.8 器高 2.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5Y6/8	口縁径の1/4	見込み部に「田」字状の焼成後線刻
775	014-02	土師器 刻書土器	杯Ａ	153	ＳＫ9855	口径 13.4 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	明赤褐 5YR5/6	全体の約40%	見込み部に「井」状の焼成後線刻
776	014-01	土師器 刻書土器	杯Ａ	153	ＳＫ9855	口径 13.6 器高 2.7	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 2.5YR6/8	全体の約30%	見込み部に「井」状の焼成後線刻
777	001-02	土師器 刻書土器	杯Ａ	156	ＳＫ9869	口径 15.4 器高 3.3	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 7.5YR6/8	完形	底部外面に焼成後線刻
778	008-01	土師器 刻書土器	杯Ａ	159	ＳＫ10099	口径 17.0 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・オサエ、内面ナデ	密	良	橙 5YR7/8 ～浅黄橙 7.5YR8/4	口縁径の1/3	内外面に「＊」状の焼成後線刻
779	005-02	土師器 刻書土器	椀Ａ	159	ＳＢ9005	口径 17.3 器高 5.9	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良	橙 5YR6/8	全体の約40%	底部外面に焼成後線刻
780	Ｒ9	須恵器 刻書土器	杯Ｂ	28	ＳＫ1370	台径 － 残高 3.2	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ、貼付高台	密	良	灰黄褐 10YR5/2	底部の一部	底部外面に「寶」の刻印
781	－	金属製品	鉄鎌	143	包含層	全長 9.5 刃幅 2.4	－	－	－	－	－	柄付鎌を地金とするために折り曲げる
782	－	金属製品	鉄鎌	143	表土	残長 8.2	－	－	－	－	－	
783	－	金属製品	鉄鏃	143	包含層	残長 6.9 幅 4.0	両翼式、中茎の断面方形	－	－	－	全体の90%	
784	－	金属製品	火打金	153	ＳＥ9835	全長 7.6 幅 2.6	両端部が若干フック状になる	－	－	－	ほぼ完形	
785	020-01	金属製品	銅鞘尻	159	S8 p40	全長 3.3 全幅 1.8	－	－	－	－	ほぼ完形	
786	018-05	金属製品	真鍮製 不明品	157	包含層	全長 4.7 幅 2.7	２枚の金属板で構成、丸鋲4か所・角鋲1か所	－	－	－	完形	
787	014-04	金属製品	鉛製 不明品	167	ＳＫ10237	長辺 3.8 短辺 2.3	－	－	－	－	－	表面腐食 脚部か？
788	068-08	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 13.6 幅 1.2	断面方形、頭部をＬ字に折り返す	－	－	－	－	
789	068-01	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 4.3 幅 1.8	断面方形	－	－	－	－	
790	068-05	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 4.6 幅 1.8	断面方形	－	－	－	－	
791	068-03	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 4.4 幅 2.0	断面方形	－	－	－	－	
792	068-04	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 4.8 幅 1.6	断面方形	－	－	－	－	
793	068-06	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 5.2 幅 1.0	断面方形	－	－	－	－	
794	068-07	金属製品	鉄釘	143	包含層	残長 11.2 幅 0.6	断面方形、頭部をＬ字に折り返す	－	－	－	－	
795	068-02	金属製品	鉄釘	143	ＳＨ9001	残長 5.0 幅 1.4	断面方形	－	－	－	－	
796	012-08	金属製品	鉄釘	167	ＳＤ10152	残長4.6以上 幅 0.4	断面方形	－	－	－	－	
797	008-08	金属製品	鉄釘	167	ＳＫ10215	残長4.6以上 幅 0.5	断面方形	－	－	－	－	
798	006-02	土製品	炉壁？	20	ＳＫ1074	残長 15.5 残幅 6.6	平滑な面が1面と、接合面とみられるスサが多量にみられる平坦面がある	胎土にスサ・小石・土器片を多く含む	－	橙 5YR7/6 ～にぶい黄橙 10YR7/3	不明	
799	006-01	土製品	鞴羽口	20	ＳＫ1056	残長 7.8 幅 5.7	表面は平滑、Φ1.8cm孔径	胎土にスサや1cm程度の小石含む	良	灰白 5Y7/1 ～にぶい黄褐 10YR5/4	不明	
800	012-07	石製品	紡錘車	167	r21 p6	口径 4.7 高さ 1.4	外面を研磨	－	－	緑灰色	ほぼ完形	
801	020-02	石製品	碁石？	157	ＳＤ9907	長径 1.35 厚さ 0.65	表面を円滑に研磨	－	－	灰白 2.5Y8/1	完形	
802	111-04	石製品	碁石？	143	包含層	長径 1.45 厚さ 0.7	表面を円滑に研磨	－	－	灰白 7.5Y8/2	完形	
803	ＯＲ119	石製品	石帯 丸鞆	8-10	pit	全幅 4.0 全高 2.7	背面に帯への縫合用の穴3か所	－	－	淡白黄色	完形	

第３章　斎宮跡の土器編年の再検討

第１節　斎宮跡の土器編年の再検討

（１）再検討に至る経緯

土器編年の確立は発掘調査による史跡の実態解明の基本的作業のひとつである。史跡斎宮跡におけるこれまでの土器編年を振り返ると、まず昭和59(1984)年に発表された「斎宮跡の土師器」において、飛鳥時代から平安時代を、生産地の編年研究が進む須恵器・灰釉陶器を共伴する、比較的良好な一括出土資料に基づいて11期に細分したものが示された[(1)]。さらに平成13(2001)年刊行の『報告Ⅰ』では新出の資料も踏まえ、各段階設定の基準資料の器種構成や土器型式の変遷を示すとともに、近畿地方の都城遺跡の編年との併行関係にも言及した編年案（いわゆる「2000年編年」）が示されている[(2)]。

しかしながら、第１章でも述べたように「2000年編年」以後、すでに数々の課題が提示されている。この「2000年編年」をベースにして平成12(2000)年10月に開催したシンポジウム「斎宮の土器・みやこの土器」の中で、各段階の実年代観、器種の分化、都城の土器の影響と斎宮独自に発展した要素の区分などの認識について都城研究者側からいくつかの疑問が呈され、特に奈良時代から平安時代はじめの「2000年編年」でいうⅠ－２期からⅡ－１期にかけて、都城編年との齟齬が指摘されている[(3)]。その後、斎宮側の研究者からもⅠ－３期の基準資料の実年代観の問題や[(4)]、Ⅰ－４期を独立した段階として設定し難い点が指摘されている[(5)]。また、新出の出土資料を踏まえ、Ⅲ－３期の細分や、「2000年編年」で示されていなかったⅢ－４期やⅣ期の提唱がなされ[(6)]、斎宮跡で充分整理されてこなかった貿易陶磁の出土状況を検証する中で、平安時代後半にあたるⅢ期の実年代観の疑問点が示されている[(7)]。

史跡斎宮跡の実態解明調査は、史跡東部の方格地割の解明により、平安時代の資料が蓄積してきたこと、また平成28年度策定の「史跡斎宮跡発掘調査基本方針」に基づき、今後は史跡西部の飛鳥・奈良時代の解明に重点を置くとしていることから、ひとつの過渡期を迎えているともいえる。今回「柳原区画」の遺物編を刊行するのにあわせ、今後の調査研究の進展に資することができるよう、「2000年編年」の課題を少しでも整理しておきたい。

（２）既存の報告書との整合性

遺構の時期決定の大きな根拠となる土器編年の変更により、既存の報告との不整合が懸念される。平成26(2014)年に刊行した『遺構編』で報告した遺構の時期区分は、段階表記こそ「2000年編年」に拠っているが、今回の土器編年の再検討で柳原地区の遺構の変遷そのものが変更を求められるようになったわけではない。また、『遺構編』刊行の段階で先に触れたような「2000年編年」の年代観に対する課題を踏まえ、特にⅢ期については実年代観を調整しており、大きな不整合には至らない。『遺構編』でのⅠ－４期からⅡ－１期にかけての時期としたＡ期の遺構は、方格地割成立期のものと位置づけており、一部を除きおおむね桓武朝のものとみてよいと考えられることから、後述する奈良時代の土器の年代観の修正の影響はほとんどないと言える。

一方、平安時代の「内院」と推定される「鍛冶山西区画」「牛葉東区画」を包括的にまとめた

第19表　土師器供膳具（杯Ｇ、杯Ａ・Ｄ・中世皿）の径高指数の変遷

土師器　杯Ｇ

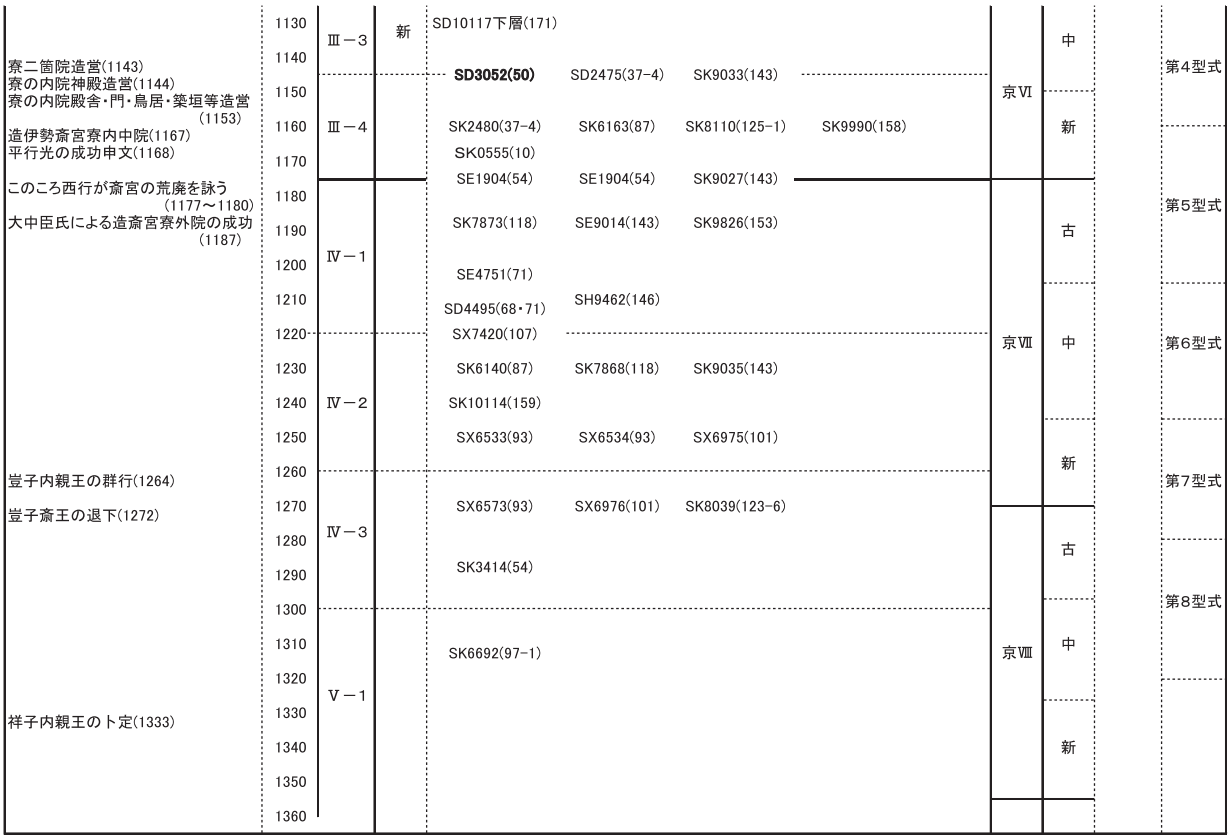
期・相			遺構名　（　）内は調査次数	計測個体数	径高指数
杯Ｇ	直前期	―	ＳＨ8925(141)	1	0.36
	Ⅰ－１期	古相	ＳＨ7095(102-5)　ＳＫ7096(102-5)	7	0.35
		新相	ＳＫ1255(27)　ＳＢ1615(30)　ＳＢ4728(71)	10	0.34
	Ⅰ－２期	古相	ＳＫ5102(70-1)　ＳＫ5632(82)	11	0.30
		新相	ＳＢ4463(67)　ＳＢ4497(71)　ＳＢ7105(102-5)	4	0.30
	Ⅰ－３期	古相	ＳＢ7445(111-1)　ＳＫ10213(167)	2	0.28
		中相	ＳＢ3920(59)　ＳＫ4498(68)	7	0.26
		新相	ＳＫ1098(21-1)　ＳＫ4130(62)　ＳＫ6210(88) ＳＫ6225(88)　ＳＫ6226(88)	18	0.28
	Ⅱ－１期	古相	ＳＫ8134(127)　ＳＫ8294(130)	5	0.28
		中相	ＳＨ9001(143)	3	0.29
		新相	ＳＫ9785(152)　ＳＨ11805(187-6)	2	0.27
	Ⅱ－２期	古相	ＳＫ5200(77)　ＳＫ9786(152)	4	0.24

土師器　杯Ａ・Ｄ・中世皿

期・相			遺構名　（　）内は調査次数	計測個体数	径高指数
杯Ａ	Ⅰ－１期	古相	ＳＨ0059(4)	1	0.30
		新相	ＳＢ1615(30)	1	0.35
	Ⅰ－１～２期		ＳＢ6125(87)　ＳＫ8621(137)	2	0.29
	Ⅰ－２期	古相	ＳＫ5102(70-1)	7	0.23
		新相	ＳＫ4499(68)　ＳＫ4497(71)　ＳＫ4749(71)	9	0.24
	Ⅰ－３期	古相	ＳＢ6105(87)　ＳＫ10213(167)	9	0.21
		中相	ＳＢ3900(59)　ＳＫ4498(68)	7	0.21
		新相	ＳＫ1098(21-1)　ＳＫ4130(62)　ＳＫ6210(88) ＳＫ6225(88)　ＳＫ6226(88)	22	0.21
	Ⅱ－１期	古相	ＳＫ4148(62)　ＳＫ5072(75)　ＳＫ5343(79) ＳＫ10248(168)　ＳＫ8294(130)	29	0.22
		中相	ＳＢ4392(66)　ＳＤ7478(111-2)　ＳＨ9001(143)	61	0.23
		新相	ＳＫ1445(34)　ＳＫ9785(152)　ＳＨ10885(187-6)	47	0.23
	Ⅱ－２期	古相	ＳＫ1045(20)　ＳＫ5200(77)　ＳＫ9786(152)	30	0.23
		新相	ＳＫ10502(177)	8	0.20
	Ⅱ－３期	古相	ＳＫ7430(109)　ＳＫ10247(168)　ＳＫ10325(173)	34	0.22
		中相	ＳＥ4050下層(61)　ＳＫ2650(44)　ＳＫ6743(98) ＳＥ6920上層(99)　ＳＫ7930(119)　ＳＫ6792(124)	66	0.21
		新相	ＳＥ7060(104)　ＳＫ8842(140)　ＳＫ9933(157)	118	0.21
	Ⅱ－４期	古相	ＳＸ6666(95)　ＳＫ7030(103)	27	0.22
		新相	ＳＥ4050中層(61)　ＳＫ7040(103)　ＳＫ8066(124) ＳＫ8071(124)　ＳＫ8073(124)	103	0.20
杯Ｄ	Ⅲ－１期	古相	朝見ＳＫ48　ＳＥ4050上層(61)	12	0.22
		中相	ＳＥ2000(31-4)	6	0.24
		新相	ＳＫ8407(133)	4	0.25
	Ⅲ－２期	古相	ＳＥ8391(133)　土坑1・2(162-3)	14	0.24
		中相	ＳＫ1074(20)　ＳＫ1730(32)	7	0.24
		新相	ＳＸ3665(56)　ＳＫ9926(157)	9	0.23
	Ⅲ－３期	古相	ＳＫ6658(95)　ＳＫ7305(108)　ＳＫ7651(114) ＳＫ9940(157)	21	0.25
		新相	ＳＫ9026(143)　ＳＫ9028(143)	130	0.25
	Ⅲ－４期	－	ＳＫ6163(87)　ＳＫ0247(118)　ＳＫ8110(125-1) ＳＫ9990(158)	9	0.20
中世皿	Ⅳ－１期	－	ＳＤ4495(68)　ＳＫ7873(118)　ＳＥ8010(118) ＳＥ9014(143)　ＳＫ9826(153)	31	0.20
	Ⅳ－２期	－	ＳＸ6533(93)　ＳＸ6652(95)　ＳＫ9035(143) ＳＤ9652(155-5)　ＳＫ10114(159)	45	0.20
	Ⅳ－３期	－	ＳＫ3414(54)　ＳＸ6976(101)	8	0.23
	Ⅴ－１期	－	ＳＫ6692(87-1)	9	0.23
	Ⅴ－２期	－	ＳＥ7560(110-2)	5	0.27

第20表　斎宮跡出土土器編年表

関連事項	実年代	段階区分		主要資料				都城編年			猿投窯編年	
	620						北野SK3170	飛鳥Ⅰ				
	630			SB4466(67)			北野SK3097					
	640							飛鳥Ⅱ			Ⅲ－2 Ⅰ－101	
	650			SB2235(39)	SX7496(110-1)							
	660			SB6706(97-2)	SH8586(137)	SH8925(141)		飛鳥Ⅲ			Ⅲ－3 Ⅰ－17	
大来皇女が伊勢に向う(674)	670			SK6300(85-8)								
	680	Ⅰ－1	古	SB0059(4)	SK7095(102-5)	SD8902(141)		飛鳥Ⅳ	京Ⅰ	古	Ⅲ－4 Ⅰ－41	
	690											
	700		新	**SK1255(27)**	**SB1615(30)**	SB4743(71)		飛鳥Ⅴ 平城Ⅰ		中	Ⅲ－5 C－2	
斎宮を寮に准じる(701)	710						水池SF8					
寮の公文に初めて印を用いる(718)	720	Ⅰ－2	古	**SK5102(70-1)**	SB5632(82)		水池SF11	平城Ⅱ				
井上内親王斎王着任(721)												
このころ斎宮の官位相当が定められる	730		新	SB4463(67)	SK4497(68)	SB7105(102-5)	水池SF35			新	Ⅳ－1 Ⅰ－25	
斎宮年料に官物を用いる規定(730)	740							平城Ⅲ				
	750		古	*SB7445(111)*	*SK10213(167)*	SK6105(87)						
	760	Ⅰ－3	中	*SB3920(59)*	*SK4498(68)*			平城Ⅳ		古	Ⅳ－2 NN－32	
	770		新	SK6228(88) **SK6210(88)**	SK4130(62)	SK6220(88)	SK6226(88)	平城Ⅴ				
気太王を伊勢に派遣(771)												
酒人内親王を斎王とする(772)	780			**SK1098(21-1)**	SK4585(69)	SK6225(88)	SK9675(152)					
斎宮に美雲が現れ改元(781)			古	**SK4589(69)**	SK5068(75)	SK8134(127)	SK8294(130)	平城Ⅵ	京Ⅱ		Ⅳ－3 O－10	O－80
紀作良を造斎宮長官に(785)	790			**SK6030(86)**	SK5072(75)	SK5343(79)	SK10248(168)					
		Ⅱ－1	中	SB4461(67)	SK6318(81-2)			平城Ⅶ		中		
斎宮に史生四員置く(803)	800			SB3605(56)	SB4392(66)	SH9001(143)	SD7478(111-2)					K－7
炊部司に長官主典を置く(808)	810		新	**SK1445(34)**	SD3730(57)	SH10885(187-6)	SK9785(152)					
度会離宮院へ斎宮移転(824)	820		古	**SK1045(20)**	**SK5200(77)**	SK9786(152)				新	Ⅴ－1 K－14	
	830	Ⅱ－2										
斎宮の焼亡と多気への再移転(839)	840		新	SK6753(98)	SK10502(177)							
				SK1423(29・44)	SK10247(168)							
	850		古	**SK7430(109)**	SK7017(103)	SK10325(173)			京Ⅲ	古		
	860											
寮火災、官舎十二宇延焼(867)				SK2695(44)	SE4050下層(61)	SE6920上層(99)					Ⅴ－2 K－90 (前半)	
	870	Ⅱ－3	中	**SK2650(44)**			SK6792(124)			中		
					SK7930(119)							
斎宮雑舎修理(881)	880			SK8295(130)	SK8842(140)						Ⅴ－3 K－90 (後半)	
	890		新	SK6071(86)	SK8308(130)	SK8529(136)	SK9930(157)					
	900											
				SK7030(103)	SK9860(154)	SB10152(167)						
延喜通宝初鋳(907)	910		古	**SX6666(95)**	**SX6900(99)**	SK4238(63)				新		
斎宮寮失火(922)	920											
		Ⅱ－4		**SE4050中層(61)**	SK7040(103)	SK8071(124)					Ⅵ－1 O－53	
造斎宮使による斎宮修造(933)	930											
	940		新	SD6750(98・124)	SK8066(124)	SK8071(124)	SK8073(124)		京Ⅳ	古		
	950											
	960		古	*(朝見2次SK48)*						中		山茶椀
				SE4050上層(61)								
	970											
隆子女王、斎宮で病没(974)	980										Ⅵ－2 H－72	
斎宮雑舎十三宇焼亡(981)		Ⅲ－1	中	**SE2000(31-4)**	SD3890(59)	SK7770(116-2)				新		第1型式
	990											
	1000											
	1010		新	SK8407(133)					京Ⅴ	古		
	1020			SE9835(153)	土坑1・2(162-3)							
斎宮所々損色(1026)												
寮頭館の禿倉二宇焼失(1031)	1030		古									
斎王託宣事件(1031)				SE8391(133)								
造伊勢斎宮使派遣(1037)	1040									中	Ⅵ－3 百代寺	
蔵部司の倉一宇焼失(1040)												
	1050	Ⅲ－2	中	SE7600(113)								
白磁Ⅺ類共伴	1060				**SK1074(20)**							第2型式
						SK1730(32)				新		
	1070		新	SX3665(56)	SK9926(157)							
殿屋破壊(1074)												
大中臣氏による三箇院数十宇寄進 (1077～1081)	1080											
				SE0720(15)	SK10115(163)				京Ⅵ	古		
	1090											
	1100	Ⅲ－3	古	SK6658(95)	SK7651(114)	SK10138(165-1)						第3型式
斎宮内院の破損極まりなし(1105)												
	1110				SK9028(143)					中		
	1120			SK9026(143)								



（太字は「2000年編年」の基準資料、斜字は参考資料）

『報告Ⅰ』では、「2000年編年」に基づく遺構の時期区分を行っているが、今回の編年案の再検討でも、光仁朝での「鍛冶山西区画」を中心とした酒人内親王のための斎宮造営、桓武朝での東西５区画、南北４区画の方格地割の造営という解釈は変わらず、既存の報告に大きな変更はないと考えている。

第２節　土師器供膳具を中心とした斎宮跡の土器の変遷

（１）編年案の作成

「2000年編年」までは、他時期の混入がなく（あるいは少ない）、器種構成が比較的豊富な一括資料を、共伴する須恵器・灰釉陶器等の生産地の年代観に基づいて年代決定し、これを各段階の基準資料として段階表記を行ってきた。具体的には飛鳥時代から平安時代までの斎宮跡の土器の流れは第Ⅰ期から第Ⅲ期に大別し、さらに第Ⅰ期で４段階、第Ⅱ期で４段階、第Ⅲ期で３段階の段階区分がなされている。

これにより、基本的な土器の構成と変遷の大要は押さえられてきたが、生産と消費の実年代のズレや、大量消費財的な器種と耐久財として使用される器種の間に生じる生産から廃棄までの時間差を考慮できていないことが課題であった。そのため、まず斎宮跡で最も大量に出土し、消費量（出土量）が多く、生産地での型式変化にいち早く反応すると考えられる土師器供膳具の型式変化をとらえた編年を構築することとした。その上で、絶対年代が推定できる資料の検証や、須恵器・灰釉陶器等の編年にみる生産地の年代観との整合性の検証を行うこととした。この手順によるため、「2000年編年」では、須恵器・灰釉陶器が共伴し、比較的器種のバリエーションが多いものを中心に基準資料を選別しているが、今回は須恵器等を共伴しない比較的出土量が少ない

ものでも一括性が高いものは検討の俎上に置いている。

「杯Ａ」や「皿Ｂ」といった器種名は都城との整合性の問題はあるものの、「2000年編年」で示されたものを基本とし、修正・加除の必要性があるものはその都度細分・修正した。今回は土師器の型式変化を中心に記載するため、文中の器種名は断りが無い限り土師器を示している。

従来の段階による、例えば「第Ｉ期第３段階」（以後も便宜的に「Ｉ－３期」などと表記する）という表現は、様式的な把握の上で抜本的な変更の必要性はないと考え、基本的に「2000年編年」を踏襲して各内容の検討を行い、約20～30年幅を目安に各段階の時間的細分を試みた。その際には、土師器の主要器種である「杯Ａ」などの口径や径高指数（器高÷口径）といった形態上の変化や、前段階の形式の混在状況を加味して資料の検討を行った。

「2000年編年」からの今回の大きな変更点は、これまでの研究を踏まえ、Ｉ－４期はⅡ－１期の古相に編入し、Ⅲ期は４段階に再編したことである。また、これまで示されてこなかったⅣ期以降をあらためて明示した。そして、検討した一括資料群の実年代を、文献史料の記録や遺構の解釈により、可能な限り付与する試みを行った。以下、各期別に順を追って記述する。

（２）斎宮跡第Ｉ期の土器

《直前期》

斎宮に先行する、７世紀半ばのものとみられるＳＢ2235(39次)・ＳＸ7496(110-1次)からは在地色の強い須恵器杯Ｈを伴って甕Ａ・Ｃが出土している。甕Ａはやや縦長のプロポーションで、頸部の屈曲が弱く口縁端部をわずかに上へ引き上げる。ＳＢ2235・ＳＸ7496からは土師器供膳具は共伴していないが、多気郡域まで広げて斎宮周辺のこの時期の土師器をみると、明和町の北野遺跡や戸峯古墳群、多気町の河田古墳群・倉懸古墳群などで、椀形を呈する杯Ｇの他、高杯、鉢、直口壺、甕Ａ・Ｃ、鍋、甑がみられる。ＳＢ2235・ＳＸ7496の資料は、これらと型式的にも器種構成的にも一連のものと考えられる。斎宮において、この時期に相当する土師器供膳具の良好な資料は乏しいが、やや後出とみられる７世紀第３四半期から斎宮Ｉ－１期にかけての資料としてＳＨ8925(141次)があげられる。この段階には古墳時代から継続する型式である杯Ｇや旧来の甕Ａを伴って、蓋の口縁にかえりを持つ須恵器杯Ａや、わずかながら内面に放射状暗文を持つ土師器皿（杯Ｃ？）が出現している点が、古墳時代の当地域の土器様式からの過渡期的な様相を示しており、現時点では仮に斎宮「直前期」の一群としてとらえておきたい。

《斎宮Ｉ－１期》

比較的精良な胎土と、暗文を持つ土師器が定着するＩ－１期のものとしては、古相にＳＢ0059（４次）、ＳＫ7095(102-5次)、ＳＤ8902(141次)が、新相に「2000年編年」でＩ－１期の基準資料としたＳＫ1255(27次)、ＳＢ1615(30次)の他、ＳＢ4743(71次)があげられる。土師器供膳具には、直前期にはなかった杯Ａや杯Ｂ１・Ｂ２・Ｃ、椀Ａ、皿Ａ１・Ｂ・Ｃ、高杯といった新しい器種が出現するが、いずれも畿内中央部の土器様式に含まれる器形であり、Ｉ－１期の段階でこれらを受容したといえる。また、色調は黄褐色系で、胎土に砂粒を多く含む在来系の杯Ｇと比べ、赤みがかった橙色を呈し、胎土も精良で、外面をヘラミガキ、内面に放射状や螺旋状の暗文を持つものがある。管見の限りでは畿内産のものはなく、胎土・焼成などからすべて在地産とみるのが妥当であろう。

器形の変化をみると、杯Ｇでは口径が11～12㎝ほど、器高値を口径値で割った径高指数が0.35～0.34で、仮に「直前期」に位置づけたＳＨ8925の資料が口径11.0㎝で径高指数0.36であるのに比べると、わずかに低平になっている。杯Ａは、平坦な底部から口縁部が鋭角的に大きく立ち上がり、口径約18～22㎝と大ぶりで、径高比は0.30から0.35とまばらである。そのため、この時期では一定した傾向を把握できていないが、後述するように杯類は低平化が進むようになる。この段階の一括資料には杯Ａを含まないものも多い。Ｉ－１期の資料は「2000年編年」策定以降もまだ資料の蓄積をみておらず、また既出のものも竪穴建物出土のものが中心であるため、現状では、斎宮そのものの土器の把握ができているとは言い難いかもしれない。

一方で、この段階に出現する杯Ｃは、飛鳥地域でみられる杯Ｃと親和性の高い器種で、ＳＢ4743の資料からは、少なくとも口径11～13㎝の小型品と、16～18㎝の大型品に分化していることがうかがえる。このような土師器供膳具における同一器形での法量分化も、Ｉ－１期になって認められる事象である。

共伴する須恵器は、斎宮周辺の窯跡は未発見ながらも、大部分が器形や胎土から、在地系のものが大半を占めると考えられるが、ＳＢ1615には美濃須衛窯産の可能性を指摘される資料も含んでいる。[8]

《斎宮Ｉ－２期》

この期も二段階に分けて考える。古相には「2000年編年」の基準資料であるＳＫ5102(70-1次)やＳＢ5632(82次)を、新相にはＳＢ4435(67次)・ＳＢ4463(67次)・ＳＫ4499(68次)・ＳＢ7105(102-5次)を挙げた。この期からは口縁部が内弯する皿Ａ１、高台がつく杯Ｂ・皿Ｂ（口縁が内弯するＢ１、外側にのびるＢ２も含む)、杯Ｃを低平化した皿Ｃ、蓋が新たに揃い、器種の多様化と畿内中央部の都城的な様式の定着の段階といえる。また、ＳＫ5102やＳＫ7220(107次)のように、この時期に埋没したとみられる遺構の中には土器の出土量が多いものがみられ、相対的に土器の消費量が増すと推測している。

杯Ｇは古相・新相とも径高指数が0.30、杯Ａも古相0.23、新相0.24と、器形上の変化は見られないが、古相のものは、杯Ａなどの精製品の外面をヘラミガキで調整するが、新相には杯・皿の底部をヘラケズリ調整（いわゆるｃ手法）するものが卓越してくる。これは都城編年の平城Ⅱから平城Ⅲへの流れにも整合している。

法量分化については、古相のＳＫ5102で、杯Ａ１には口径17～18㎝の大型品と13㎝台の小型品、その間の15㎝台の中型品に分けることは可能であるが、新相の資料では大中の２種類のサイズ以外は確認できなくなる。

古相に属するＳＫ5102は、土師器供膳具に杯Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｇ、皿Ａ・Ｂ、高杯、蓋と多彩な内容を持つが、第30図に示すように、多くの器種にわたり、平城Ⅱの基準資料である長屋王邸宅跡ＳＤ4750の資料との親和性が高いと考えている。ＳＫ5102の土師器には内面の放射状暗文が一段しかないこと、口縁内面の連弧状暗文がみられないことから、長屋王邸の資料より一段階新しいとみる見解もあるが、[9]斎宮の土師器には搬入品ほとんどみられないことや、基本的に斎宮跡の土師器供膳具に二段放射暗文を持つものはないことから、両者は時期的にかなり接近したものとみて大きな問題はないと考える。

『続日本紀』によれば、養老五(721)年に皇太子首皇子（のちの聖武天皇）の息女である井上

内親王の斎王就任が決まり、神亀四(727)年には、伊勢斎宮に着任している。また、これにあわせるように、養老二(718)年に斎宮寮の公文にはじめて印を用い、神亀四(727)年には斎宮寮の官人121人を補任、天平二(730)年には、以後の斎宮の年料は官物を用い、神宮神戸の庸・調を充当することを禁じる勅が出されるなど、機構・財政面の整備も進み、井上内親王の斎王着任にあたっては周到な準備が為されたとみるのが自然であろう。Ⅰ－２期古相に始まる都城的な器種の増加と定着、量的な増加は、720年代のこうした斎宮整備と連動したものとみられ、Ⅰ－２期のはじまりも720年を大きくは遡らない時期とみられる。この時期には周辺地域の関連資料として、明和町の水池遺跡の土師器焼成坑出土資料が挙げられる。水池遺跡の土師器焼成杭から出土した土師器は、内面に放射状・螺旋状の暗文を持つ精製土器の割合が高いとされ[(10)]、斎宮との強い関係がうかがわれる。水池遺跡からは16基の焼成坑が見つかっているが、出土土師器はＳＦ８の資料のようにⅠ－１期の新相にさかのぼる可能性があるものを含むものの、大部分はⅠ－２期に属し、Ⅰ－３期以降のものは確認されていない。こうした水池遺跡の短期間の消長も井上斎王の斎宮整備に係る状況を反映するものと考えられる。

Ⅰ－２期に共伴する須恵器も、前代同様に窯跡が判明していない在地系のものが多いとみられるが、古相のＳＫ5102には猿投窯産の可能性のある短頸壺を伴っている。

《斎宮Ⅰ－３期》

この期は三段階に分けているが、古・中相とみられる資料は少ないため、今後増加する資料の状況によっては古・中相は分離すべきではないかもしれない。また、斎宮の奈良時代の中枢部があったとみられる史跡西部から離れた地点の資料が多いことから、斎宮土器編年の段階設定としては依然課題が残っている。

古相にはＳＢ7445(111次)・ＳＫ10213(167次)の、中相にはＳＢ3920(59次)・ＳＫ4498(68次)の資料を挙げた。新相になると一転して資料は急激に増加をする。ＳＫ1098(21-1次)・ＳＫ4130(62次)・ＳＫ4585(69次)の他、ＳＫ6210・6220・6225・6226など鍛冶山地区の第88次調査で検出した土坑群の資料がこれにあたる。

Ⅰ－３期は、皿Ｃの消失、杯Ｂ・Ｃの減少、杯・椀の外面調整がヘラケズリを主体とすることからうかがわれる製作上の省力化など、Ⅰ－２期に比べ後退的要素が多い。杯Ｇの径高指数は古～新相で0.26～0.28、杯ＡでⅠ－３期を通して0.21と、いずれも前代より低平化が進んでいる。法量分化については、杯Ａでは口径20cmを超える大型、約16～18cmの中型、14cm以下の小型に分けられるが、これらの境界は前段階に比べると不明瞭になっている。

古相に位置づけたＳＫ10213出土の杯Ａには、口径20.9cm、器高4.0cmで、外面をヘラミガキし、内面に一段の放射状暗文と口縁部に連弧状暗文、見込みに螺旋暗文を施す資料がある。これは形態や大きさ、調整手法の上で、平城Ⅲ新相の基準資料であるＳＫ820の中に酷似したものを見つけることができる（第30図参照)。このＳＫ10213の杯Ａは、橙色を呈する在地の胎土によるもので、Ⅰ－３期の古相は８世紀の半ば頃のものとみられる。ＳＫ10213の杯Ｇは径高指数が0.30ほどで、Ⅰ－２期と変わらないが、杯Ａは、径高指数が平均0.21と、Ⅰ－２期よりも低平化が進んでおり、後出的といえる。

中相とみられる資料は特定しがたい。史跡中央部の第59次調査で検出した竪穴建物ＳＢ3920や、史跡北西部のＳＫ4498の資料を想定しているが、土師器供膳具では新相と明確に区別ができない。

ＳＢ3920や、それと隣接するほぼ同時期とみられるＳＢ3900(59次)から仏器写しの須恵器鉢や土師器鉢が出土し、伊勢大神宮寺の排除など、当地域からの仏教色の排除が徹底されていく光仁朝以前にさかのぼる可能性が想定できること[11]、共伴する須恵器杯Ｂに美濃須衛窯編年のⅣ期第１小期後半（８世紀前葉）の基準資料である老洞１号窯でのみ認められる資料があることから[12]、仮に８世紀第３四半期頃のものとみておきたい。この時期に該当する称徳朝は、文献記録上では斎王が選ばれておらず、斎宮の空白時期でもあった可能性が高い。

Ｉ－３期新相には、「2000年編年」でこの段階の基準資料としてきたＳＫ1098やＳＫ6210が含まれる。「2000年編年」ではこれらの基準資料に伴う須恵器の中に、美濃須衛窯のⅣ期第１～２小期に位置づけられるものがあり、これらは、先にみた『続日本紀』天平二(730)年の勅によって斎宮が国家財政の下で運営されることになった反映として、美濃須衛窯産のものが導入されるようになったとみて、天平二(730)年から宝亀元(771)年頃まで、平城Ⅲ・Ⅳに併行するものとされた[13]。しかし、その後の研究により、これらの土器群には猿投窯編年のⅤ期古段階新相から中段階のものが少なからず見い出せ、「2000年編年」でのＩ－３期の基準資料と、それと時期的に併行するとみられる鍛冶山地区の土器群は、光仁朝での斎宮造営に関わるものと指摘されるようになった[14]。全ての資料を確認できてはいないが、Ｉ－３期新相に併行するとみられる遺構の分布をみると、史跡東部からの出土量・遺構数がともに多く、特に光仁朝に新規に「内院」が造営される鍛冶山地区周辺からの出土量が極めて多い[15]。このようにＳＫ1098・6210を代表とする土器群は、宝亀元(770)年に光仁が即位し、宝亀二(771)年酒人内親王を斎王として派遣するため、鍛冶正気太王を斎宮造営に派遣（『続日本紀』）した頃以降のものと見た方が、史料とも整合するものと考えられる。

Ｉ－３期新相の土器群については、かつて「法量の上で大きな変化は見られないが」としながら、土師器杯類を中心に、暗文の多用や外面調整がヘラミガキかヘラケズリかといった点で奈良時代中期の土器を新旧２段階に分ける案が提唱されていた[16]。しかし、新旧とされた土器群がきわめて接近した場所で見つかっていること、調整手法を除く形態・法量の上で差異が認められないことから、段階を分けるほどの時間差を想定することは難しいと考えられる。

美濃須衛窯系の須恵器については、先述の第59次調査のＳＢ3900・3920のやや大型で底部に丸みを持つ須恵器杯や、老洞窯産とみられる「美濃」刻印土器をはじめとして、生産地編年で８世紀前葉にあたるⅣ期第１小期に分類されるものが多い。これは、すでに指摘されているように、先述の天平二年の勅とは無関係ではないだろう。一方、土器全体の出土量が増加するＩ－３期新相になると、大型の杯・蓋・皿・盤・甕・鉢類を伴うことが知られている。延長五(927)年編纂の『延喜斎宮式』「諸国送納調庸条」では、美濃国に陶器六百九十六口が課せられ、また、「供新嘗料条」では主神司および殿部司に甀・平居瓶・都波波・匜・小坏・陶臼・筥坏・陶埦・多志良加・瓶・陶鉢・盤・高坏・酒盞・叩盆を、水部司には坩・陶埦・臼・盤を、殿部司には池由加・由加・匜・瓶・缶・叩盆を、薬部司には陶坩・叩盆・陶手洗・陶埦・盤を美濃国が充当するとされていることも、少なくとも９世紀あるいはそれにさかのぼる須恵器の供給の状況を反映しているものだろう。特に、この中の甀・多志良加・瓶・池由加・由加・缶などは大型の貯蔵具にあたると考えられている[17]。出土土器を遺構内で評価する際、生産地での焼成後、当地に運ばれるまでの時間差、使用開始から廃棄に至るまでの時間差を考慮する必要がある。このような耐久財とし

て使われたであろう大型品は、特にその時間差が大きくなるものと推定できる。Ⅰ－３期新相の土器群の多くが光仁朝の斎宮造営に関連すると仮定すると、鍛冶山地区周辺で大量に出土する美濃須衛産の大型品は、斎宮造営にあたり新たに都城から持ち込まれた、あるいは既設の斎宮施設から回収して造営段階にまとめて廃棄した可能性が考えられ、供膳具など消費から廃棄のサイクルが短い土器との時間差が生じていることが想定できる。

《Ⅰ－４期の再検討》

「2000年編年」では、平城Ⅴに併行し、光仁朝から長岡京期を経て、延暦四(785)年に紀作良を造斎宮長官として、桓武朝の斎王朝原内親王の斎宮を造営（『続日本紀』）するまでの段階として、Ⅰ－４期を設定しており、美濃須衛窯のⅣ期第３小期、猿投窯では折戸10号窯式期に相当するとされた。しかし、Ⅰ－４期の基準資料とした第69次調査のＳＥ4580や、これとほぼ同時期とされるＳＫ4585には、明らかに折戸10号窯式期に併行するとみられる須恵器は含まれていない。さらに、土師器杯Ａ類は外面をヘラケズリするものに加え、口縁部を広くヨコナデする、いわゆるｅ手法のものが現れている。この土器群については、後出のⅡ－１期への形態変化が漸移的で、かねてより独立した段階とすることに疑義が呈されてきた[18]。ＳＥ4580の杯Ａの径高指数は0.24～0.26で、Ⅰ－３期の平均より立ち上がりの強いものとなっている。これは、たとえ底部はヘラケズリしても、口縁部を強くヨコナデすることで、底部から口縁部を強く立ち上げているためで、杯Ａだけでなく皿Ａ２にも同様の形態変化がみられる。さらにこの手法はⅡ期の杯Ａの形態を規定していくことから、この土師器製作技法の転換を土器様式の転換点とみる方が、様式論的に明快に理解できる。そのため、今回の編年案では、「2000年編年」でのⅠ－４期は、Ⅱ－１期の古相に含まれるとして様式観の修正を行った。

（３）斎宮跡第Ⅱ期の土器

《斎宮Ⅱ－１期》

Ⅱ－１期の古相（旧Ⅰ－４期を含む）から、口縁部をヨコナデして成形・調整する杯Ａや皿Ａ２などのように、成形技法の簡素化や小型化による大量生産への対応がうかがえる。Ⅰ－３期新相の実年代観が光仁朝期以降と考えられることから、Ⅱ－１期古相の実年代観は、方格地割の本格的な造営に入るとともに、官人も急増したとみられる延暦四(785)年以降に位置づけられる。

Ⅱ－１期に入ると、杯Ｂが大幅に減少、杯Ｃが消失し、杯Ｇも大きく減少する。一方、杯Ａと同様に口縁をヨコナデして外反させる皿Ａ２や、口径14㎝前後で底部外面をヘラケズリあるいはナデ調整し、底部から丸みのある腰部が立ち上がる椀Ａ２が現れるなど、これまでの器種構成とは大きく変化しており、新しい段階に移行したとみてよい。

供膳具の主体となる杯Ａの径高指数は0.22～0.23で、前段階より口縁の立ち上がりが大きいプロポーションになる。これは先述のとおりｅ手法の盛行に伴う変化である。法量は前代より小型化が進み、口径約14～17㎝と18㎝以上のおよそ二つの法量に分化するが、両者に明確な区別はつけにくい。杯Ｇは、Ⅰ－３期で0.30であった径高指数が0.27～0.29になり、器高を減じている。

Ⅱ－１期は暫定的に三段階に細分している。古相は杯Ａや皿Ａ２にｅ手法が現れ、底部から腰部にかけてシャープに立ち上がるようになる一方で、杯・皿の外面をヘラケズリするものも共伴する段階である。椀Ａ２が出現するのは、古相の中でもやや新しいとみられるＳＫ6030（86次）

からである。ＳＫ6030の椀Ａ２は、口径が約13.5㎝で底部をヘラケズリする。同様の形態は都城の長岡京期の遺構に見られ、ＳＫ6030資料は、これを写したものとみてよい。これがⅡ－１期古相の実年代のひとつの根拠である（第30図参照）。また、煮炊具ではあるが、甕Ａの底部外面がハケメのみの調整から、ヘラケズリが導入されるようになる。

中相は、杯・皿類のヨコナデが強くなることで器壁が薄くなる。良好な一括資料であるＳＨ9001（143次）でみると、杯Ａで口径約12㎝から約18㎝と、全体に小型化が進行するが、明瞭な法量分化は認められない。椀Ａ２が増加し、本格的に定着するのはこの段階からである。供膳具ではないが、平底で底部外面をヘラケズリする鉢が現れるのもこの頃とみられる。

新相になると杯Ａの口縁部はさらに外に広がるようになる。良好な一括資料であるＳＫ1445（34次）でみると、杯Ａの口径は12.3～16.5㎝、径高指数で0.23とさらに小型化傾向が進む。

Ⅱ－１期の土師器に共伴する須恵器は、本書掲載のⅡ－１期中相のＳＫ1291(28次)に折戸10号窯にみられる双耳瓶蓋(104)や、中相のＳＨ9001以降から、鳴海32号窯式期の有台盤や折戸80号窯式期の笠形の形状になる杯蓋など、猿投窯産須恵器の増加が目立つ。

《斎宮Ⅱ－２期》

Ⅱ－１期から、さらに杯Ａの口縁の外傾化と小型化が進む。二段階に細分している。

古相には、「2000年編年」のⅡ－２期の基準資料であるＳＫ5200(77次)とＳＫ1045(20次)の他、ＳＫ9786(152次)がある。これらの杯Ａの口径はおよそ13～17㎝、径高指数は平均でいずれも0.23～0.24となり、口縁の外傾化の進行以外はⅡ－１期と大きな変化はない。古墳時代以来、斎宮跡の土器様式の一画をなしてきた杯Ｇは、径高指数が0.23とさらに低平化が進み、古相以後は椀Ａ２と器形・焼成の上で区別が無くなる。内外面の装飾である暗文は、杯Ａには施されなくなり、椀Ａ２と一部の皿・高杯類のみになる。

ＳＫ9786は、柳原区画のＢ期の寮庁正殿の柱穴を壊して掘削されている。Ｂ期の正殿は、延暦二十二(803)年から大同三(808)年頃にみられる史生四員の増員（『日本紀略』）や、炊部司への主典の設置（『日本後紀』ほか）などの斎宮寮の機構改革に伴い「寮庁」正殿として設置され、天長元(824)年に斎宮が度会郡離宮院に移転（『類聚国史』）された以後解体されたと考えている。そのため、ＳＫ9786の土器群は、天長元年を少し遡る頃から直後の時期のものとみられる。

新相になると、当該期にあてたＳＫ6753(98次)やＳＫ10502(177次)の杯Ａの口径は13～16㎝、径高指数で0.20～0.22と小型化、低平化が一段と進む。この変化は、これら新相の土器群が、承和六(839)年に度会斎宮が火災に遭い、ふたたび多気郡のこの地が「常斎宮」と定められた（『続日本後紀』）以後のものと考えられ、古層との間のわずかではあるが時間差に起因する可能性がある。他にも、古相からの変化としては、全体に占める割合はわずかだが、内面のみを黒化処理するＡ類の黒色土器が一定量みられるようになる。

共伴する陶器類には、在地系とみられる須恵器や折戸10号窯式の須恵器に加え、Ⅱ－２期古相のＳＫ1045から黒笹14号窯式の灰釉陶器の椀・皿が伴うようになる。平安京で灰釉陶器が出現するのは京Ⅱ期新段階とされており、斎宮でも都城とほとんど時間差なく、灰釉陶器の導入が始まったことがわかる。

《斎宮Ⅱ－３期》

三段階に細分している。杯Ａをみていくと、古相がＳＫ7430(109次)・7017(103次)・10325

(173次)で口径が13～16.5㎝、径高指数が平均で0.22、中相がＳＫ2650(44次)・6792(124次)・6743(98次)で口径13～16.5㎝、径高指数が0.21、新相がＳＫ8529(136次)・8842(140次)・7930(119次)で口径が13～16.5㎝、径高指数が0.21と大きな変化はないようにみえる。しかし、新相になると口径が14㎝台のものが多く、画一化と低平化が進み、器壁も薄くなるとともに、口縁部のヨコナデ範囲が狭くなる傾向にある。この結果、杯Ａと椀Ａ２は形態的に接近していくことになる。同様に皿類も、口縁部を内弯気味につくるＡ１と、外反させるＡ２の区別が不明瞭になっている。暗文は、土師器では基本的に椀Ａ２の内面に粗い放射状・螺旋状暗文を施すのみになる。

供膳具以外では、甕Ｃは減少するとともに短胴化が進み、甕Ａとの区別が不明瞭になる。また、甕・鍋ともに口縁端部の肥厚が進む。

黒色土器には、Ａ類の中に杯Ａに高台をつける台付椀Ａが、Ⅱ－３期古相からあらわれる。

共伴する陶器類をみると、古相ではＳＫ7430・ＳＫ10325で、折戸10号窯式の須恵器に伴って、黒笹14号窯式の角高台の灰釉陶器椀が出土するが、中相のＳＫ2650・ＳＥ6920上層(99次)では三日月高台の灰釉陶器椀が含まれるようになる。

緑釉陶器は、Ⅱ－３期の古相から中相の時期にかけて、猿投窯産のものを中心にみられるようになる。混入を除き、現時点で東海地方の瓷器系の緑釉陶器を含む最も古い遺構は、ＳＫ2695(44次)・7430で、端反口縁に角高台を持つ椀や、陰刻花文や輪状のつまみを有する蓋がみられる。椀類は猿投窯の黒笹14号窯式の製品を焼成する窯跡から素地がみつかる型式で、ほぼ同型の端反口縁の椀は、平安京の京Ⅱ期新相の冷泉院や淳和院の遺構から出土しているものである。Ⅱ－３期の古相から中相は、９世紀の第３四半期を中心とした時期に想定しているので、灰釉陶器と比べ、生産地や平安京などと比べると、現時点では緑釉陶器は都城にやや遅れて出土するように見える。[19]

灰釉陶器の増加に伴い、貯蔵具を除き須恵器は著しく減少するが、中相を中心とするＳＫ2650には、これまでみられなかった口縁部をまっすぐ外方へ伸ばす無台椀風の杯や、灰釉陶器や緑釉陶器を模倣したとみられる稜椀形の杯Ｂがみられる。焼成がやや軟質で、底部を回転ヘラケズリするなどの特徴を有しているが、現在のところ産地を特定することができない。

《斎宮Ⅱ－４期》

供膳具はさらなる小型化が進む段階で、二段階に細分している。古相のＳＫ7030(103次)、ＳＸ6666(95次)では、杯Ａの口径が11.5～15㎝、径高指数で0.22と、前代から小型化が進むとともに、椀Ａ２とは基本的に峻別ができなくなる。また、それとともに内面装飾の暗文もみられなくなる。新相はＳＥ4050中層(61次)、ＳＫ7040(103次)・8066(124次)・8071(124次)等でみると、口径11.5～15㎝、特に11～12㎝台のものが中心となり（ＳＫ8066で95％)、径高指数0.20と急速に小型化と画一化が進む。底部のナデ調整が雑になり、やや丸底化する。

供膳具以外の土師器では、甕Ｃが完全に消失し、甕Ａも球胴化するとともに口縁部を内側に丸めた形状で、外面上半を粗いタテハケ、下半をヘラケズリするものに変わる。Ⅱ－１期以来続いてきた平底の鉢もⅡ－４期を最後にみられなくなる。

陶器類の共伴関係をみると、古相のＳＫ10152から、折戸53号窯式のものとみられる灰釉陶器椀が含まれはじめ、黒笹14・90号窯式の段階よりも生産地と消費地の時間差が縮まるようである。緑釉陶器は猿投窯の黒笹90号窯式期のものが依然多いが、新相には近江産のものが現れる。一方、

須恵器は貯蔵具以外ほとんどみられない。また、新相から回転台成型によるいわゆる「ロクロ土師器」の椀がごくわずかに出現するが、丁寧に成型した角高台をもち、Ⅲ－１期以降に増加する「ロクロ土師器」と同じ系譜上に置けるかはさらなる検討が必要である。

Ⅱ－４期の実年代観については、すでに「2000年編年」において、基準資料とした地鎮遺構とみられるＳＸ6666・6900(99次)の土器群に、「延喜通寶」が複数枚共伴し、それより確実に新しい銭貨がみられないことから、延喜年間(907～922年)頃にあてている（第30図参照)。今回の試案においても基本的な変更はなく、Ⅱ－４期古相は、おおむね10世紀第１四半期の年代を与えられると考えている。さらに、Ⅱ－４期新相の土器群のうち、第98・124次調査のＳＫ8066・8071等の土器群は、鍛冶山西区画の「内院」の内部を細分する区画溝を埋めており、鍛冶山西区画の「内院」廃絶時の土器群である。これらの遺構では炭化材も出土しており、延喜二十二(922)年の斎宮寮失火の記事（『扶桑略記』）や、承平三(933)年に斎宮修造の記事（『類聚符宣抄』）が関連すると考えられることから、10世紀第２四半期を中心とする時期のものとみた。

（４）斎宮跡第Ⅲ期の土器

《斎宮Ⅲ－１期》

Ⅲ期は、土師器供膳具の小型化や画一化等の変化が進行した後の、土器様式の大きな変革の時期である。Ⅱ期にみられた杯・椀・皿（有台のものも含む）による供膳具の構成が、皿化した杯Ｄと、小皿にあたる皿Ｄ、および丸みのある体部をもつ椀Ｃ・台付椀に再編される。また、土師器杯・皿の胎土への砂粒の混入が多くなり、橙色が主体的だったⅡ期の土師器から白～灰白色がかったものが主体的になる。この段階での土師器の生産遺構は明らかでないが、土師器の原材料である粘土の供給や焼成技術に、ひいては供給そのものに何らかの変化があったことがうかがわれる。

Ⅲ－１期は三段階に細分しているが、全体に良好な資料が少ない。古相は「2000年編年」でも基準資料としていたＳＥ4050上層(61次)の他にはほとんど見当たらず、近傍から松阪市の朝見遺跡第２次調査のＳＫ48の資料を援用した[20]。杯Ａに代わり主要器形となった杯Ｄでみると、口径10.5～15㎝で、その中でも11～13㎝のものが多く、大小の規格の区別は明瞭ではない。径高指数は、Ⅱ－４期の杯Ａと器高はほとんど変わらないが、口径が減じたことで0.22となっている。また、ＳＥ4050上層からは、Ⅱ期にはなかった丸みのある体部を持つ椀Ｃと、これに高台を付けた台付椀や、ロクロ土師器の杯Ａと台付杯・小皿・台付小皿といった新器種が現れる。

中相は、「2000年編年」の基準資料であるＳＥ2000(31-4次)で、杯Ｄの口径は11～14.5㎝、径高指数で0.24と器高を増す傾向にある。中相に属するとみられる第59次調査のＳＤ3890出土の土器群は、第116-2次調査のＳＫ7770ともに、方格地割西隣にある広頭地区の方形状区画外周の区画溝からの資料であり、壺・鉢などの大型品を含む被熱した緑釉陶器や、広口壺・短頸壺などといった灰釉陶器の貯蔵具など、通常の土器廃棄土坑とは性格の異なる一括資料である。『日本紀略』には、天元四(981)年に斎宮寮の雑舎十三宇が火災にあった記事がみられ、記録に残る火災であったこと、第59次調査では焼土も見つかっていることから、ＳＤ3890の土器群はこの火災後の廃棄品と推定され、Ⅲ－１期中相に10世紀第４四半期頃の実年代が与えられると考えた[21]。

新相も資料は少ない。ＳＫ8407(133次)では杯Ｄで口径12.5～13.5㎝、径高指数で0.25弱とや

や器高増の傾向にある。

共伴する陶磁器類は、古相のＳＥ4050上層から腰高の灰釉陶器深椀がみられ、猿投窯では東山72号窯式に相当する。同時期の朝見遺跡ＳＫ48でも、猿投窯の広久手30号窯類似品など東山72号窯式の灰釉陶器深椀を伴っていることから、Ⅱ－４期同様、生産後に比較的早い搬入から廃棄のサイクルがうかがえる。中相には、ＳＥ2000にみられるように土師器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器（近江産）といった多彩な台付椀形態が出揃う。

ロクロ土師器は、柱状高台を持つものを除き、ほぼすべての器種が出揃う。当地のロクロ土師器については、生産地や技術的系譜など不明な点が多いが、胎土や焼成の特徴から複数のグループに区分できるようであり、今後の詳細な検討が待たれる。

《斎宮Ⅲ－２期》

Ⅲ－１期以降、依然として資料は少なく、今回三段階に分けているが、杯Ｄや皿Ｄの形態的な変化は乏しい。古相としたＳＥ8391(133次)や、まだ暫定的な整理の段階で、未報告の第162-3次調査の土坑１・２の杯Ｄは、口径11.5～15㎝で、その中でも13～14㎝に分布の中心があり(約64％)、径高指数は0.24である。この土坑１・２には、在来のものと胎土・焼成は同じだが、明らかに形態の異なる、平安京編年の京Ⅳ期新段階～Ｖ期古段階の、いわゆる「て」の字口縁の土師器皿に親和性のあるものが含まれており、11世紀第１四半期に位置づけた（第30図参照)。また、同様に古相のＳＥ8391(133次)の台付小皿の中に、口縁端部を内側に屈曲させたものがあり、これも平安京の京Ｖ期古段階頃の皿を意識した可能性がある。

中相のＳＫ1074(20次)・1730(32次)は、「2000年編年」のⅢ－２期の基準資料でもある。杯Ｄの口径は12～16㎝で、その中でも12～13㎝台のものが多い（約71％)、径高指数は0.24、新相のＳＸ3665(56次)、ＳＫ9926(157次)で、杯Ｄの口径はおおむね14～15.5㎝、径高指数0.23である。中相から新相の間ではあまり大きな形態変化はみられない。供膳具以外では、球胴化した甕Ａの体部外面上半のハケメがいっそう粗くなり、時には省略される傾向にある。

古相のＳＥ8391や、中相に相当するＳＥ7600(133次)では、Ⅲ－１期に引き続いて、土師器台付椀の他に、灰釉陶器の椀・深椀、無釉陶器である山茶椀、黒色土器Ａ・Ｂ類の台付椀といった多彩な台付椀に加えて、さらにロクロ土師器の椀Ｂが加わる。この椀Ｂは陶器と判断しそうな堅緻な焼成で、器壁も薄い。緑釉陶器椀はこの段階には混入以外みられなくなり、ロクロ土師器椀Ｂは同時期の灰釉陶器の形態を写すことを強く志向しているものとみられるが、Ⅲ－１期新相に現れ、遅くともⅢ－２期内には消失する短命な器種である。同様のものに柱状高台を持つロクロ土師器小型杯がある。これはⅢ－２期古相に出現し、遅くともⅢ－３期古相には、出土量が大幅に減少し消失していく。このようにⅢ－２期の土師器供膳具は、その前後と比較しても形態的な特徴・変化に乏しいが、各種椀形土器・陶器や、ロクロ土師器に特徴づけられる段階と言えるだろう。

Ⅲ－２期に共伴する陶磁器には、古相から東山72号窯式や百代寺窯式期の灰釉陶器椀・深椀や、第２型式の初期の山茶椀を伴っている。山茶椀はⅢ－２期新相に一般的となり、この段階には灰釉陶器はほとんど姿を消している。また、中相のＳＥ7600やＳＫ1071(20次)からは、大宰府の陶磁器分類で10世紀後半から11世紀中頃の標準資料である白磁Ⅺ類とされる玉縁口縁の椀が共伴する。[22]

Ⅲ－１～２期の土器類は良好な一括資料が少ないが、注意しておきたいのは、井戸一括の資料

が多いことであろう。Ⅲ－１～２期は、遺構の面でも史跡東部の方格地割の東２列分が衰退し、鍛冶山西区画の「内院」も消失する段階であり、その一方で、史跡中央部の方格地割西隣の広頭・東裏地区等で新たな区画の造営がみられる。このような斎宮の施設の変化が、土器量の減少、土器群の構成の変化、井戸への土器の廃棄といった事象に関連する可能性は高い[23]。土器の出土量が増加に転じるとみられるのは、Ⅲ－２期新相以降である。中央の政治的実権が院(上皇)に移り、その息女が斎王とされたことにより、斎宮が中世に至る再生を果たしたとみなされる時期と一致する[24]。

《斎宮Ⅲ－３期》

院政期に入り、Ⅲ－２期新相から引き続いて、土師器を中心に土器類の出土量が増加に転じる段階で、二段階に区分している。杯Ｄでみると古相のＳＫ6658(95次)・7305(108次)・7651(114次)・9940(157次)で、口径はおよそ13～15㎝で、その中でも13㎝台に分布の中心があり（約62％)、径高指数は0.25、新相ではＳＫ9026(143次)・9028(143次)で口径12.5～16㎝で、13～14㎝台に分布の中心があり（約77％)、径高指数は0.25である。杯ＤはⅢ－２期に比べて器高が増す傾向で、底部の丸みが強くなるため、椀Ｃとの区別が無くなり、Ⅲ－３期の中で両者は統合されていく。また、杯Ｄには口縁部の先端を強くヨコナデするため、口縁端部直下が肥厚するものがある。

前代までに比べると総体的に土器の出土量が増えるが、良好な一括資料は方格地割中枢部の「内院」牛葉東区画や「寮庁」柳原区画周辺に多い。特に「内院」ではひらがな墨書土器を含み、土器片が区画溝を充填するように大量に出土する例がある。

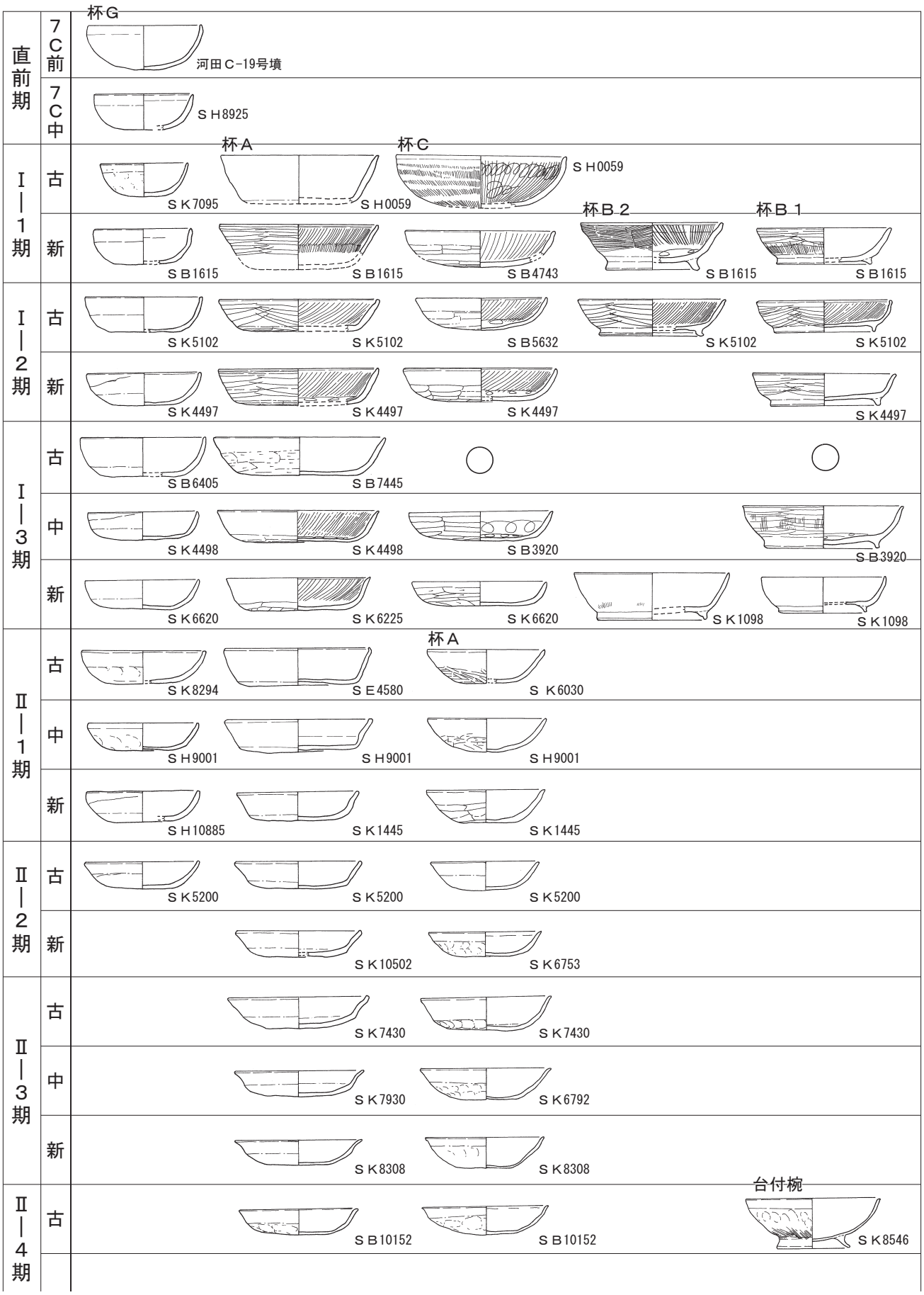
新相にかかるＳＫ9026から、いわゆる「コースター形」の京都系土師器皿が出土しており、平安京の編年で京Ⅵ期（11世紀末～12世紀第３四半期）に相当すると考えられる。また、共伴する山茶椀が第３～４型式のものであることから、Ⅲ－３期新相を、12世紀第２四半世紀を中心とした時期に位置づけた。

Ⅲ－３期には黒色土器は無くなり、代わって新相から瓦器椀・小皿が少量みられるようになる。

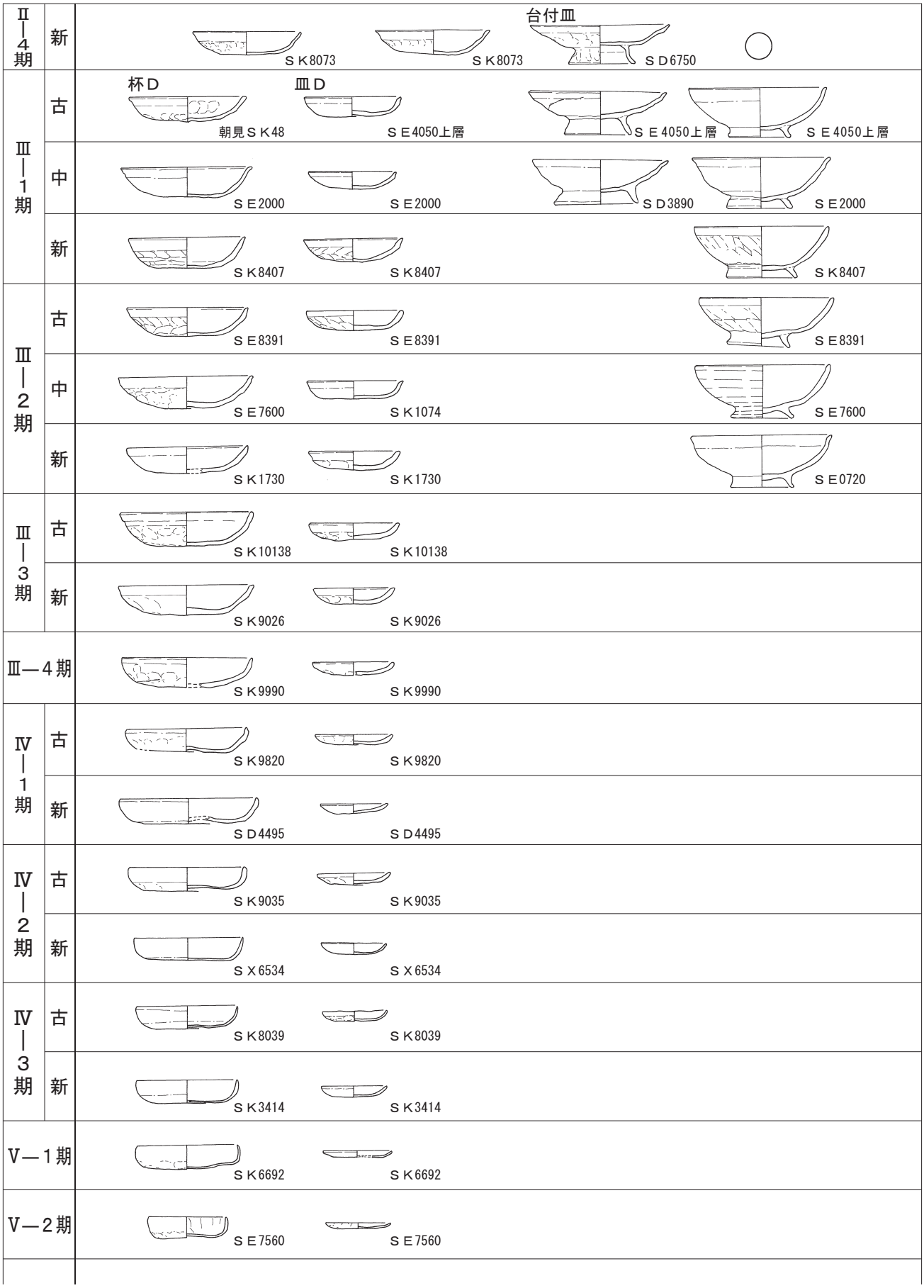
《斎宮Ⅲ－４期》

第143次調査の概要報告で提唱され、以後慣例的に設定されてきた段階である。Ⅳ－１期以降は、ロクロ土師器が消滅していき、土師器の器種も整理・淘汰され、中世的な土器様式に転換していくが、典型的な中世土師器皿と、昭和59年度の「斎宮跡の土師器」に提示された平安時代末期の杯との型式差を埋める段階と認識されている[25]。

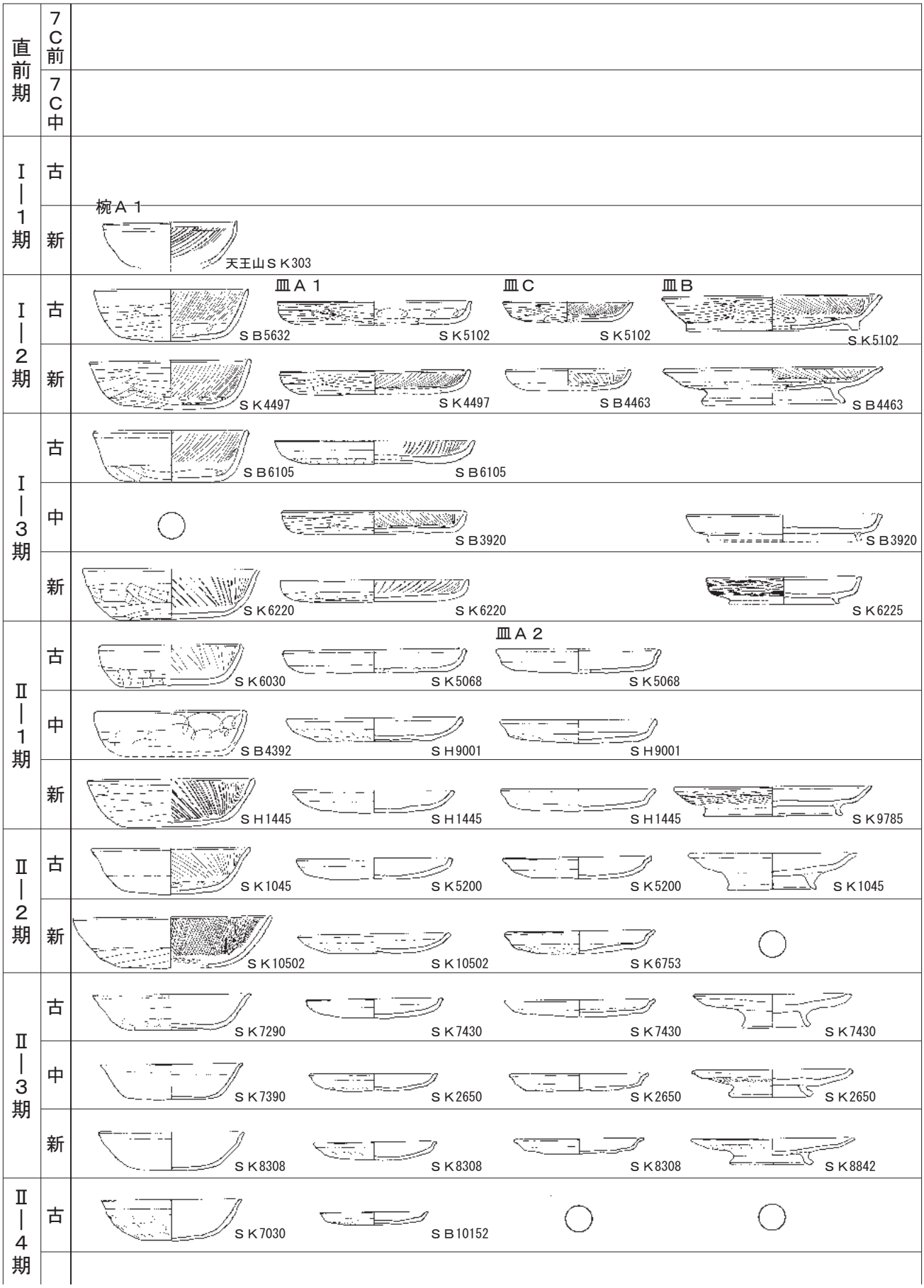
杯Ｄは、ＳＫ0247(118次)・6163(87次)・8110(125-1次)・9980(158次)で、口径13.5～16㎝で、14㎝台から15.5㎝までの間に分布の中心がある(約78％)。径高指数0.20となり、口径の拡大に伴い、杯が皿化することで再び低平化に転じる。Ⅲ－３期に引き続き口縁端部直下が肥厚するものが残る。本書掲載の第10次のＳＫ0555出土資料は、本段階最新相の良好な一括資料といえる。第４型式の山茶椀や、南伊勢系土師器鍋の編年で第１段階ｂ型式の資料を共伴することから、Ⅲ－４期の下限を示す資料で、Ⅲ－４期全体は12世紀第３四半期から第４四半期に位置づけられる。ＳＫ0555には、底部が平坦化し、そこから内弯気味に口縁部が立ち上がる土師器杯がある。この杯を杯Ｄとみるか中世的な皿とみるかで、ＳＫ0555の資料は、将来的にはⅢ－３期の最新相とするか、あるいはⅣ－１期に含めて再編されるべきかもしれない。一方、ＳＫ0555にはロクロ土師器杯や小皿がかなり含まれていることも注意される。



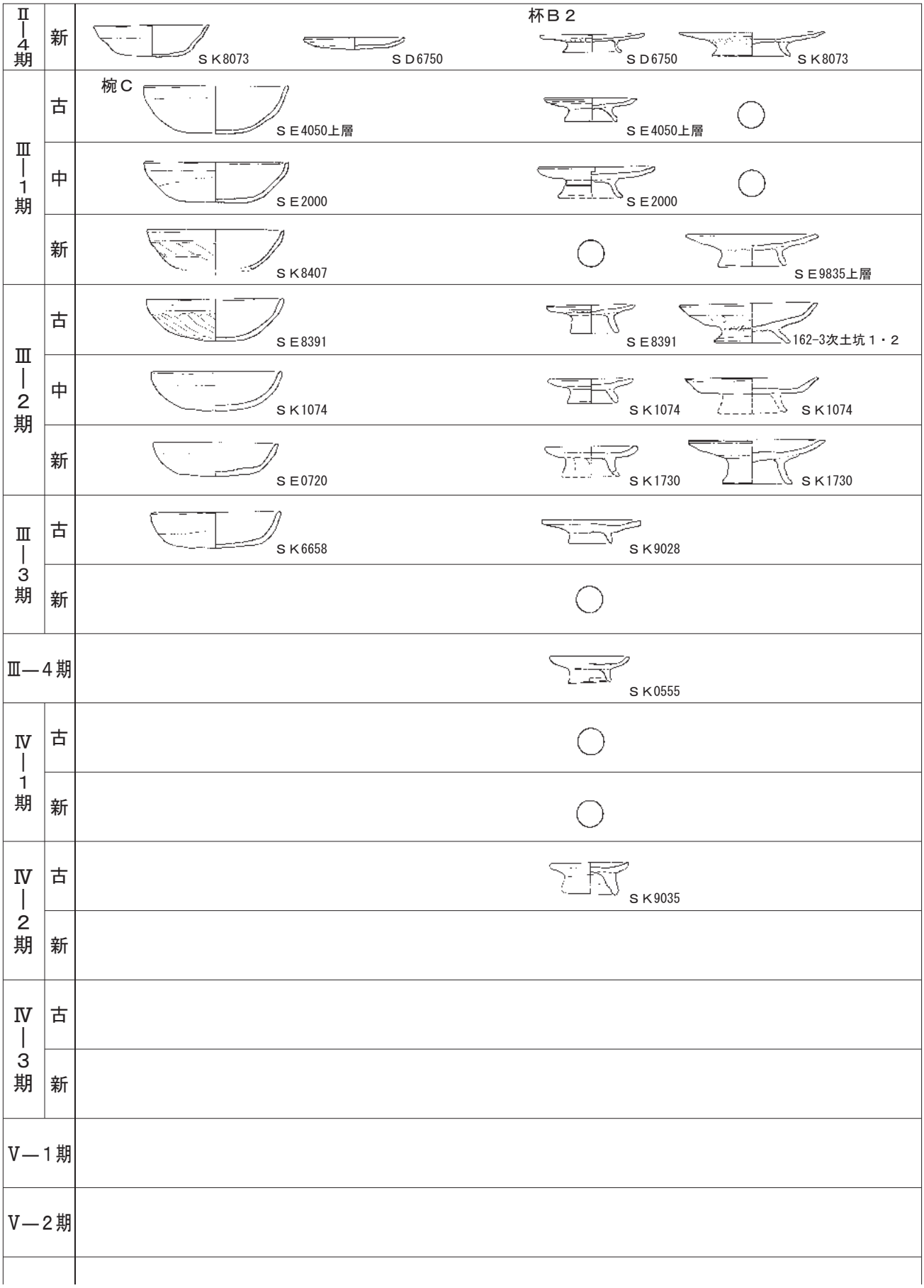
第22図　土師器供膳具の段階と変遷（1）（1：6）



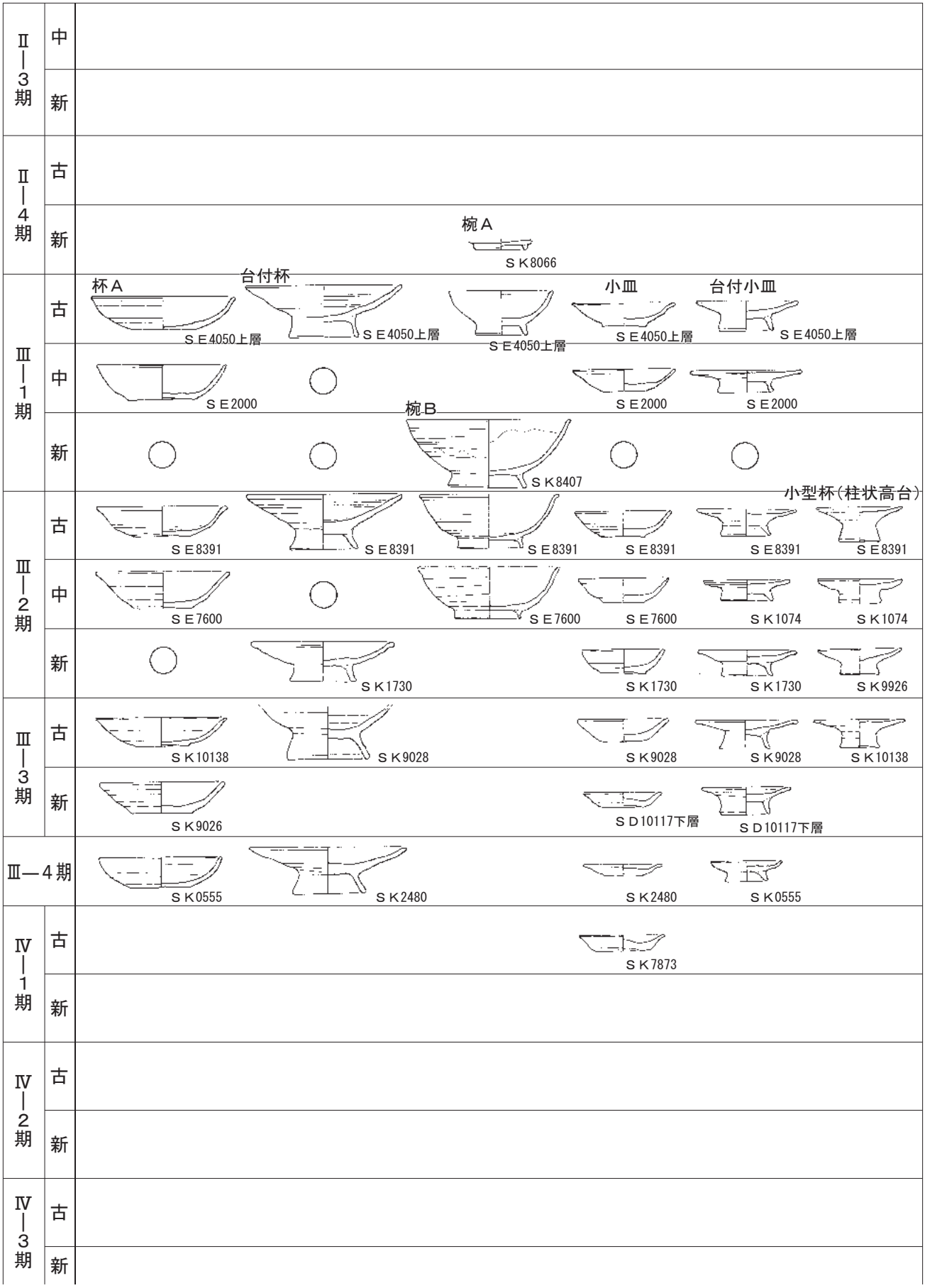
第23図　土師器供膳具の段階と変遷（２）（１：６）



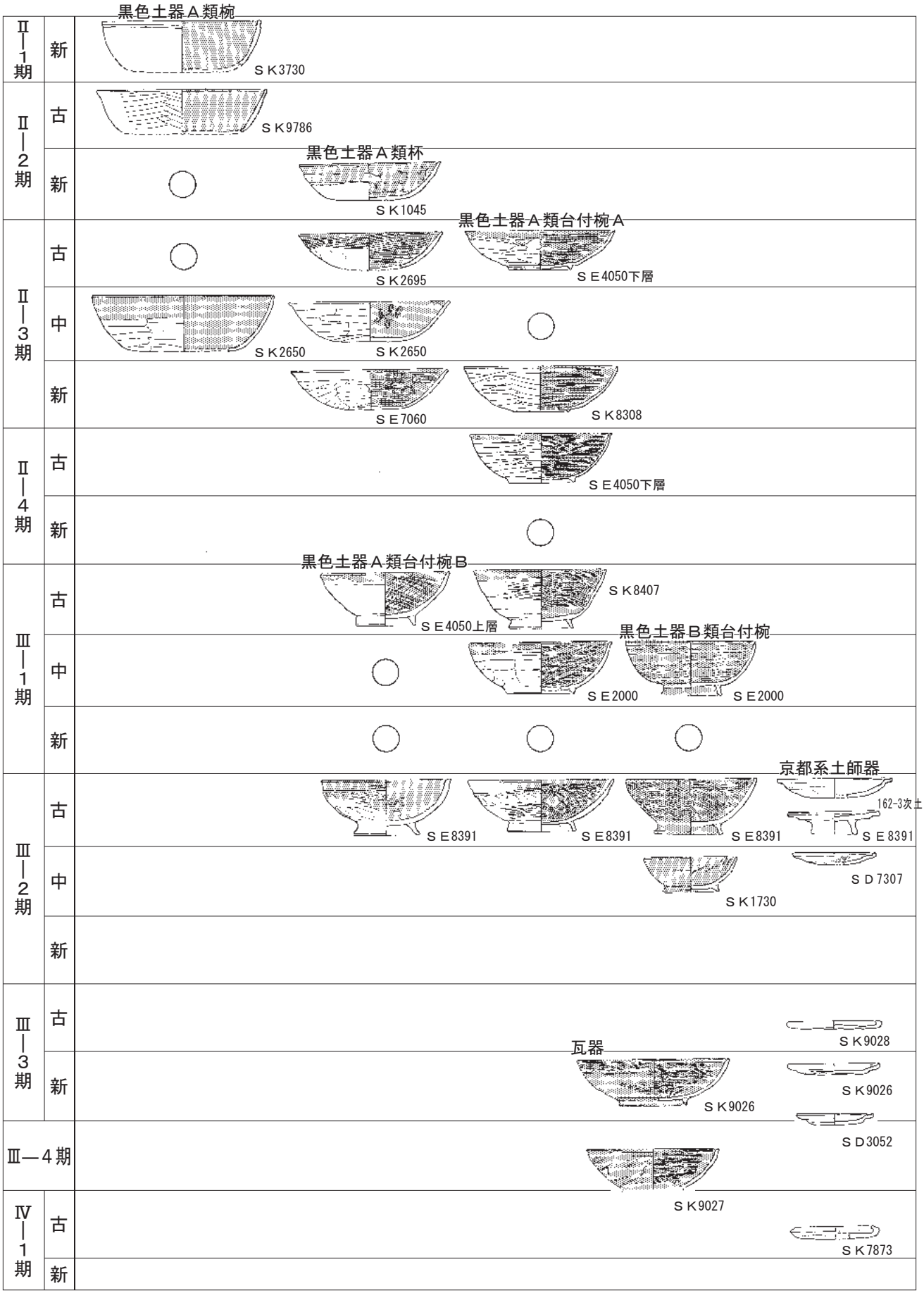
第24図　土師器供膳具の段階と変遷（３）（１：６）



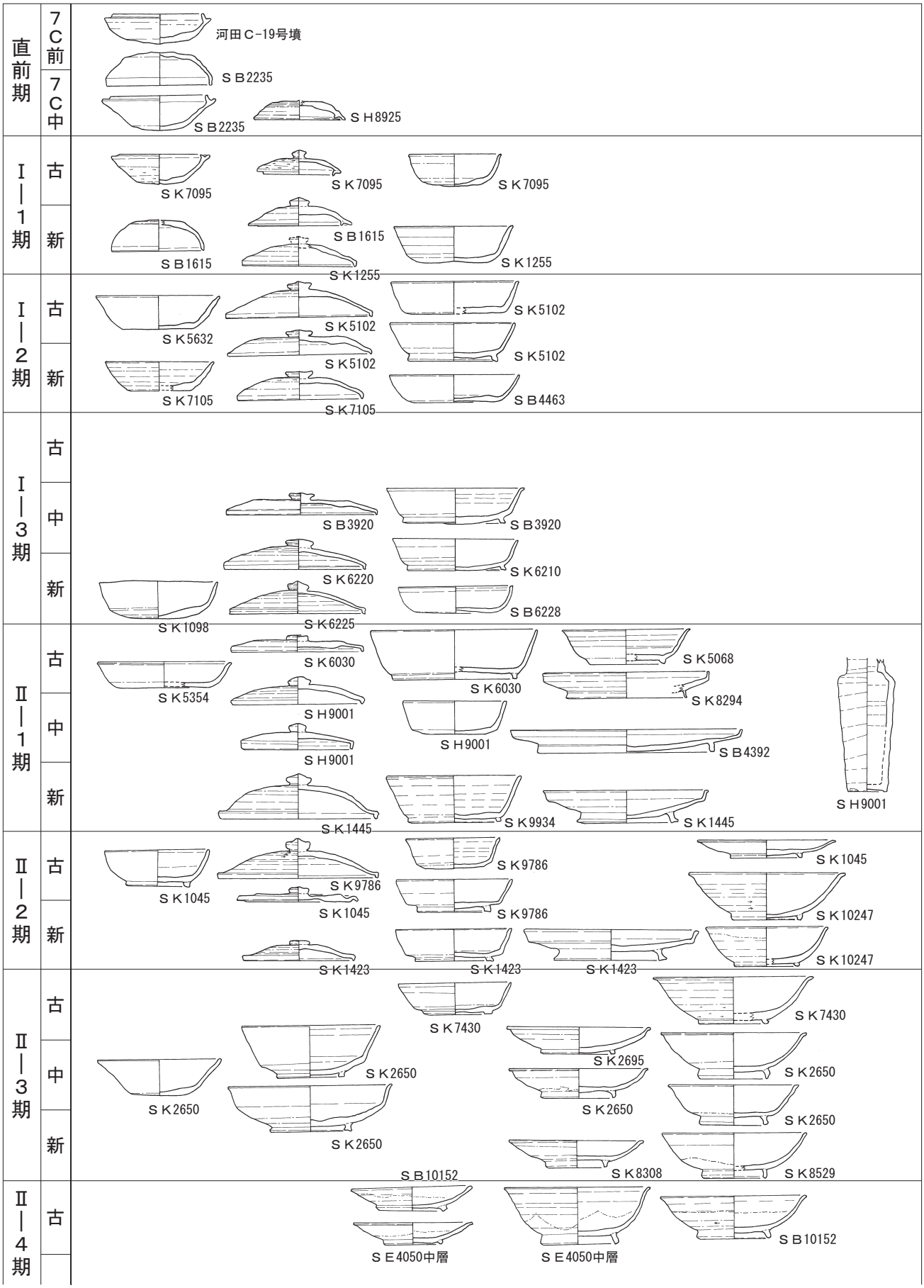
第25図　土師器供膳具の段階と変遷（４）（１：６）



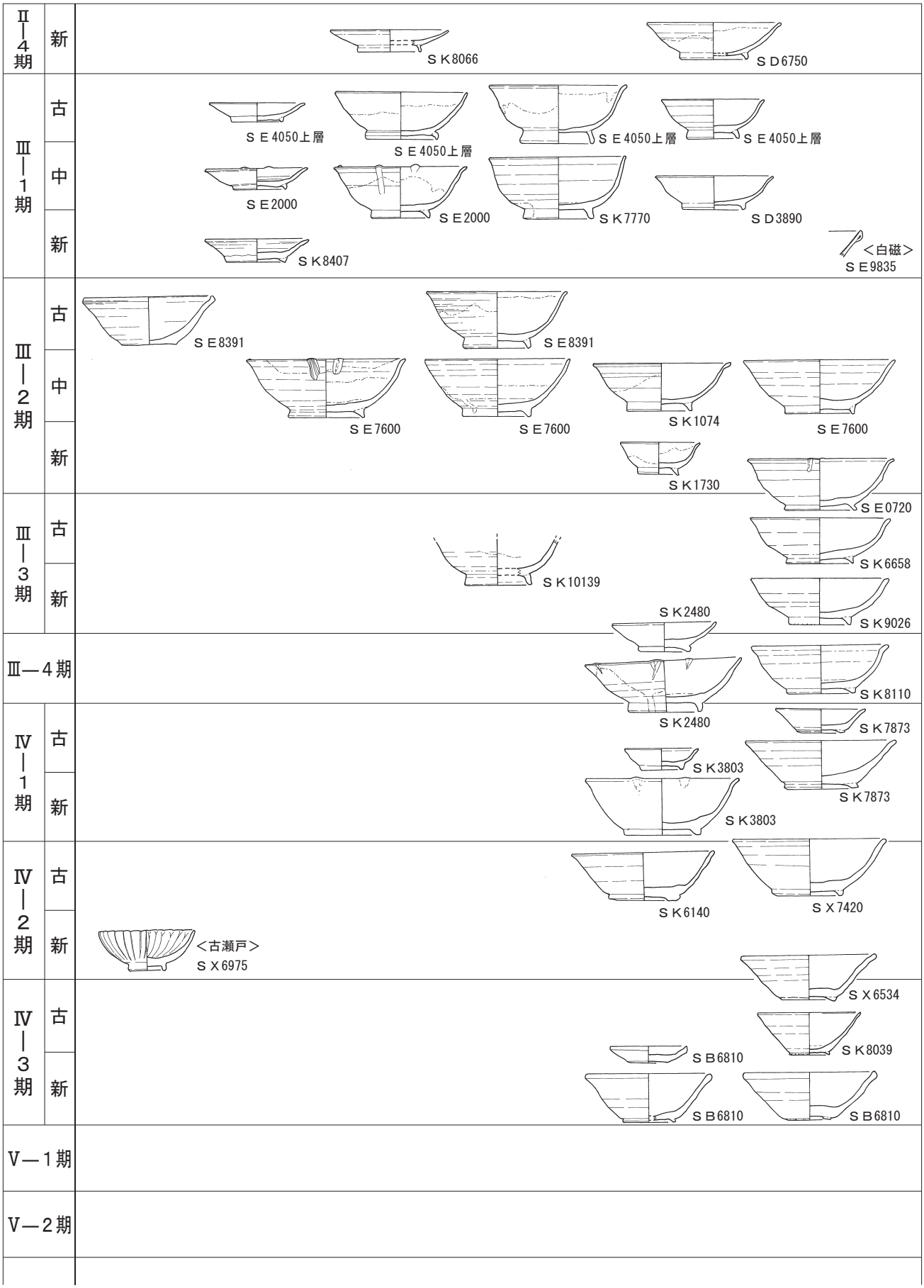
第26図　ロクロ土師器の段階と変遷（１：６）



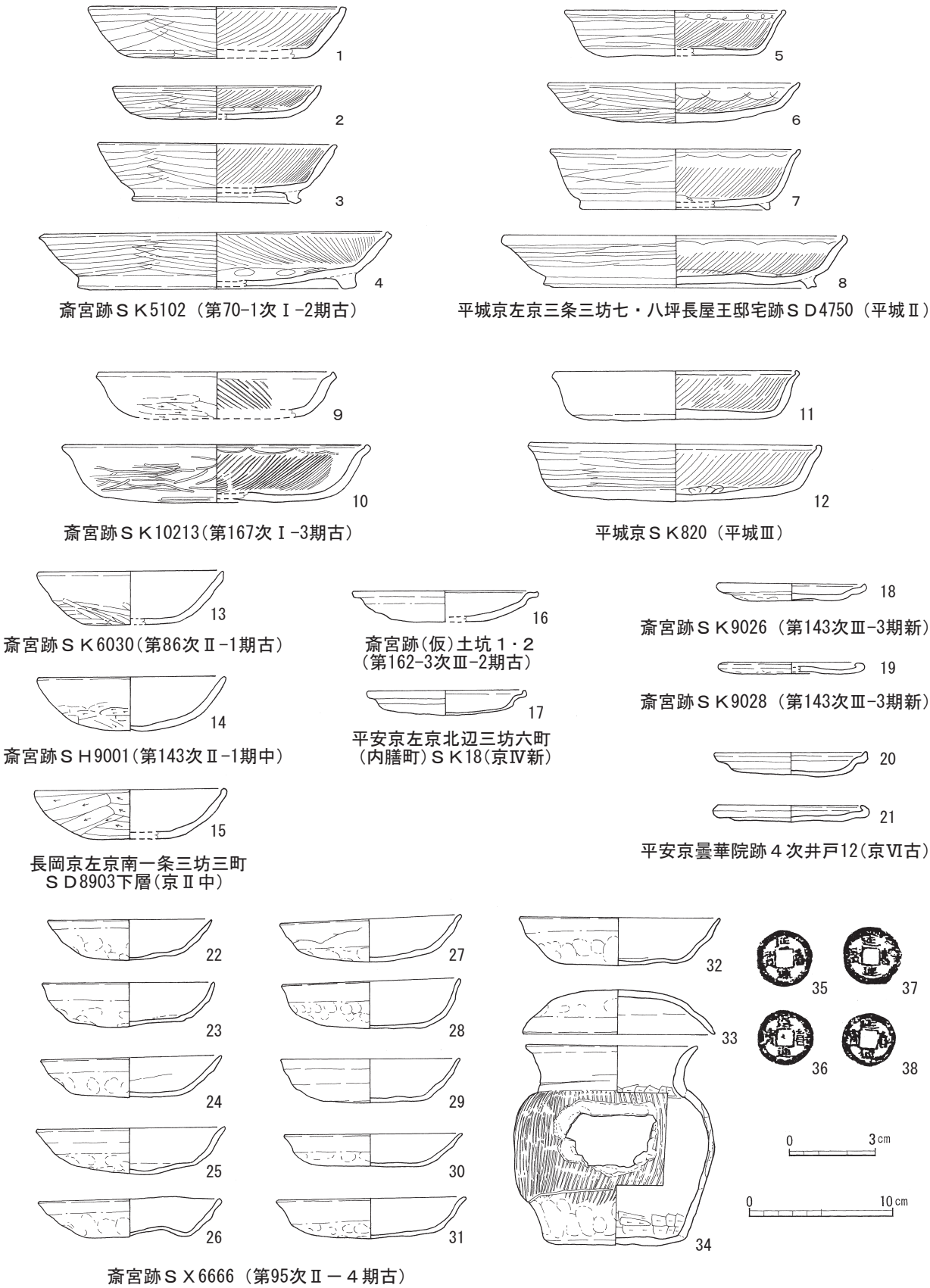
第27図　黒色土器・京都系土師器の段階と変遷（１：６）



第28図　共伴する須恵器・灰釉陶器類（１）（１：６）

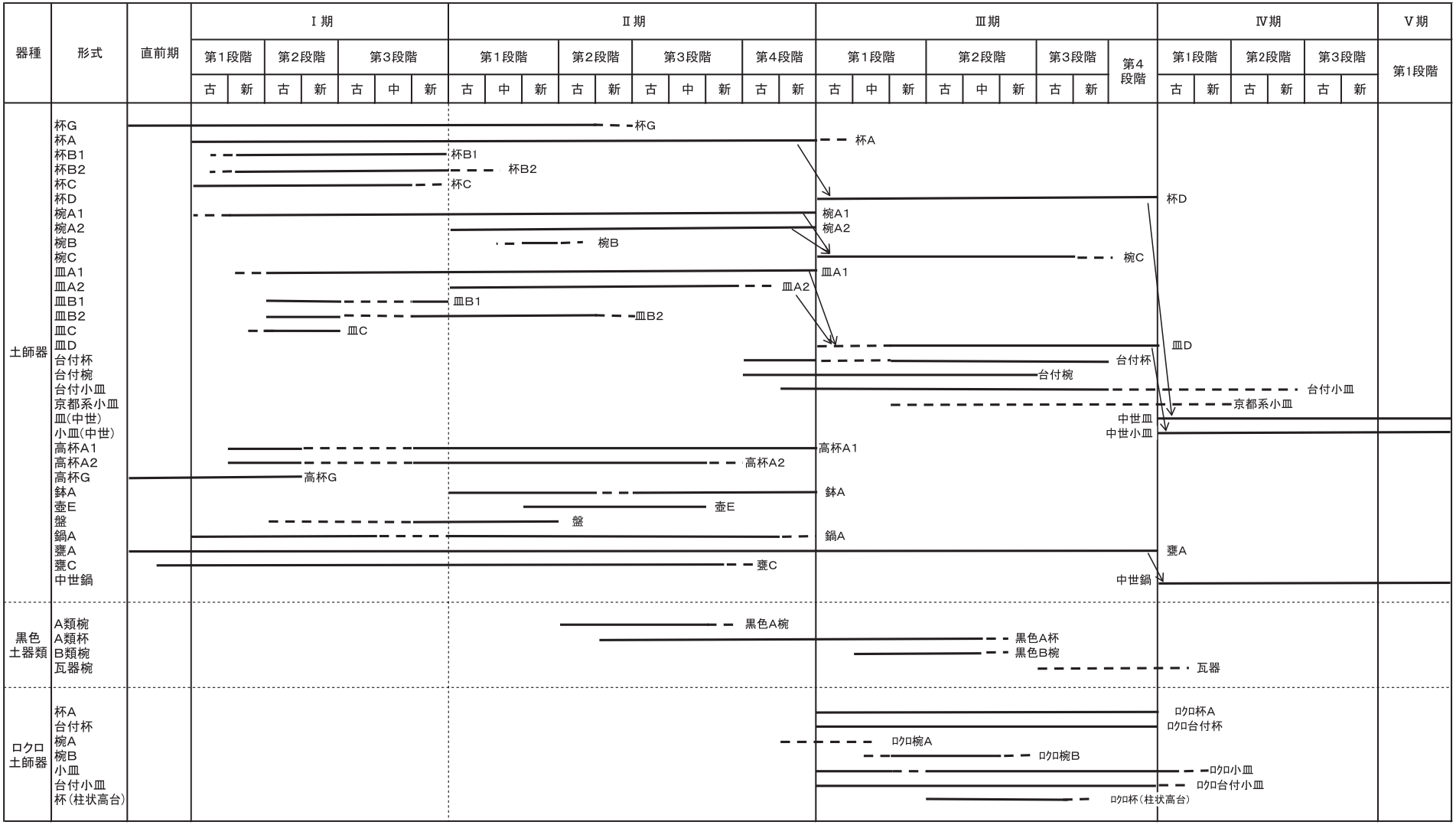


第29図　共伴する須恵器・灰釉陶器類（２）（１：６）

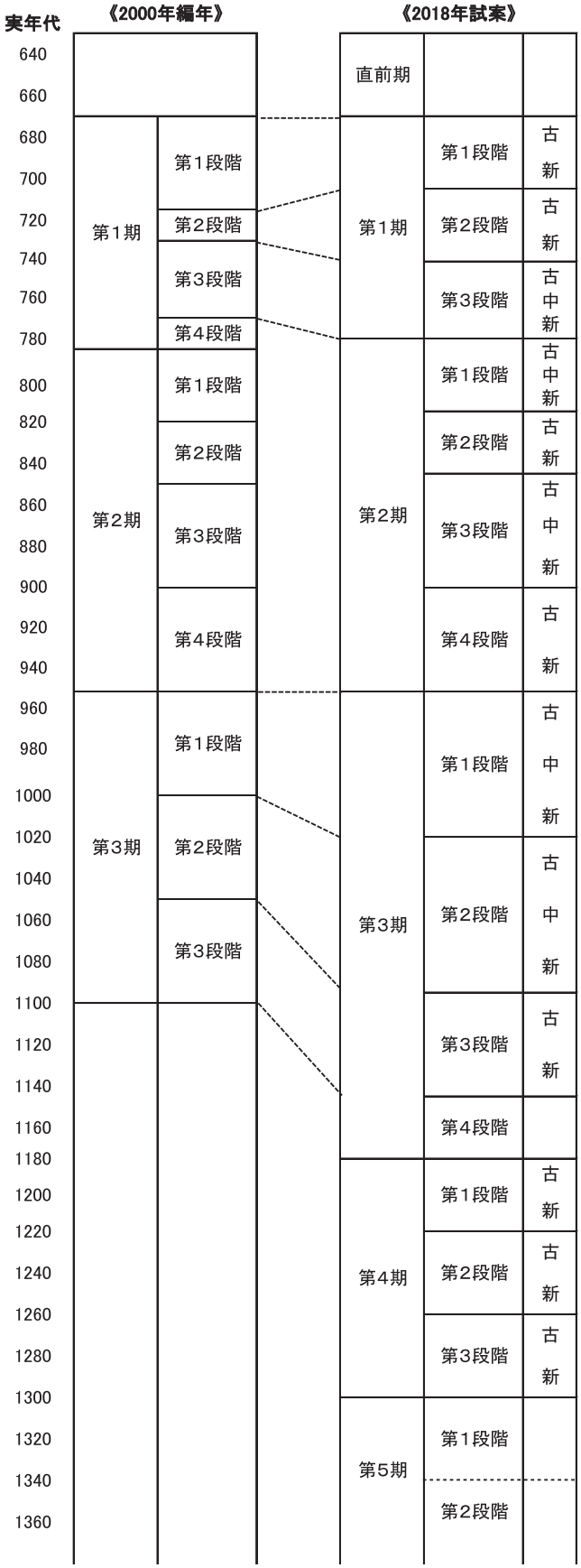


第30図　編年比較資料（１：４　銭貨のみ１：２）　※各報告書等から再トレース

第21表　斎宮跡土師器・黒色土器類・ロクロ土師器の器種消長表



第22表　「2000年編年」と今回試案の比較



（５）斎宮跡第Ⅳ～Ⅴ期の土器

杯Ｄ・皿Ｄが中世で通有となる皿・小皿に、甕Ａが南伊勢系鍋に変化し、これに山茶椀を加えたものが基本的な構成になる。このⅣ期以降は、山茶椀や、斎宮近辺で生産された南伊勢系土師器鍋の編年研究が進んでおり、これらは比較的生産から消費のサイクルが短いと考えられることから、これらの編年研究も参考に段階設定をした。

Ⅳ－１期の古相には、ＳＫ7873(118次)で第５形式の尾張型山茶椀を、新相ではＳＫ3803(53-14次)で渥美系山茶椀の２ａ形式が共伴していることから、Ⅳ－１期を12世紀末から13世紀第１四半期に位置づけられる。杯Ｄの後裔である中世化した皿は、ＳＫ7873(118次)・8010(118次)・9826(153次)、ＳＥ8010(118次)・9014(143次)、ＳＤ4495(68次)で、口径12～17.5㎝の幅を持つが、その中でも14～15㎝に分布の中心がある(約71%)。径高指数0.20で、全体のプロポーションはまだⅢ－４期の杯Ｄに近い。

Ⅳ－２期は、皿・小皿は器形に変化が乏しく、ＳＫ9035(143次)・10114(159次)、ＳＸ6533(93次)・6652(95次)、ＳＤ9652(155-5次)で、口径11.5～15㎝となり、口径の分布はⅣ－１期に比べてバラつきが大きくなるとみられるものの、径高指数0.20と変わらない。口径15㎝程度のやや大型品と11㎝台のものが混在し、Ⅳ－１～３期の過渡的な様相とみることもできる。Ⅳ－２期の良好な資料は、現時点では中世墓からの一括資料以外は少ないことも関係するかもしれない。これは、鎌倉期に入り、亀山天皇の愷子内親王が文永九(1272)年に退下して以降、斎王がこの地に群行していない事とも無関係ではないだろう。Ⅳ－２期には、全般的に第６型式の山茶椀が共伴する他、比較的古相とみられるＳＫ9035(143次)に龍

泉窯系の青磁椀が、新相のＳＸ6975(101次)には第１段階ｂ型式の南伊勢系鍋と、灰釉を施した古瀬戸とみられる菊花椀が共伴する。ＳＤ9652(155-5次)からも皿・小皿に伴って第１段階ｂ型式の南伊勢系鍋が多数出土している。

Ⅳ－３期も良好な一括資料は中世墓からのものが目立つ。ＳＫ3414(54次)・8039(123-6次)、ＳＸ6976(101次)では、皿の口径が10～12㎝と小型化する。そのため、径高指数も0.23と嵩高のプロポーションとなる。全般的に第７型式の山茶椀が共伴するＳＢ6810(71次)、ＳＫ8039(123-6次)などとともに、ＳＸ6976(101次)では、皿・小皿に第２段階ａ型式の南伊勢系鍋が共伴する。こうしたことからⅣ－３期は13世紀後半に位置づけられる。

Ⅴ期は基本的に鎌倉時代末期以後と考えているが、良好な一括資料は少なく、史跡西部の古里地区での出土量が多いようである。Ⅴ－１期としたＳＫ6692(97-1次)は皿・小皿と南伊勢系鍋の第２段階ｃ型式が伴い、13世紀末から14世紀前葉に位置づけられる。皿の口径はすべて11.5㎝前後で、径高指数は0.23である。仮にⅤ－２期としたＳＥ7560(110-2次)の資料は、皿・小皿に第４段階ｂ型式の南伊勢系鍋・羽釜・茶釜を伴い、15世紀中葉前後のものとみられる。皿の口径はすべて８㎝台で、径高指数も0.27と大幅に器高増が進む。ＳＫ6692とＳＥ7560の土器群の間には２～３段階分の時期差があるとみられ、今後の資料の補強と段階設定の整理が必要だろう。

註

(1) 「斎宮跡の土師器」『三重県斎宮跡調査事務所年報1984　史跡斎宮跡発掘調査概報』三重県教育委員会・三重県斎宮跡調査事務所　1985
(2) 駒田利治・倉田直純・泉雄二「第四章　斎宮跡の土器編年」『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館　2001
(3) 「記念シンポジウム"斎宮の土器・みやこの土器"」『斎宮歴史博物館研究紀要十』斎宮歴史博物館　2001
(4) 水橋公恵「光仁・桓武朝の斎宮造営と鍛冶山西地区」『斎宮歴史博物館研究紀要十二』斎宮歴史博物館　2002
(5) 竹内英昭「土師器@斎宮－斎宮で使われた土師器－」『斎宮歴史博物館研究紀要十三』斎宮歴史博物館　2003
(6) 竹内英昭「Ⅱ　第143次調査」『史跡斎宮跡平成16年度発掘調査概報』斎宮歴史博物館　2006
(7) 大川勝宏「斎宮跡における平安期貿易陶磁の基礎的研究」『斎宮歴史博物館研究紀要十九』斎宮歴史博物館　2009
(8) 渡辺博人「斎宮跡出土の美濃須衛窯産須恵器」『斎宮歴史博物館研究紀要十四』斎宮歴史博物館　2005
(9) 前掲(5)
(10) 下村登良男「12 国指定史跡 水池土器製作遺跡」『明和町史 資料編第一巻』自然・考古　2004
(11) 大川勝宏「研究ノート 斎宮跡で出土する瓦鉢類について―斎宮における仏教的要素への視点の形成―」『斎宮歴史博物館研究紀要二十一』斎宮歴史博物館　2013
(12) 前掲(8)
(13) 上村安生「考古資料からみた『続日本紀』天平二年七月癸亥条について」『斎宮歴史博物館研究紀要九』斎宮歴史博物館　2000
(14) 前掲(4)
(15) 既存の報告の中では、第21-1次調査のＳＫ1098、第38次調査のＳＫ2198、第62次調査のＳＫ4130・4152、第63次調査のＳＫ2358、第69次調査のＳＫ4585、第88次調査のＳＫ2798・6210・6220・6225・6226・6227・6228、第111-1次調査のＳＢ7465、第130次調査のＳＤ8299などがⅠ－３期新相にあたると考えている。これらはＳＫ2198のみ史跡西部の古代伊勢道沿いで、あとは全て史跡東部の平安時代の方格地割の範囲内に分布する。その中でも特に方格地割中心部付近のＳＫ1098と第88次調査区内の土坑出土の土器群が圧倒的に大量に出土している。

(16)「Ⅳ　第88次調査」『史跡斎宮跡 平成2年度発掘調査概報』斎宮歴史博物館　1991
(17) 巽淳一郎「奈良時代の瓾・甅・正・由加－大型貯蔵用須恵器の器名考証－」『文化財論叢Ⅱ』奈良国立文化財研究所　1995
(18) 前掲(5)
(19) 猿投窯の桟敷窯から「淳和院」の刻銘のある緑釉陶器焼成用のサヤが見つかっていることや、初期の緑釉陶器が嵯峨院跡・淳和院跡・冷泉院跡から出土していることから、緑釉陶器の生産への「院」の関与が想定されている。本文中掲載のＳＫ2695・7430以外でも、Ⅱ－３期のＳＫ2650(44次)・10230(167次)やＳＤ0337(９－１次)でも、内外面に陰刻花文を施す椀が出土していることや、嵯峨・淳和朝の斎王（仁子・氏子）はいずれも天皇息女であることから、緑釉陶器の斎宮への導入自体は若干遡る可能性はある。
尾野善裕「平安時代における緑釉陶器の生産・流通・消費」『国立歴史民俗博物館研究報告 第92集』 2002 参照
(20) 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』 2014
(21) この他の斎宮での火災記事として下記のものがある。
・承和六(839)年　度会斎宮で百宇焼亡（『類聚国史』）
・貞観九(867)年　官舎十二宇延焼（『日本三代実録』）
・延喜二十二(922)年　斎宮寮失火（『扶桑略記』）
・長元四(1037)年　寮頭館の禿倉二宇焼失（『太神宮諸雑事記』）
・長暦四(1040)年　蔵部司蔵一宇焼失（『春記』）
(22) 太宰府市教育委員会編『大宰府条坊跡XV―陶磁器分類編―』 2000
(23) 大川勝宏「斎宮方格地割の変遷・画期についての素描」『斎宮歴史博物館研究紀要二十四』斎宮歴史博物館 2015
(24) 後三条・白河・後白河は息女を斎王としている。
『特別展　中世の斎宮―斎王と中世王権―』斎宮歴史博物館　1997
(25) 前掲(6)

参考文献

都城や東海地方の須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器の編年研究の成果については、下記の文献を参考にした。

・小森俊寛『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７～19世紀－』京都編集工房 2005
・古代の土器研究会編『古代の土器Ⅰ　都城の土器集成』 1992
・愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 窯業１ 古代 猿投系』愛知県　2015
・愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 窯業２ 中世・近世瀬戸系』愛知県　2007
・愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 窯業３ 中世・近世 常滑系』愛知県　2012
・東海土器研究会『須恵器生産の出現から消滅 猿投窯・湖西窯編年の再構築』 2000
・豊田市教育委員会『来姓古窯跡群－10世紀～13世紀の窯跡 灰釉陶器・緑釉陶器・山茶碗－』 2008

第４章　遺物編総括

第１節　出土土器群からみる柳原区画

第２章の第１・２節や、既刊の概要報告から柳原区画の出土遺物について概観してみたい。

土器類は、時期的にはⅡ－１期古相からⅣ－１～２期まで切れ目なくみられるが、特にⅡ－１～２期は全体量だけでなく、一遺構からの出土量も多い。代表的な遺構として第20次調査のＳＫ1045(Ⅱ－２期)、第143次調査のＳＨ9001(Ⅱ－１期)、第152次調査のＳＫ9785(Ⅱ―１期)・9786(Ⅱ－２期)がある。これらの遺構からの出土土類器は、他地区の同時期の一括資料に比べて須恵器と灰釉陶器の割合が高いことはすでに第２章でふれた。また、土師器が98～99％を占めるような他の一括資料は、土師器も杯Ａ・皿Ａ等に偏る傾向があるのに比べ、ＳＨ9001を除いて杯Ｂや椀Ｂ・高杯・蓋といった多彩な土師器を含んでいるという特徴がある。これらの遺構出土の須恵器・灰釉陶器の主体はいずれも杯・椀・皿等の供膳具であり甕類や壺類は極めて少ない。これらのことから、この土器群は祭祀というよりも饗応のような場での土器の大量使用を反映したものではないかと考えられる。

一方、Ⅱ－３～４期は、既存の報告を含めても土器の出土量が減少する。また、遺構出土のものも細片が多くなり、Ⅱ－１～２期の廃棄土坑の様相とは異なる。「内院」牛葉東区画や鍛冶山西区画では、Ⅱ－３～４期の土器が大量に出土しているのとは対照的である。遺構変遷の画期でいうと、柳原区画のＣ期からＥ期に相当するが、四面庇付建物を正殿とする、「寮庁」としての機能はＢ期から継続しつつも、Ｄ期には建物の棟方向が、正方位からＮ２°Ｅと大きく変化する。これは柳原区画だけでなく、東接する西加座南区画や西接する御館区画と一体となった変化であり、斎宮の建物配置に大きな変革期があったと考えられる。Ｅ期は２つの小期に分けているが、その間、建物の重複関係から正殿が無かった時期が想定される。このような遺構変遷の在り方は、土器群の変化と関連づけられるのではないかと考えられる。

Ⅲ－１～２期の土器も少ないが、これは第３章でも触れたように斎宮全体の傾向でもある。その後、柳原区画ではⅢ－３～４期には土器の出土量の増加がみられるが、第10次調査のＳＫ0555(Ⅲ－４期)、第143次調査のＳＫ9026・9028（Ⅲ－３期）などのように、土師器杯Ｄ・皿Ｄ、高杯あるいは器台にロクロ土師器の供膳具を中心として、これに若干の灰釉陶器椀や無釉陶器椀(山茶椀)を伴う器種構成が多く、また一括で大量に出土する例が多い。また土師器皿には「内院」である牛葉東区画同様、わずかながらも京都系土師器を含む点も注目される。この変化を、第３章でも上皇を頂点とした王権の強化に伴う、院政期の斎宮への財政的な補強の結果ではないかと考えている。柳原区画の遺構の変遷の上でＦ期からＧ期にかけての段階に相当するが、それでもＧ期には、区画中央の正殿に相当する５間×２間の東西棟ＳＢ9753は残るものの、その他の建物は、区画南部に、南辺区画道路に向いた東西棟がみられるのみになっていく。Ⅳ－１期以降は、わずかに土器類は出土するが、遺構は確認されておらず、斎宮の施設としての柳原区画は終焉を迎える。Ⅲ－３期～４期にかけての土器群は、歴史的には、院政期の斎宮再興の反映であるとともに、柳原区画が衰退・廃絶していく中で大量に廃棄された一括資料でもある。

第２節　柳原区画を特徴づける遺物からみた柳原区画の性格

第２章の第３節でみた、柳原区画の性格を反映する可能性のある出土遺物を整理すると次のような特徴がうかがわれる。

①高級陶磁器類では、緑釉陶器は方格地割内の他区画に比べて量的に多くはなく、質的にも大きな特徴がない。しかし、貿易陶磁は９～11世紀の越州窯系青磁や白磁に優品が比較的みられる。また、ＳＫ1045出土の須恵器鍑のような特殊品も出土している。

②硯類の出土数が方格地割内の他区画と比べて少ない。

③方格地割内における近隣の区画と比べ、小型模造品などの祭祀的な性格を帯びた出土品が少ない。

④官司名を墨書・刻書したとみられる土器がほとんどない。

⑤金属製品そのものの出土量は決して多くないが、鞴羽口や炉壁、真土など金属加工に関連した遺物が出土している。

柳原区画の性格については、すでに『遺構編』で、方格地割造営期のＡ期(本書でのⅠ－３期新相からⅡ－１期古相)は、区画全体を区画溝により均等に四分割し、倉庫とみられる建物や井戸をそれぞれ配置した曹司的な性格を持つと考えている。そして、Ｂ期(Ⅱ－1～２期)からＧ期(Ⅲ－３～４期)にかけては区画の正殿となる四面庇付建物等を中心に、斎宮寮の儀礼と饗応を行った「寮庁」としての機能するようになったと考えている。上記の①②④の特徴から「外院」と呼ばれた実務的な官衙域とは一線を画すものであることがうかがえる。③からは神部司や、『延喜斎宮式』に記載される忌火・庭火祭や竈神祭との関係は薄いと考えられる。このように、柳原区画は遺構だけでなく出土遺物の上でも他の区画からの一定の優位性を示すとともに、実務官衙とも異なる性格が表れているといえよう。斎宮跡において、方格地割の一区画の性格について、遺構の検討と出土遺物の検討を整合させられた、現段階では数少ない事例ともいえるだろう。

斎宮跡、とりわけ平安時代を中心とした方格地割内の機能とその変遷については、「内院」の解明などを中心に、調査研究が進められてきたところであるが、全体像の解明にはまだまだ道半ばと言える。そして、発掘調査の継続とともに、今回のように未報告資料の整理と検討もまた、新たな発掘調査に匹敵する成果をもたらすだろう。700年近くにわたって存続し、古代から中世にかけての国家の神祇政策や伊勢地方への関与を知ることができる全国で唯一の性格を持つ斎宮跡の歴史・文化的価値をつまびらかにし、さらに高めていく上で、斎宮跡の調査研究という歴史的事業が今後も継続していく必要性が痛感される。

参考文献

・大川勝宏「斎宮と方格地割」『律令国家と斎宮』ニューサイエンス社　2016
・大川勝宏「斎宮跡の祭祀と出土遺物」『三重県史 資料編 考古２』三重県　2008
・榎村寛之「斎王と斎宮」『律令国家と斎宮』ニューサイエンス社　2016

PL１　柳原区画出土遺物（１）

PL２　柳原区画出土遺物（２）

130

285

136

287

139

304

157

308

158

364

PL３　柳原区画出土遺物（３）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	さいくうあとはっくつちょうさほうこく　に
書　　名	斎宮跡発掘調査報告Ⅱ
副 書 名	柳原区画の調査　出土遺物編
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	大川勝宏
編 集 機 関	斎宮歴史博物館
所 在 地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL0596-52-7027
発行年月日	西暦　2019年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
斎宮跡	多気郡明和町 斎宮・竹川	24442	210	34°31′55″ ～ 34°32′30″	136°36′16″ ～ 136°37′37″	197403 ～ 20100909	約12,000 ㎡	学術調査 ほか

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡 柳原区画	官　衙	奈良～平安	掘立柱建物 土坑・溝 道路跡	土師器　須恵器 緑釉陶器　灰釉陶器 貿易陶磁　金属製品	方格地割中央部の 柳原区画の総括

要　約

史跡整備事業の実施にあたり、事業計画地である史跡東部方格地割の柳原区画で実施した昭和49年度から平成22年度までの調査成果(出土遺物)の総括を行った。

柳原区画は、平安時代に入り、区画中央に四面庇付建物が何度も建替えられており、前面の空閑地(「ニワ」)とあわせて、平安時代を通した斎宮の政治的・儀礼的空間であったと考えられ、「寮庁」の一画であったと判断されるようになった。

また、これまでの発掘調査の総括として、斎宮跡出土の土器編年の再検討を行った。

斎宮跡発掘調査報告Ⅱ

柳原区画の調査
出土遺物編

2019年３月

編集・発行　斎宮歴史博物館

印　　刷　共立印刷株式会社